

資料編

目次

I 高齢者に関する状況等	1
1 高齢化の状況	
2 平均寿命の推移	
3 要介護認定の状況	
4 後期高齢者の生活の状況	
II 本県の医療費の動向	6
III 本県の国民健康保険（市町国保）医療費の動向	10
1 本県の国民健康保険医療費	
2 県内市町、二次医療圏の国民健康保険医療費の状況	
IV 本県の後期高齢者医療費の動向	18
1 本県の後期高齢者医療費	
2 県内市町、二次医療圏の後期高齢者医療費の状況	
V 国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータにみる 本県の医療費の状況	26
1 年齢階層別医療費状況	
2 1人当たり医療費	
3 入院医療費の状況	
4 入院外医療費の状況	
5 入院＋入院外医療費の状況	
6 疾病別医療費の状況	
VI 生活習慣病の状況	44
1 本県の生活習慣病に係る医療費の状況	
2 受療動向	
3 死亡率	
4 メタボリックシンドローム および糖尿病、高血圧症、脂質異常症の状況	

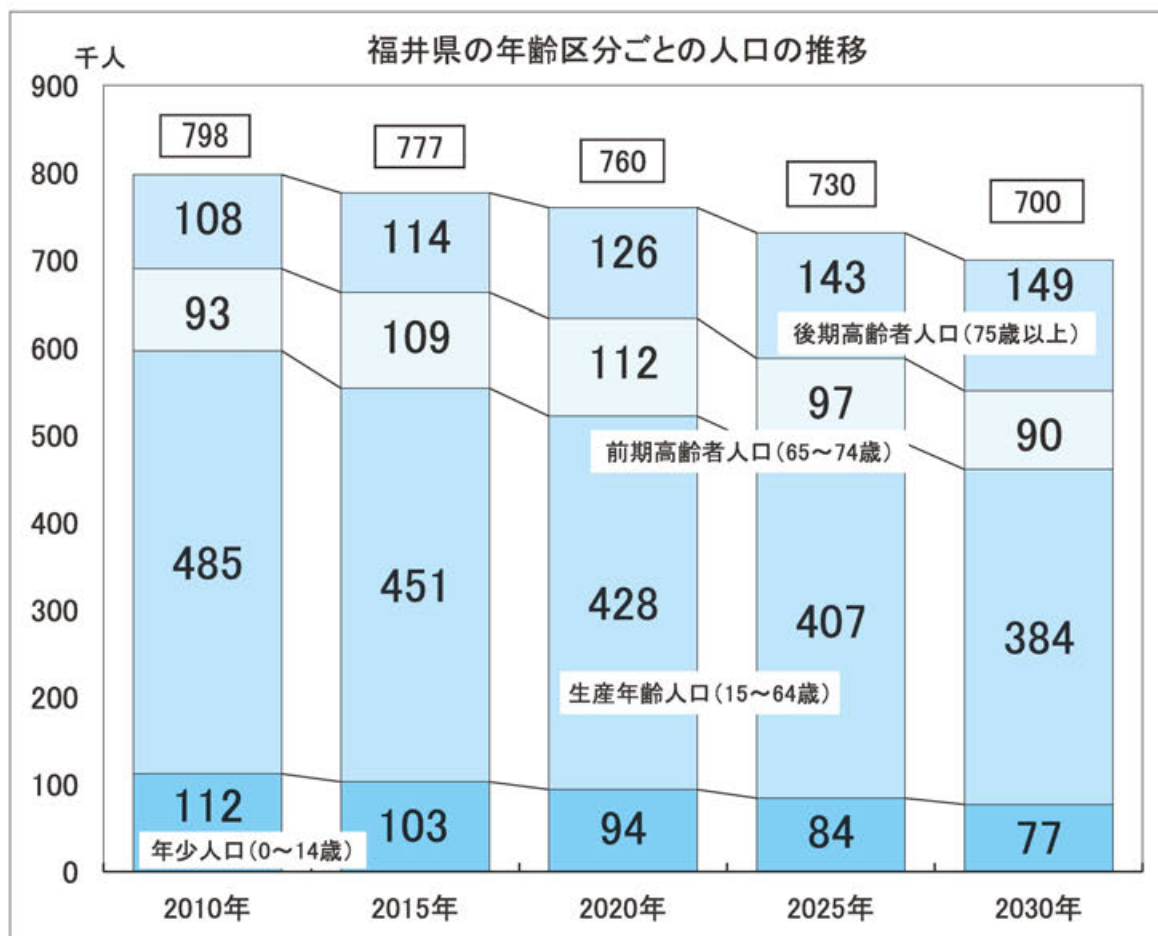
Ⅶ 本県の被用者保険（協会けんぽ）医療費の動向	55
1 本県の被用者保険医療費	
2 県内市町、二次医療圏の被用者保険医療費の状況	
3 年齢階層別医療費状況	
4 1人当たり医療費	
5 入院医療費の状況	
6 入院外医療費の状況	
7 入院＋入院外医療費の状況	
8 疾病別医療費の状況	
Ⅷ 県民の生活習慣の状況	83
1 食生活の状況	
2 運動の状況	
3 喫煙の状況	
4 歯の健康の状況	
Ⅸ 特定健康診査および特定保健指導の状況	88
X 調剤医療費の状況	90
1 1人当たり調剤医療費	
2 処方せん1枚当たり調剤医療費	
3 後発医薬品の使用割合	
4 後発医薬品（入院）切替効果額	
5 後発医薬品（入院外）切替効果額	
XI 重複投与および多剤投与の状況	95
XII 重複受診および頻回受診の状況	99
XIII 平均在院日数の状況	101
計画策定の経過、計画策定懇話会委員名簿	105

I 高齢者に関する状況等

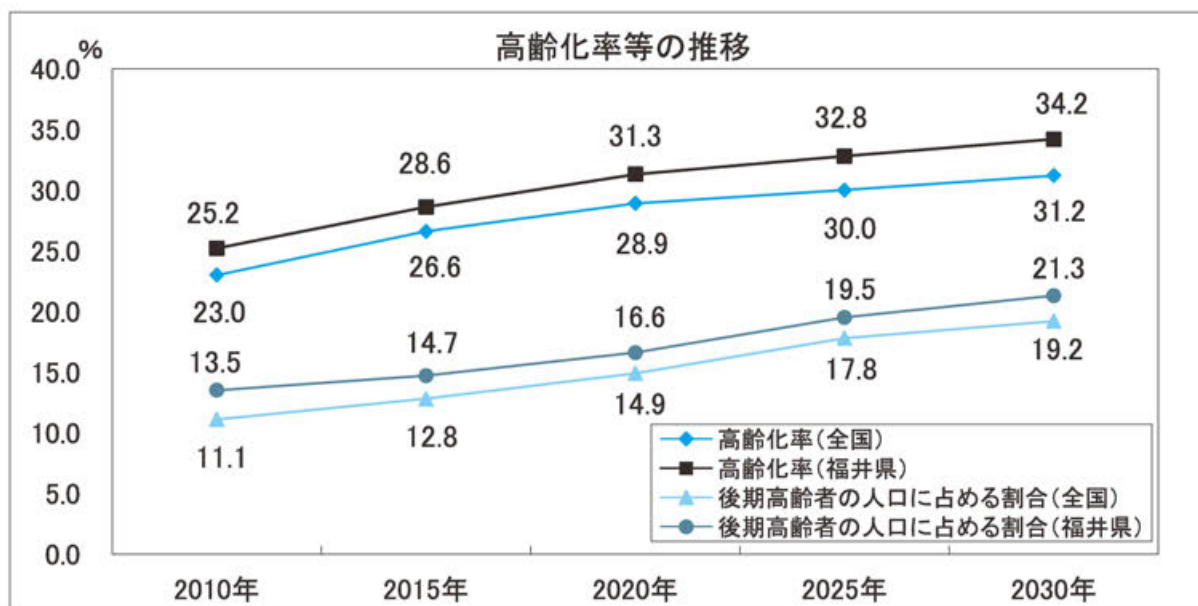
1 高齢化の状況

本県の人口は、2012（平成24）年8月、1982（昭和57）年7月以来30年ぶりに80万人を割り、その後も減少傾向にあります。65歳以上の高齢者人口について、2015（平成27）年には約22万人（高齢化率：28.6% 全国25位）となっており、2030年には約24万人（高齢化率：34.2%）に増加すると見込まれています。

また、後期高齢者（75歳以上）でみると、2015（平成27）年は65歳以上の高齢者の半数である約11万4千人で人口の14.7%（全国22位）ですが、2030年には約14万9千人に増加し、21.3%を占める見込みです。



出典：総務省「国勢調査」（平成22年、平成27年）
 （年齢階層別の集計に当たり、年齢不詳の数は除く。）
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

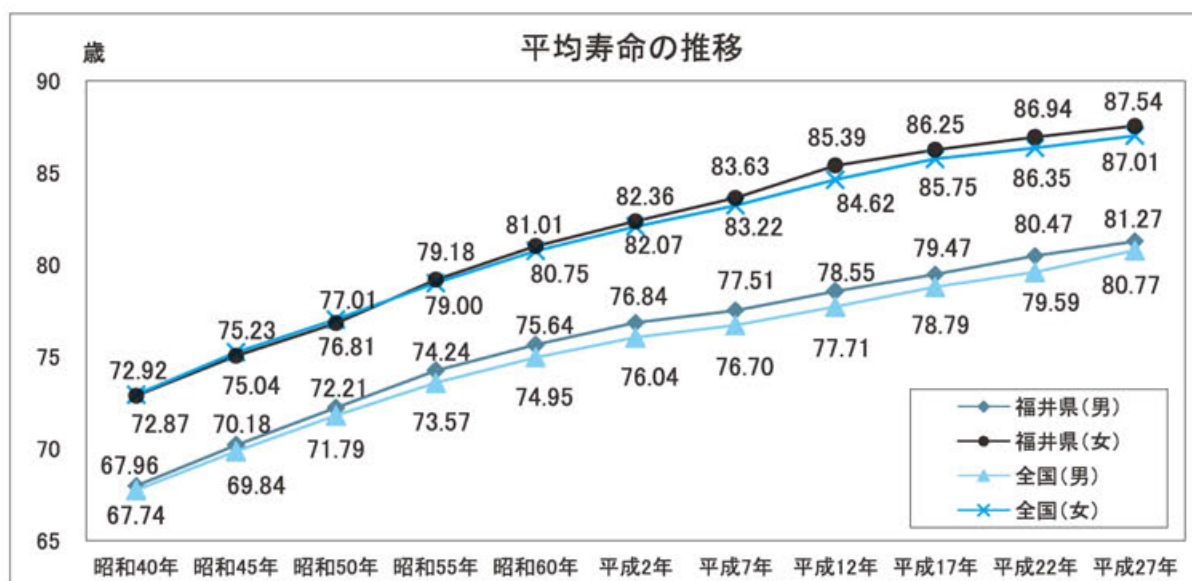


出典：総務省「国勢調査」（平成 22 年、平成 27 年）
 （年齢階層別の集計に当たり、年齢不詳の数は除く。）
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 25 年 3 月推計）

2 平均寿命の推移

本県の平均寿命（出生時における平均余命）は、2005（平成 17）年は男性が 79.47 歳で全国 4 位、女性が 86.25 歳で全国 11 位でしたが、2015（平成 27）年は男性が 81.27 歳で全国 6 位、女性が 87.54 歳で全国 5 位となっており、全国上位を維持しています。

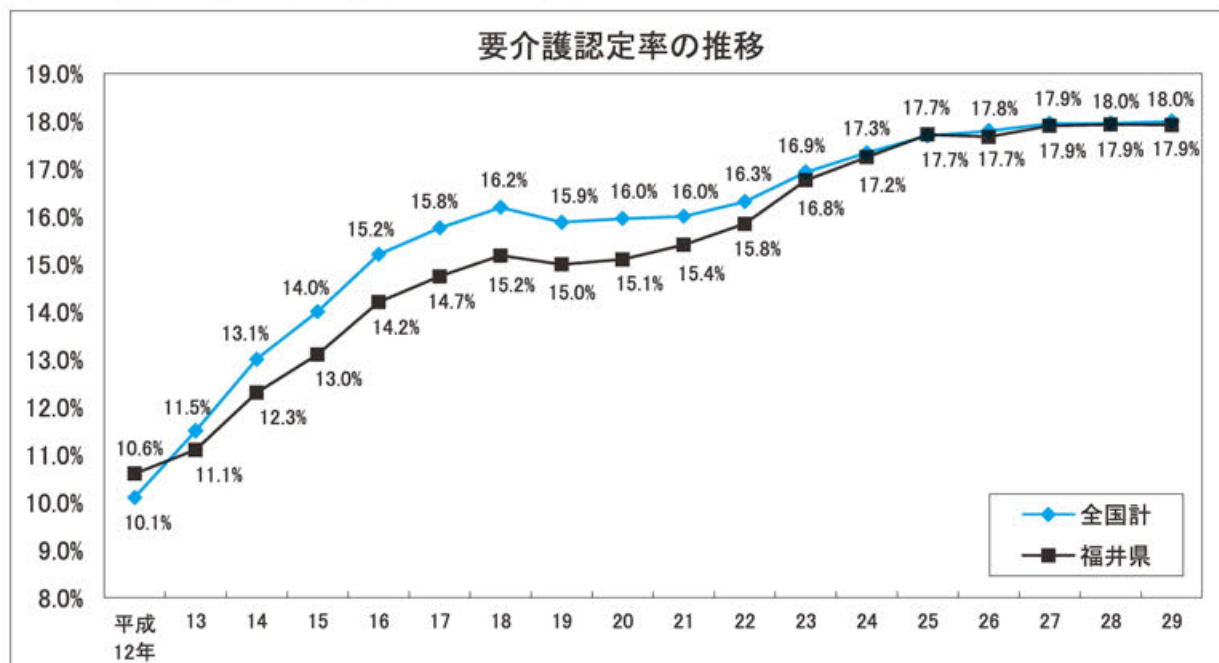
なお、全国の平均寿命は男性が 80.77 歳、女性 87.01 歳と 2010（平成 22）年より男性が 1.18 歳、女性が 0.66 歳延びています。



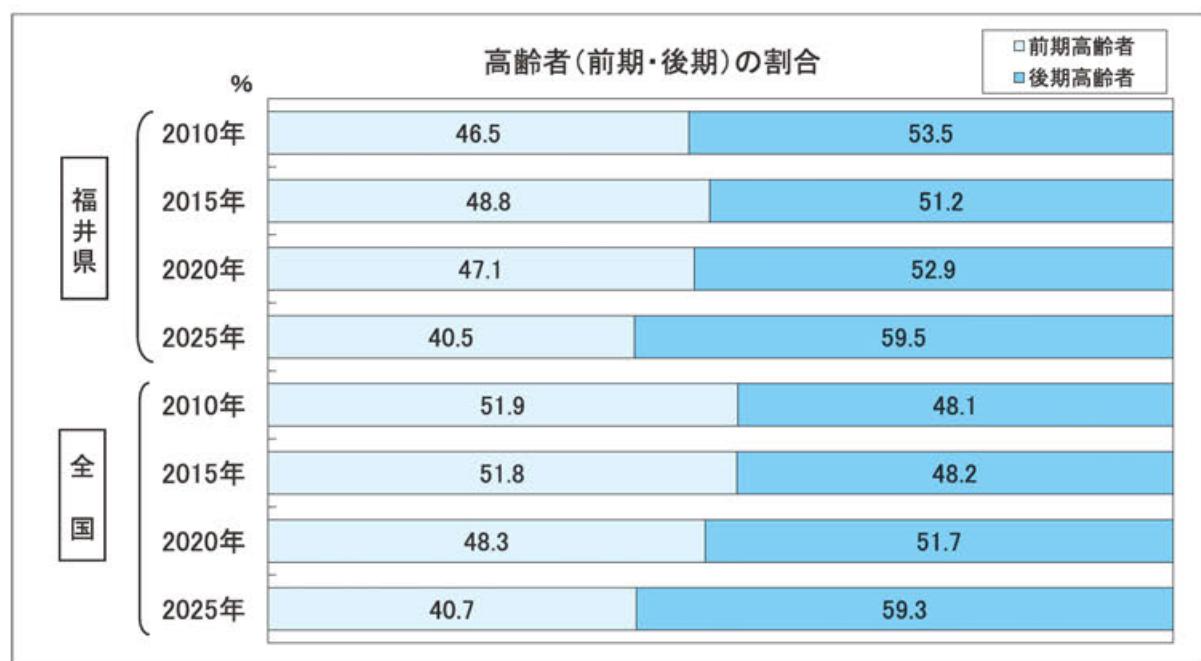
出典：厚生労働省「平成 27 年都道府県別生命表」

3 要介護認定の状況

本県の 65 歳以上の高齢者に占める要介護（支援）認定者の割合は、2007（平成 19）年を除き、増加傾向にあります。2017（平成 29）年の本県の要介護認定率は、17.9%（全国 31 位）と、全国平均の 18.0%を 0.1 ポイント下回っていますが、2006（平成 18）年では全国平均を 1 ポイント下回っていたことから、本県の要介護認定率は全国との差が小さくなっています。



出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年 4 月 30 日現在）



出典：総務省「国勢調査」（平成 22 年、平成 27 年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 25 年 3 月推計）

4 後期高齢者の生活の状況

(1) 世帯の状況

① 一人暮らし後期高齢者の割合

2015（平成 27）年国勢調査の結果によると、本県の一人暮らし後期高齢者数は約 1 万 5 千人となっており、前回調査から約 3,000 人増加しています。一方、後期高齢者に占める割合は 13.4%（全国 43 位）となっており、本県の後期高齢者の多くが家族と同居しています。

◆ 一人暮らし後期高齢者数の状況

	一人暮らし後期高齢者数（人）			後期高齢者に占める割合（%）		
	男性	女性	計	男性	女性	計
福井県	3,674	11,537	15,211	8.5	16.3	13.4 (43 位)
全 国	757,991	2,442,953	3,200,944	12.1	24.7	19.8

出典：総務省「平成 27 年国勢調査」

② 一般世帯に占める一人暮らし後期高齢者世帯の割合

本県の一般世帯（278,990 世帯）に占める一人暮らし後期高齢者世帯の割合は、2015（平成 27）年で 5.5%と全国平均より低くなっていますが、2010（平成 22）年から 1.0 ポイント増加し、今後も増加傾向が続くと予測されています。

◆ 一般世帯に占める一人暮らし後期高齢者世帯の割合（%）

	2010 年	2015 年	2020 年	2025 年
福井県	4.5	5.5	6.3	7.5
全 国	5.0	6.0	7.2	8.5

出典：総務省「国勢調査」（平成 22 年、平成 27 年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」（平成 26 年 4 月推計）

③ 三世代世帯の割合等

三世代世帯の割合は全国 2 位と高くなっており、共働き率も全国一高くなっています。

◆ 世帯の状況

	一般世帯の 平均人員（人）	三世代世帯割合（%）	共働き率（%）
福井県	2.8（2 位）	14.9（2 位）	58.6（1 位）
全 国	2.3	5.7	47.6

出典：総務省「平成 27 年国勢調査」

(2) 後期高齢者の就業の状況

本県の後期高齢者の2015（平成27）年の就業者数は11,828人となっており、全就業者数の3.0%を占めています。

なお、後期高齢者の人口に占める就業者割合は10.4%（全国18位）であり、全国平均の9.8%に比べ0.6ポイント高くなっています。

◆ 後期高齢者の就業者割合

		就業者数 (人)	全就業者に占める 後期高齢者就業者 割合 (%)	後期高齢者人口に 占める就業者割合 (%)
福 井 県	2015 年 (平成 27 年)	11,828	3.0	10.4 (18 位)
	男 性	7,196	3.3	16.7
	女 性	4,632	2.6	6.6
全 国	2015 年 (平成 27 年)	1,585,958	2.7	9.8
	男 性	948,281	2.9	15.2
	女 性	637,677	2.5	6.5

出典：総務省「平成27年国勢調査」

《参考》65歳以上の就業者割合

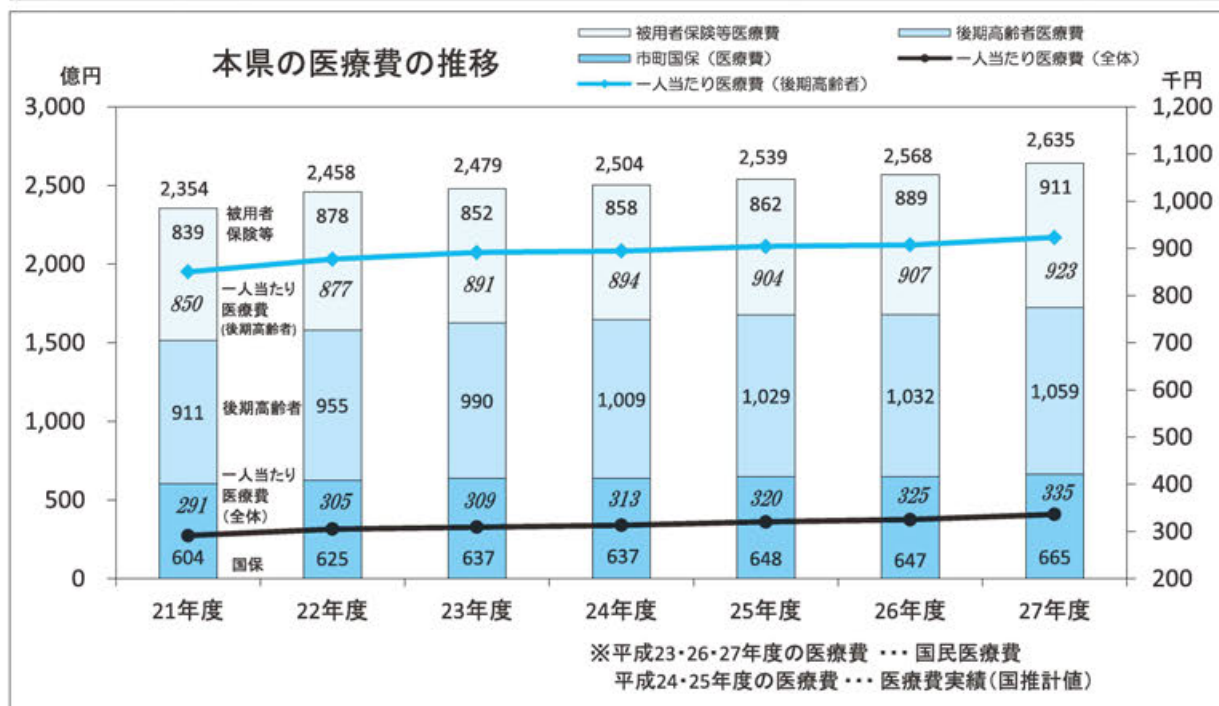
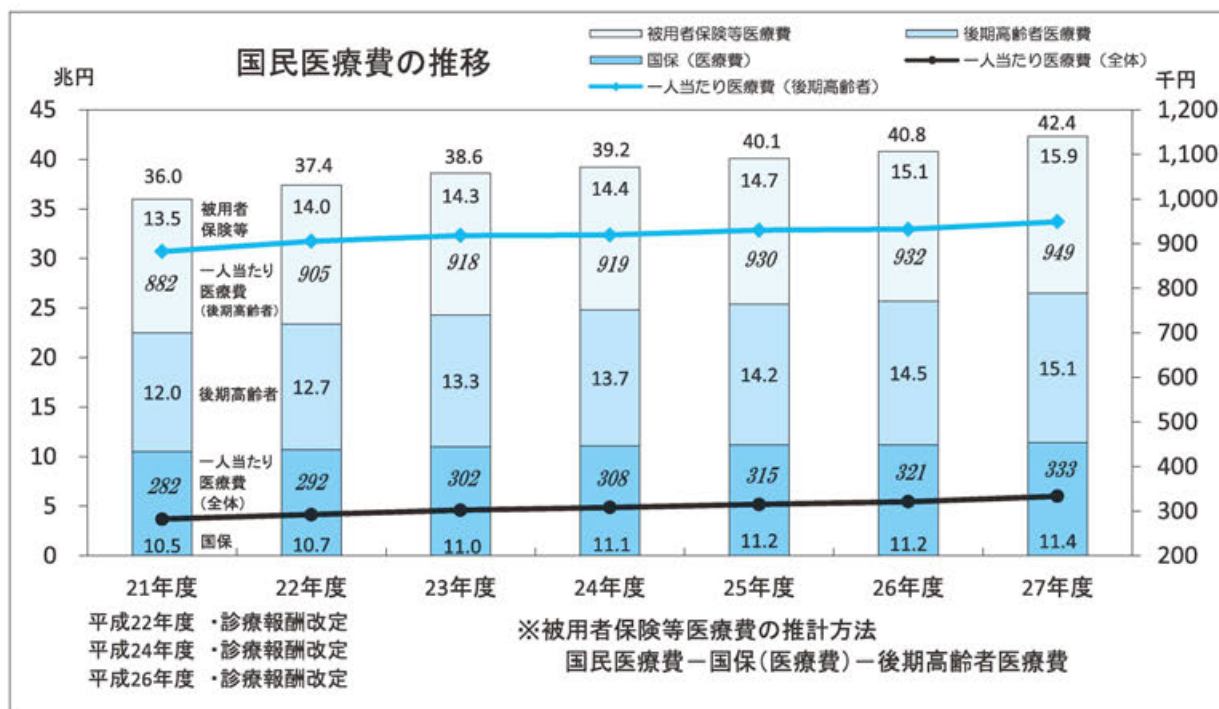
		就業者数 (人)	全就業者に占める 65歳以上就業者 割合 (%)	65歳以上人口に 占める就業者割合 (%)
福 井 県	2015 年 (平成 27 年)	56,807	14.2	25.5 (4 位)
	男 性	33,753	15.5	35.3
	女 性	23,054	12.7	18.2
全 国	2015 年 (平成 27 年)	7,525,579	12.8	22.5
	男 性	4,509,653	13.6	31.1
	女 性	3,015,926	11.7	15.9

出典：総務省「平成27年国勢調査」

Ⅱ 本県の医療費の動向

国民医療費は、オプジーボ等の高額薬剤の影響等もあり、2015（平成 27）年度では約 42.4 兆円、前年と比べて約 1.6 兆円、3.8%の増加となっています。

一方、本県の医療費については、2015（平成 27）年度は約 2,635 億円、前年度と比べ約 67 億円、2.6%の増加となっています。また、一人当たり医療費は 3.0%増の 334.8 千円(全国 27 位)となっており、全国平均の 333.3 千円を上回っています。

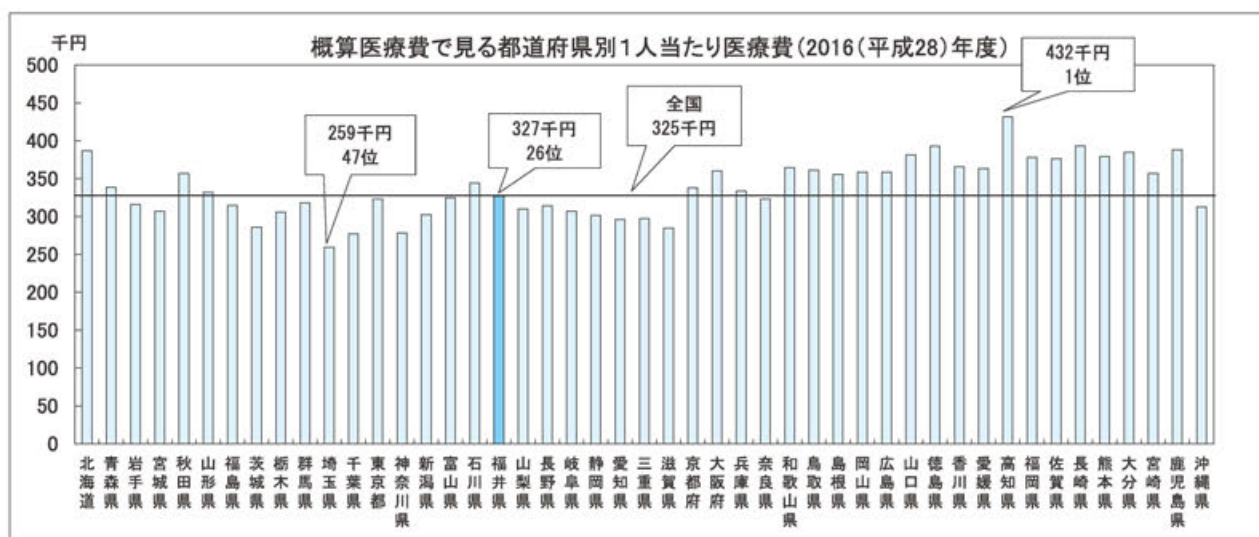


出典：厚生労働省「国民医療費」、「概算医療費」、「国民健康保険事業状況報告」、「後期高齢者医療事業年報」
総務省「国勢調査」、「人口推計」

また、2016（平成 28）年度の概算医療費では、本県の一人当たり医療費は 2015（平成 27）年度から 0.2%増の約 327 千円（全国 26 位）となっており、全国平均の約 325 千円を上回っています。

《参考》2016（平成 28）年度概算医療費の状況

総医療費	合計	1 人当たり医療費
福井県	2,557 億円	326,970 円
全 国	41.3 兆円	325,262 円

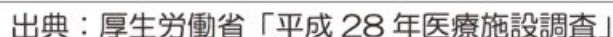
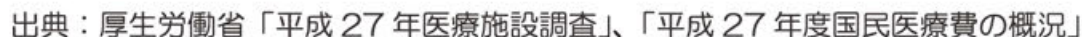


出典：厚生労働省「概算医療費」
総務省「人口推計」

注 国民医療費は、その年度内の医療機関等における保険診療の対象となり得る傷病の治療に要した費用の推計であり、費用とは、医療保険などによる給付のほか、公費負担、患者負担によって支払われた医療費を合算したものであるのに対し、概算医療費は、審査支払機関で処理される医療費を集計したもので、はり・きゅう、保険証忘れ等による全額自費による支払い分等の現金で給付される医療給付費は含まれない。

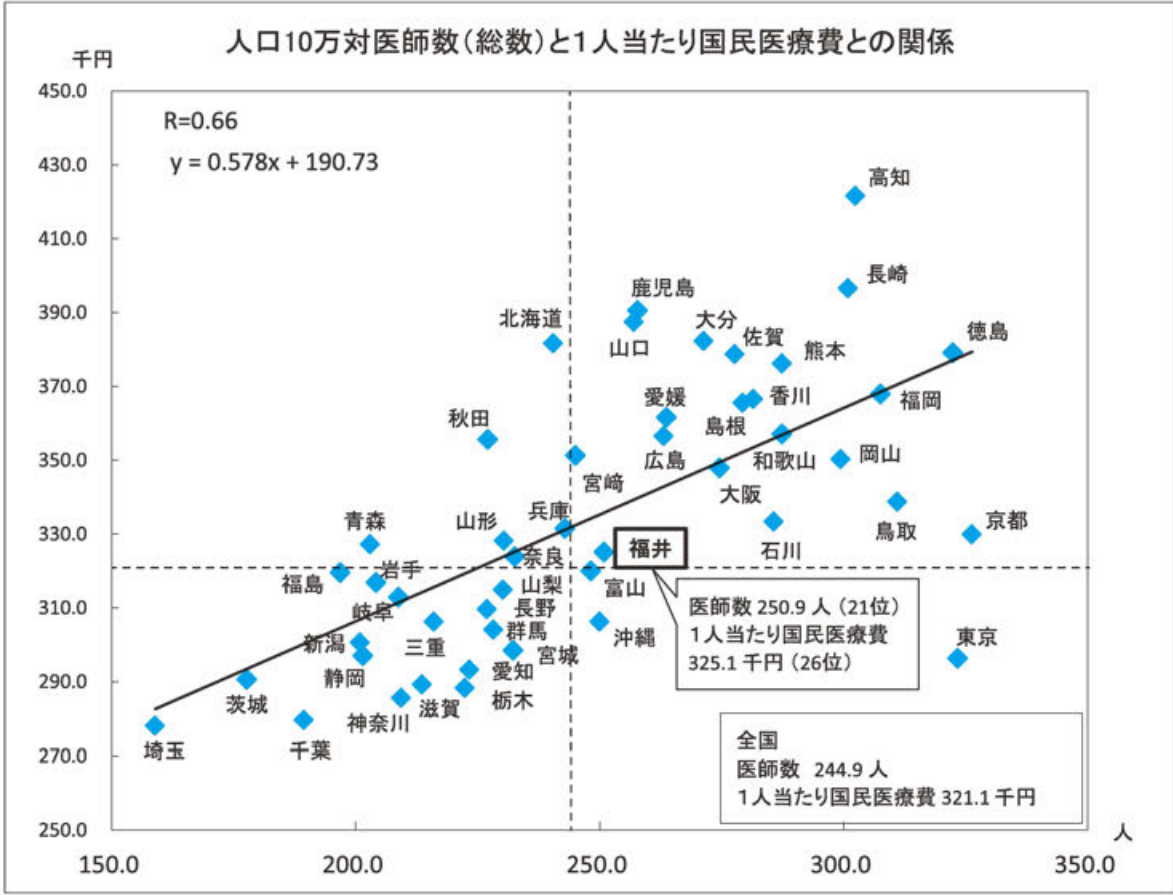
また、国民医療費の都道府県別医療費は患者の住所地ごとに集計を行っており、概算医療費の都道府県別医療費は患者が受診した医療機関所在地ごとに集計を行っている。

人口 10 万対病床数をみると、首都圏や東海地方では病床数が少なく、九州や四国地方で病床数が多くなっています。



さらに、人口 10 万対医師数（総数）と 1 人当たり国民医療費との間にも相関関係がみられます。本県は、医師数、1 人当たり国民医療費ともにも全国平均を上回っています。

病床数と医師数、国民医療費との関係において、医療供給（医療提供体制）が医療費の地域差に大きな影響を与えているといえます。



出典：厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」
「平成 26 年度国民医療費の概況」

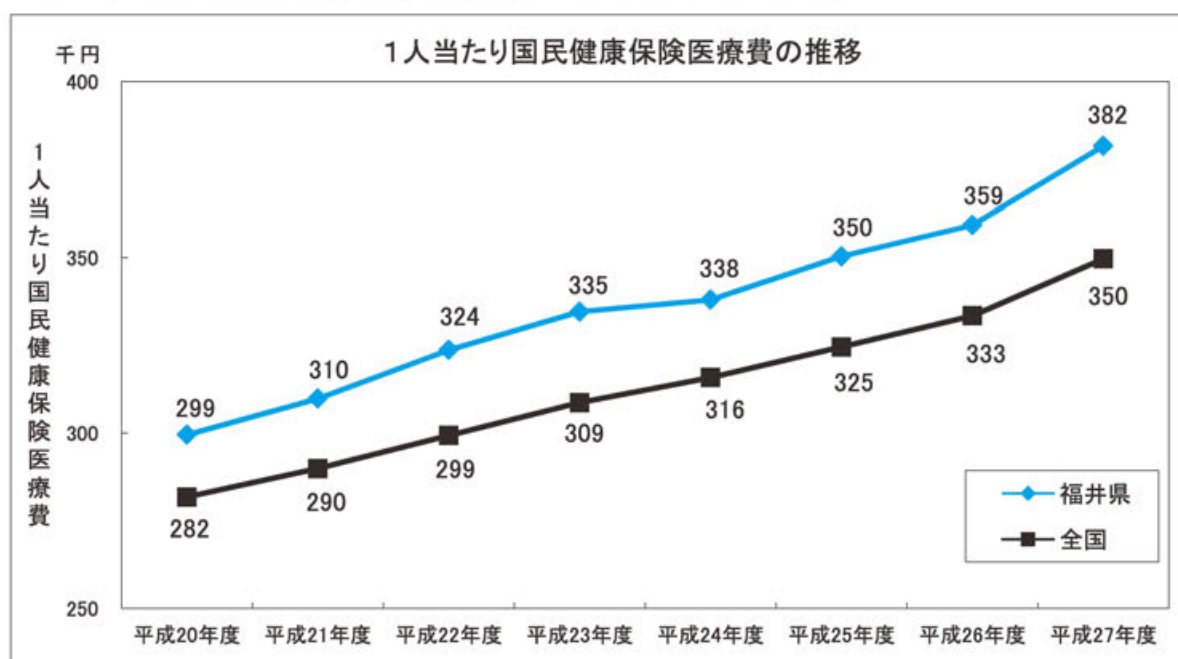
Ⅲ 本県の国民健康保険（市町国保）医療費の動向

1 本県の国民健康保険医療費

本県の2015（平成27）年度の国民健康保険医療費総額は約665億円で、前年度に比べ17億円の増加（対前年度比2.74%増）、総医療費2,635億円の25.2%を占めています。市町国保の被保険者数は2015（平成27）年9月末に173,883人となっており、前年度に比べ5,721人減少（対前年比3.19%減）しています。被保険者に占める前期高齢者（65歳～74歳）の割合が次第に増加（44.4%）しており、年齢構成および医療費水準が高いことが国保の構造的な課題となっています。

（1）1人当たり国民健康保険医療費の推移

本県の1人当たり国民健康保険医療費は増加傾向にあり、2015（平成27）年度は、オプジーボ等の高額薬剤の影響により381,626円（全国17位）となっており、対前年度の伸び率が6.4%と大きくなっています。



出典：厚生労働省「国民健康保険事業年報」

市町村国保の1人当たり国民健康保険医療費の診療種別内訳(全国平均との差)
～2015(平成27)年度～

全国平均との差 (千円)

120

80

40

0

-40

-80

その他

歯科

入院外+調剤

入院+食事・生活療養

1人当たり医療費

福井県 381,626円:17位

全国平均: 349,697円

最高: 島根県 433,675円

最低: 沖縄県 298,165円

1.45倍

島根県 山口県 香川県 大分県 佐賀県 鹿児島県 長崎県 高知県 岡山県 徳島県 石川県 北海道 秋田県 福井県 鳥取県 富山県 宮崎県 京都府 大阪府 山形県 三重県 岩手県 新潟県 滋賀県 宮城県 奈良県 長野県 山梨県 静岡県 神奈川県 青森県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 茨城県 沖縄県

[illegible]

資料編 - 11 -

(2) 年度別国民健康保険医療費の状況

年度別、診療種別に医療費の状況をみると、2012（平成 24）年度と 2014（平成 26）年度は診療報酬改定の影響等により、医療費総計および入院医療費は対前年度伸び率がマイナスとなっていますが、入院外医療費は増加傾向にあり、医療費に占める割合も高くなってきています。

◆ 年度別、診療種別医療費の状況

	2011 年度 (平成 23 年度)		2012 年度 (平成 24 年度)		2013 年度 (平成 25 年度)		2014 年度 (平成 26 年度)		2015 年度 (平成 27 年度)	
	医療費 (百万円)	伸び率 (%)	医療費 (百万円)	伸び率 (%)	医療費 (百万円)	伸び率 (%)	医療費 (百万円)	伸び率 (%)	医療費 (百万円)	伸び率 (%)
	構成比		構成比		構成比		構成比		構成比	
医療費総計	63,743	2.02	63,720	▲ 0.04	64,745	1.61	64,691	▲ 0.08	66,462	2.74
	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
入院＋食事 ・生活療養	26,939	0.79	26,837	▲ 0.38	26,933	0.36	26,785	▲ 0.55	26,945	0.60
	42.3%		42.1%		41.6%		41.4%		40.5%	
入院外 ＋調剤	32,109	3.12	32,159	0.15	33,020	2.68	33,135	0.35	34,836	5.13
	50.4%		50.5%		51.0%		51.2%		52.4%	
歯科	3,628	0.69	3,653	0.69	3,709	1.51	3,682	▲ 0.72	3,594	▲ 2.39
	5.7%		5.7%		5.7%		5.7%		5.4%	
その他 療養費(※)	1,067	5.17	1,071	0.42	1,083	1.12	1,088	0.45	1,087	▲ 0.08
	1.7%		1.7%		1.7%		1.7%		1.6%	

※その他療養費には、訪問看護、出産育児給付、葬祭給付等を含む。

出典：厚生労働省「国民健康保険事業年報」、福井県「国民健康保険事業状況」

(3) 1人当たり国民健康保険医療費（入院）の状況

本県の1人当たり入院医療費の構成要素をみると、1日当たり医療費は全国平均を下回っていますが、レセプト1件当たり日数（以下「1件当たり日数」という。）は全国平均並みであり、受診率は全国平均を約5ポイント上回っています。受診率（病院にかかる頻度）の高さが医療費に影響していると考えられます。

また、1件当たり日数は本県、全国ともに減少傾向を示していますが、1日当たり医療費は増加傾向にあり、在院日数の短縮に伴う影響と考えられます。

◆ 国民健康保険医療費（入院）に関する指標

	年度	1人当たり医療費			1日当たり医療費			1件当たり日数			受診率 (100人当たり受診件数)		
		順位	円	伸び率	順位	円	伸び率	順位	日	伸び率	順位	%	伸び率
福井県	2012	19位	142,366	0.7	27位	31,192	3.8	24位	16.71	-1.4	18位	27.3	-1.6
	2013	20位	145,759	2.4	27位	31,769	1.9	24位	16.63	-0.5	17位	27.6	1.0
	2014	20位	148,752	2.1	25位	32,551	2.5	24位	16.64	0.1	18位	27.5	-0.5
	2015	18位	154,717	4.0	28位	33,112	1.7	23位	16.49	-0.9	16位	28.3	3.2
全 国	2012		120,174	3.2		33,280	3.6		16.18	-1.1		22.3	0.8
	2013		122,780	2.2		33,988	2.1		16.12	-0.4		22.4	0.5
	2014		126,108	2.7		34,797	2.4		15.99	-0.8		22.7	1.1
	2015		130,531	3.5		35,486	2.0		15.89	-0.6		23.1	2.1

出典：厚生労働省「国民健康保険事業年報」

(4) 1人当たり国民健康保険医療費（入院外）の状況

本県の1人当たり入院外医療費の構成要素をみると、1件当たり日数は全国平均並みであり、受診率は全国平均を下回っていますが、1日当たり医療費は全国平均を上回っています。このことが1人当たり入院外医療費の高さ（全国10位）に影響していると考えられます。

また、入院医療費と同様、入院外医療費についても1件当たり日数は本県、全国ともに減少傾向を示していますが、受診率と1日当たり医療費は増加傾向にあり、1人当たり医療費の増加要因となっているといえます。

◆ 国民健康保険医療費（入院外）に関する指標

	年度	1人当たり医療費			1日当たり医療費			1件当たり日数			受診率 (100人当たり受診件数)		
		順位	円	伸び率	順位	円	伸び率	順位	日	伸び率	順位	%	伸び率
福井県	2012	22位	170,599	1.2	25位	12,325	3.9	13位	1.74	-3.1	35位	797.2	0.5
	2013	20位	178,699	4.7	21位	13,049	5.9	13位	1.70	-2.1	36位	805.8	1.1
	2014	19位	184,019	3.0	20位	13,533	3.7	15位	1.67	-2.0	36位	816.7	1.3
	2015	10位	200,030	8.7	12位	14,731	8.9	16位	1.63	-2.0	33位	832.1	1.9
全 国	2012		166,496	1.8		12,292	2.4		1.68	-2.1		808.1	1.5
	2013		172,267	3.5		12,811	4.2		1.65	-1.6		815.2	0.9
	2014		177,088	2.8		13,163	2.7		1.63	-1.2		825.4	1.3
	2015		188,324	6.3		13,958	6.0		1.61	-1.3		838.8	1.6

出典：厚生労働省「国民健康保険事業年報」

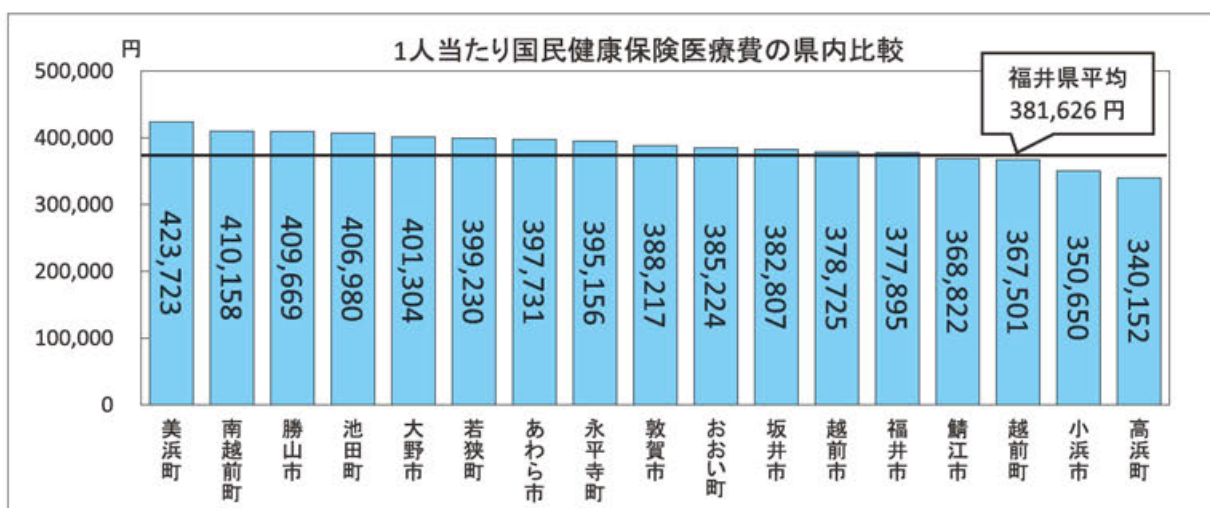
《参考》 国民健康保険医療費 診療諸率について

$1人当たり国保医療費 = \frac{\text{国保医療費}}{\text{日数}} \times \frac{\text{日数}}{\text{件数(延べ患者数)}} \times \frac{\text{件数(延べ患者数)}}{\text{国保被保険者数}}$													
(入院医療費の場合)													
1人当たり国保医療費	=	1日当たり医療費	×	1件当たり日数	×	受診率							
		高い		低い		平均並み						高い	
(入院外医療費の場合)													
1人当たり国保医療費	=	1日当たり医療費	×	1件当たり日数	×	受診率							
		高い		高い		平均並み						低い	

2 県内市町、二次医療圏の国民健康保険医療費の状況

(1) 1人当たり国民健康保険医療費の状況

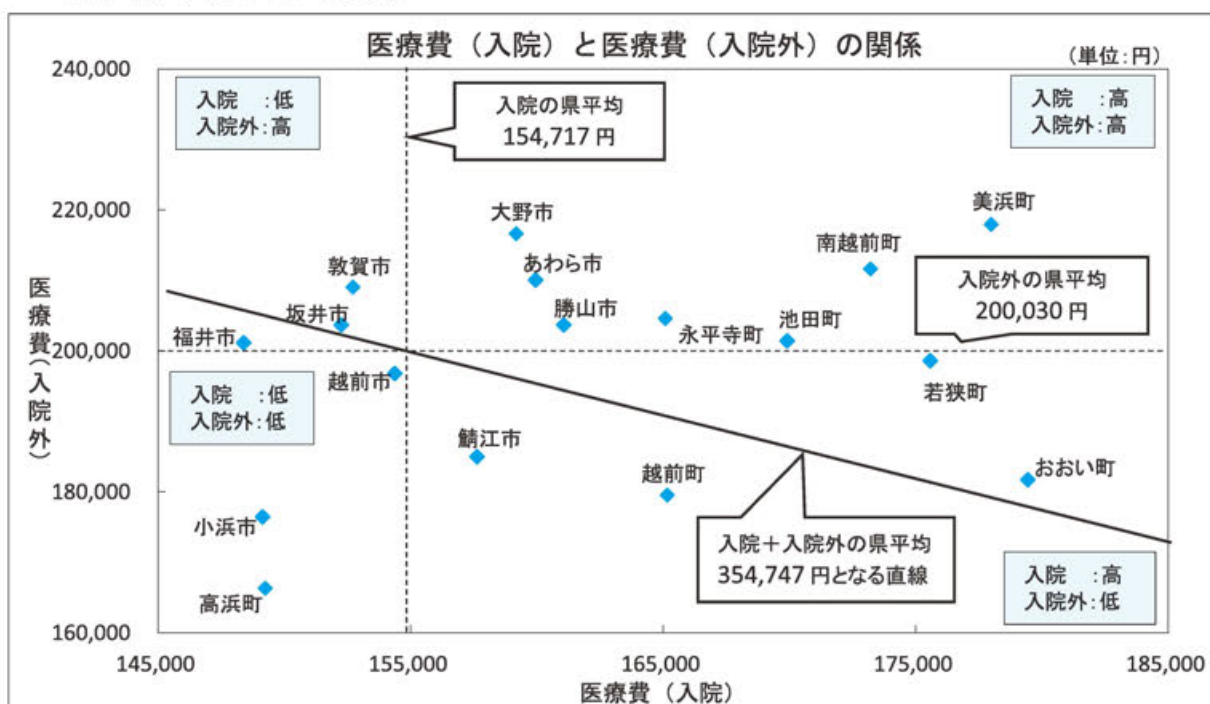
2015（平成 27）年度の県内市町別の 1 人当たり医療費をみると、最高が美浜町の 42 万 4 千円、最低が高浜町の 34 万円であり、その差は 8 万 4 千円となっています。



出典：厚生労働省「平成 27 年度国民健康保険事業年報」、福井県「平成 27 年度国民健康保険事業状況」

(2) 1人当たり国民健康保険医療費の入院と入院外の関係

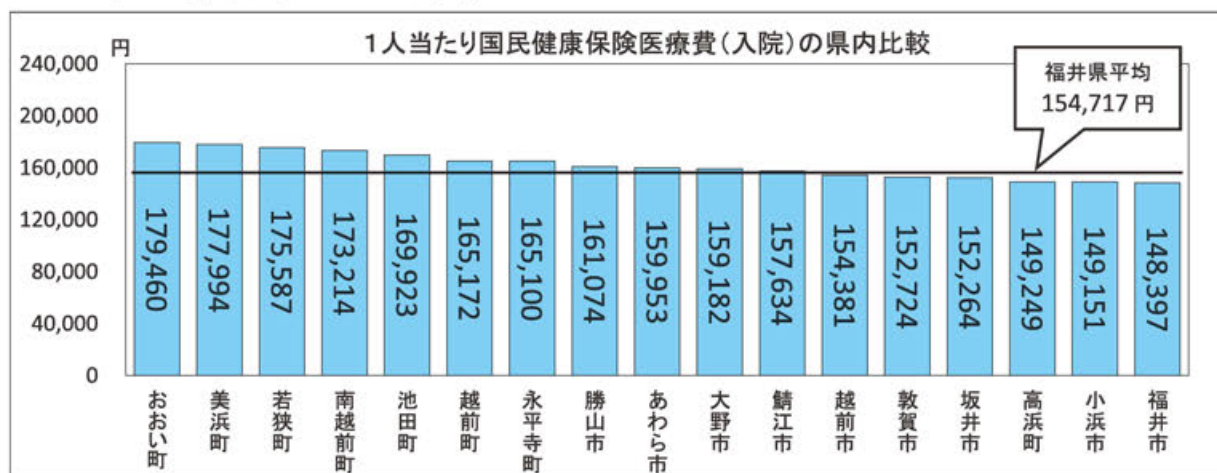
1 人当たりの入院と入院外医療費の関係をみると、美浜町や南越前町などが入院、入院外ともに県平均より高くなっています。一方、高浜町や小浜市などは入院、入院外ともに低くなっています。また、おおい町は入院が高く、入院外が低くなっています。



出典：厚生労働省「平成 27 年度国民健康保険事業年報」、福井県「平成 27 年度国民健康保険事業状況」

(3) 1人当たり国民健康保険医療費（入院）の状況

1人当たり入院医療費では、最高がおおい町の17万9千円、最低が福井市の14万9千円となっています。



出典：厚生労働省「平成27年度国民健康保険事業年報」、福井県「平成27年度国民健康保険事業状況」

1人当たり入院医療費を二次医療圏別にみると、4医療圏とも全国平均を上回っています。医療圏ごとでは、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高くなっていますが、1件当たり日数および受診率が県平均を下回っていることから1人当たり医療費が県内で最も低くなっています。
- 奥越医療圏は、1件当たり日数が県内で最も短くなっていますが、受診率と1日当たり医療費が県平均を上回っていることから1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も低くなっていますが、1件当たり日数および受診率が県内で最も高くなっています。
- 嶺南医療圏は、1日当たり医療費が県全体を下回っていますが、1件当たり日数および受診率が県全体を上回っています。

◆ 国民健康保険医療費（入院）に関する指標

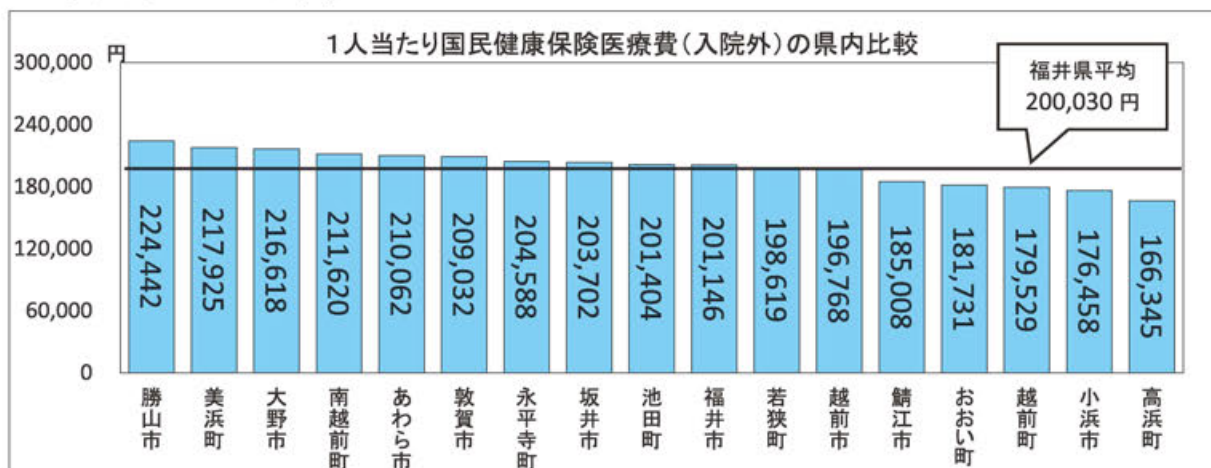
医療圏	1人当たり医療費	1日当たり医療費	1件当たり日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	150,933	35,283	15.80	27.07
奥越	159,947	35,125	15.67	29.05
丹南	158,279	30,449	17.48	29.73
嶺南	157,688	31,140	17.17	29.49
福井県	154,717	33,112	16.49	28.33
全国	130,531	35,486	15.89	23.14

※ 太字は4医療圏で最も高い数値。以下同じ。

出典：厚生労働省「平成27年度国民健康保険事業年報」、福井県「平成27年度国民健康保険事業状況」

(4) 1人当たり国民健康保険医療費（入院外）の状況

入院外医療費では、最高が勝山市の22万4千円、最低が高浜町の16万6千円となっています。



出典：厚生労働省「平成27年度国民健康保険事業年報」、福井県「平成27年度国民健康保険事業状況」

1人当たり入院外医療費を二次医療圏別にみると、4医療圏とも全国平均を上回っています。医療圏ごとでは、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も低くなっていますが、1件当たり日数および受診率が県平均を上回っています。
- 奥越医療圏は、1日当たり医療費が県平均を下回っていますが、1件当たり日数が県内で最も多く、受診率も県平均を上回っていることから1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高くなっていますが、1件当たり日数および受診率が県内で最も低いことから1人当たり医療費が県内で最も低くなっています。
- 嶺南医療圏は、1日当たり医療費が県平均を上回っていますが、1件当たり日数および受診率が県平均を下回っています。

◆ 国民健康保険医療費（入院外）に関する指標

医療圏	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	202,572	14,063	1.67	860.85
奥越	219,780	14,593	1.78	845.47
丹南	191,232	15,776	1.55	783.78
嶺南	196,442	15,469	1.56	814.10
福井県	200,030	14,731	1.63	832.11
全国	188,324	13,958	1.61	838.81

出典：厚生労働省「平成27年度国民健康保険事業年報」、福井県「平成27年度国民健康保険事業状況」

IV 本県の後期高齢者医療費の動向

1 本県の後期高齢者医療費

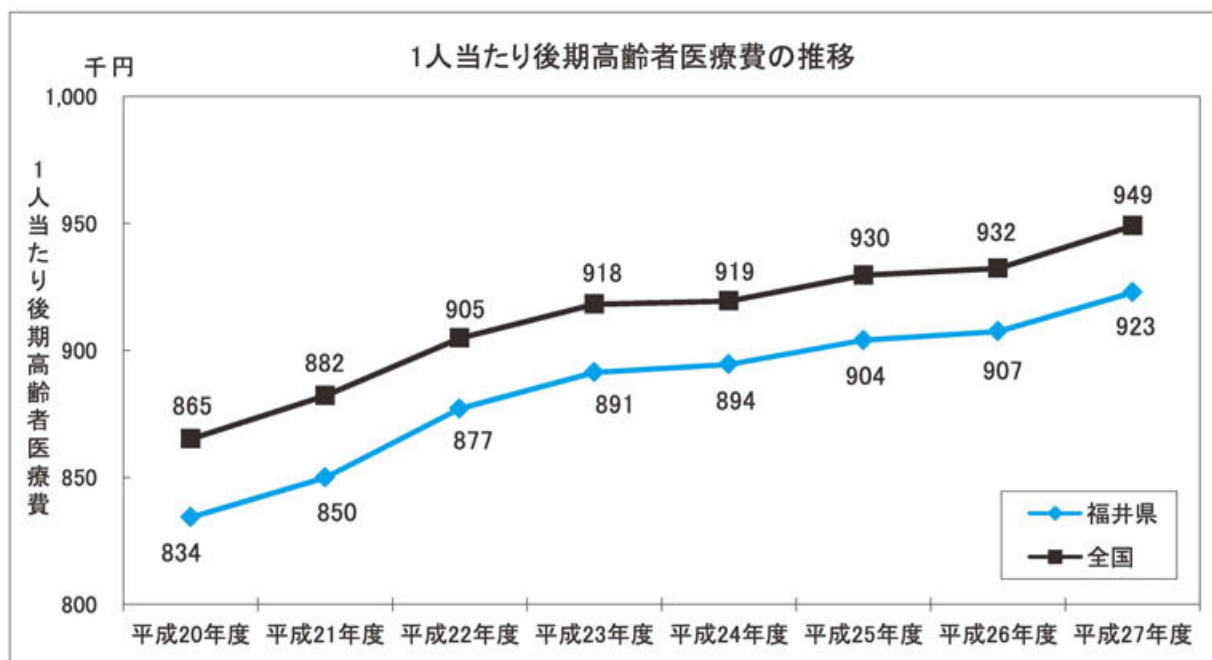
本県の2015（平成27）年度の後期高齢者医療費総額は約1,059億円であり、前年度に比べ27億円の増加（2.62%増）、総医療費2,635億円の40.2%を占めています。全国の割合35.7%と比べると、本県は後期高齢者医療費の占める割合が高くなっています。

後期高齢者医療制度

2002（平成14）年10月の制度改正により老人医療制度の対象者は、「70歳以上」から「75歳以上」に順次引き上げられ、2008（平成20）年4月からは、後期高齢者医療制度に移行しています。

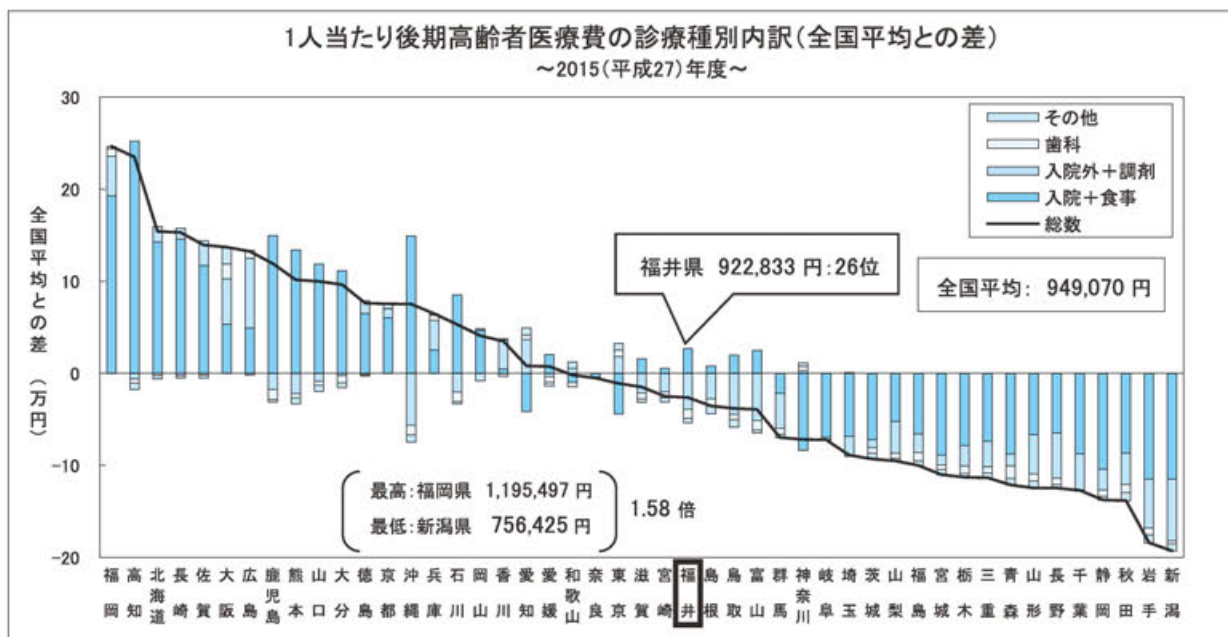
（1）1人当たり後期高齢者医療費の推移

本県の1人当たり後期高齢者医療費は、後期高齢者医療制度への移行後、毎年増加し、2015（平成27）年度には、922,833円（全国26位）となっており、県民1人当たり医療費334,816円の約2.8倍の高さとなっています。

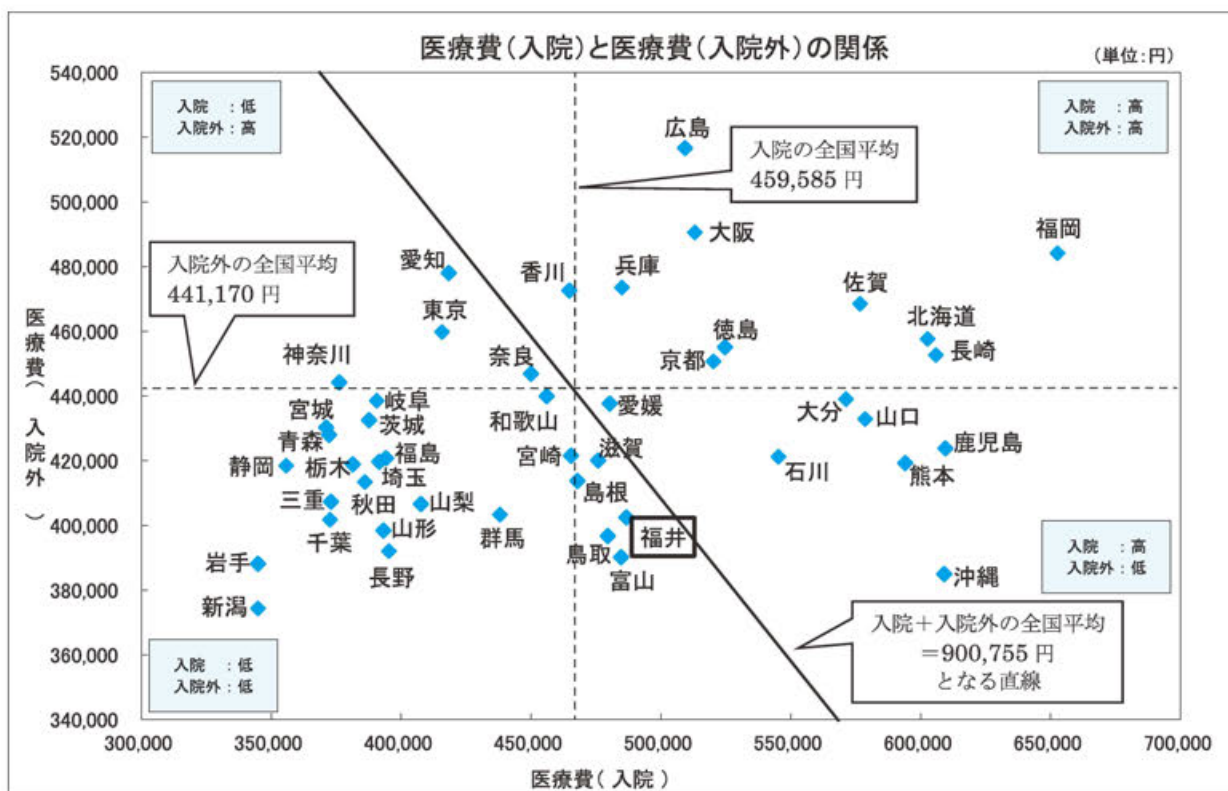


出典：厚生労働省「後期高齢者医療事業年報」

1人当たり入院医療費 486,763 円（全国 17 位）は、全国平均の 459,585 円を上回っていますが、1人当たり入院外医療費 402,490 円（全国 39 位）は、全国平均の 441,170 円を下回っています。



出典：厚生労働省「平成 27 年度後期高齢者医療事業年報」



出典：厚生労働省「平成 27 年度後期高齢者医療事業年報」

(2) 1人当たり後期高齢者医療費（入院）の状況

本県の1人当たり入院医療費の構成要素をみると、1日当たり医療費は全国平均を下回っていますが、レセプト1件当たり日数は全国平均並みであり、受診率は全国平均を上回っています。受診率の高さが医療費に影響していると考えられます。

また、全国平均よりも1人当たり医療費が高い県では、1件当たり日数、受診率が高い傾向にあります。

◆ 後期高齢者医療費（入院）に関する指標

	1人当たり医療費		1日当たり医療費		1件当たり日数		受診率	
	順位	円	順位	円	順位	日	順位	%
福井県	17位	486,763	36位	28,930	18位	18.1	16位	92.8
全 国		459,585		31,263		17.9		82.2
高知県	1位	711,921	40位	28,095	2位	20.2	1位	125.3
福岡県	2位	652,723	34位	29,023	5位	19.5	4位	115.5
岩手県	46位	344,925	39位	28,432	27位	17.8	41位	68.2
新潟県	47位	344,905	30位	29,736	21位	17.9	45位	64.8

出典：厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」

(3) 1人当たり後期高齢者医療費（入院外）の状況

本県の1人当たり入院外医療費は全国39位と低く、その構成要素をみると1件当たり日数は全国平均並みですが、1日当たり医療費および受診率は全国平均より低くなっています。

また、全国平均よりも1人当たり医療費の高い県では、1件当たり日数、受診率が高い傾向があります。

◆ 後期高齢者医療費（入院外）に関する指標

	1人当たり医療費		1日当たり医療費		1件当たり日数		受診率	
	順位	円	順位	円	順位	日	順位	%
福井県	39位	402,490	30位	14,589	15位	1.9	45位	1,426.0
全 国		441,170		14,629		1.9		1,599.9
高知県	1位	516,673	36位	13,709	1位	2.2	6位	1,704.8
福岡県	2位	490,610	44位	13,059	2位	2.2	4位	1,722.3
岩手県	46位	384,958	15位	15,325	43位	1.7	34位	1,498.0
新潟県	47位	374,387	13位	15,384	45位	1.6	35位	1,496.7

出典：厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」

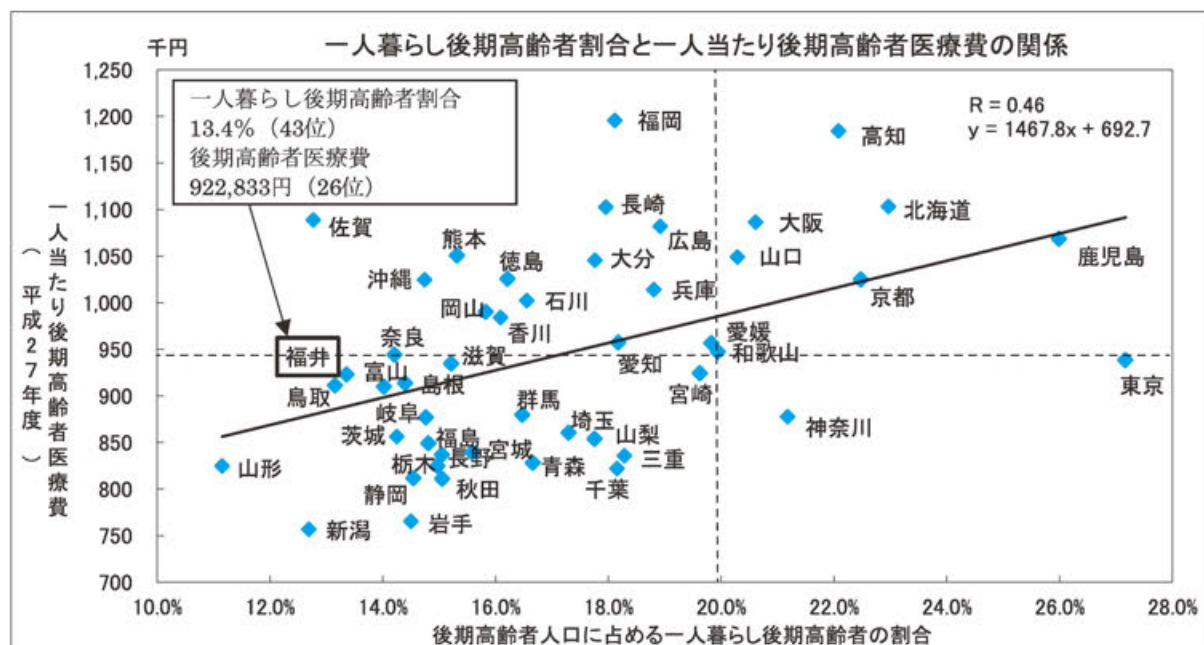
《参考》 後期高齢者医療費 診療諸率について

1人当たり後期高齢者医療費	=	$\frac{\text{後期高齢者医療費}}{\text{日 数}}$	×	$\frac{\text{日 数}}{\text{件数(延べ患者数)}}$	×	$\frac{\text{件数(延べ患者数)}}{\text{後期高齢者人口}}$
(入院医療費の場合)						
1人当たり後期高齢者医療費	=	1日当たり医療費	×	1件当たり日数	×	受診率
		高い		低い		平均並み
(入院外医療費の場合)						
1人当たり後期高齢者医療費	=	1日当たり医療費	×	1件当たり日数	×	受診率
		低い		低い		平均並み

(4) 後期高齢者の生活の状況と後期高齢者医療費との関係

① 一人暮らし後期高齢者と後期高齢者医療費の関係

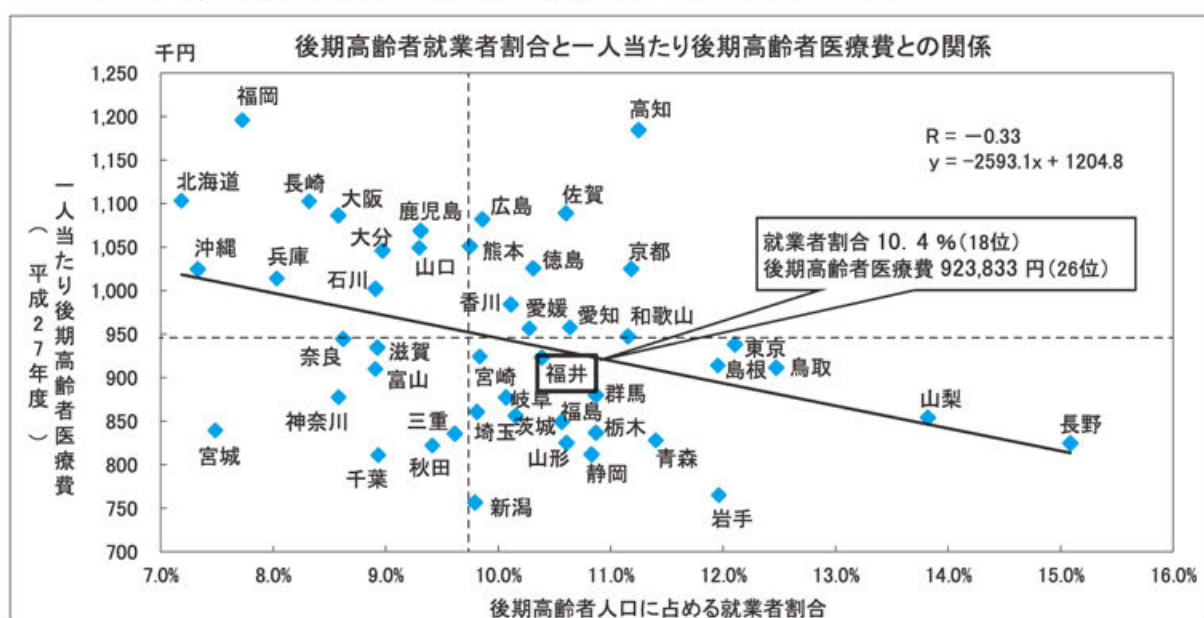
全国的にみて、後期高齢者に占める一人暮らし後期高齢者の割合と後期高齢者医療費には相関関係がみられます。(一人暮らし後期高齢者の状況は、資料編 P4 参照) 一人暮らし世帯においては、孤立感や外出頻度の減少により社会的つながりが希薄になり、フレイル(虚弱)に陥りやすくなることが考えられ、早期からのフレイル予防が重要になるといえます。



出典：総務省「平成27年度国勢調査」、厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」

② 後期高齢者の就業の状況と後期高齢者医療費の関係

後期高齢者の就業者割合と後期高齢者医療費の関係では、弱い相関関係がみられます。(後期高齢者の就業の状況は、資料編 P5 参照)

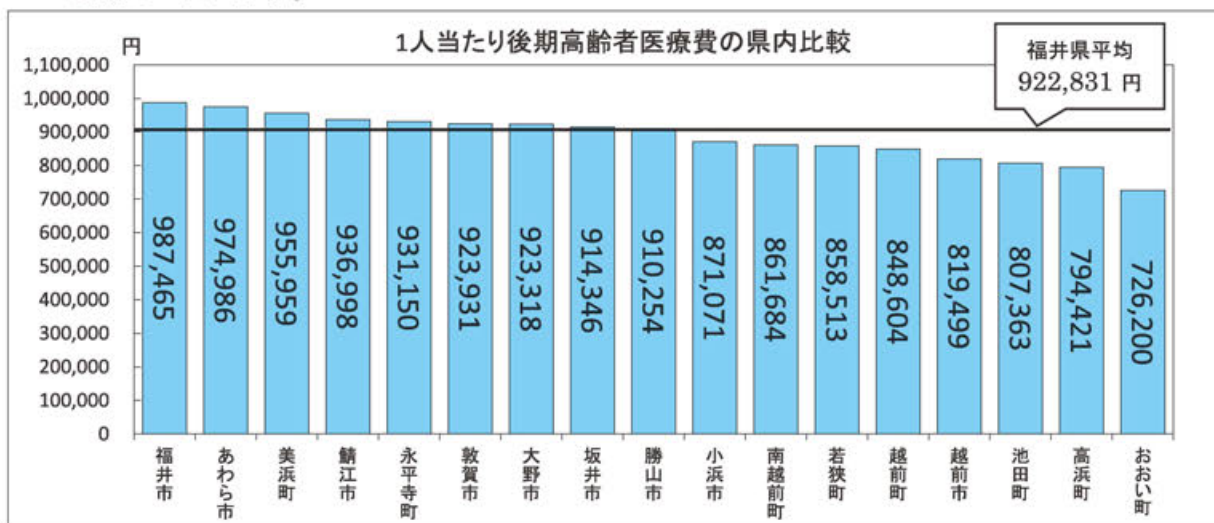


出典：総務省「平成27年度国勢調査」、厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」

2 県内市町、二次医療圏の後期高齢者医療費の状況

(1) 1人当たり後期高齢者医療費の状況

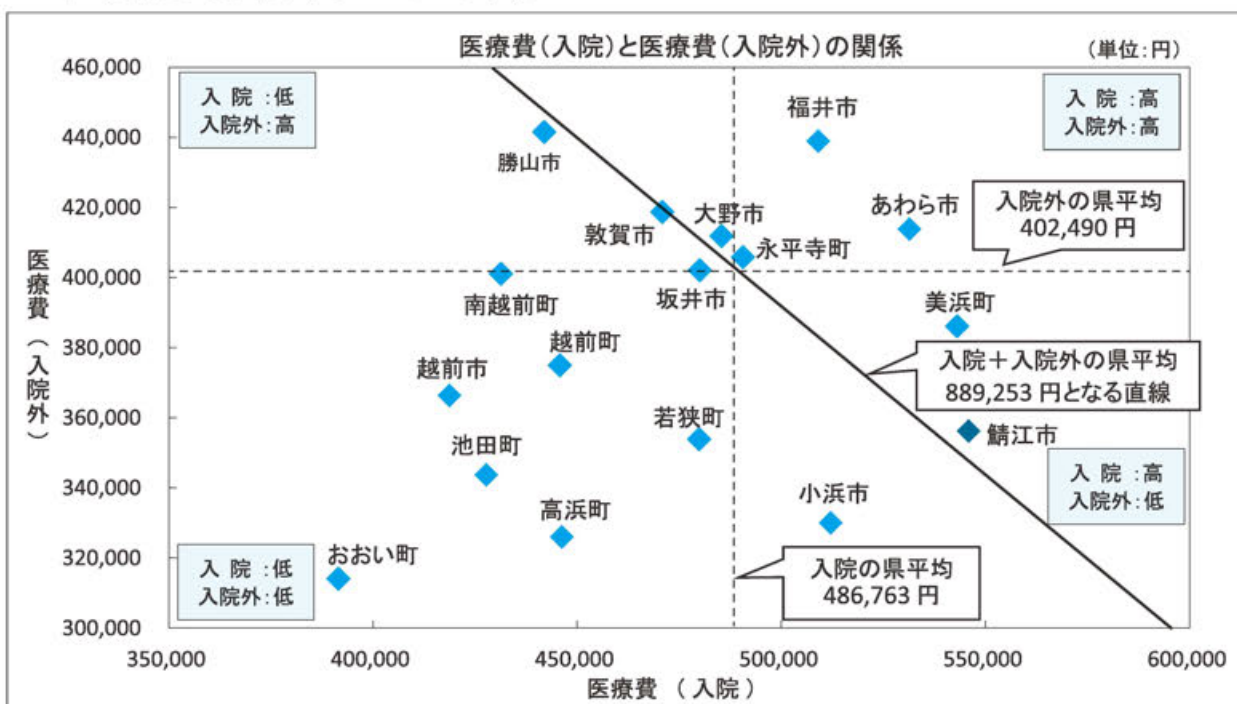
2015（平成 27）年度の県内市町別の 1 人当たり医療費をみると、最高が福井市の 98 万 7 千円、最低がおおい町の 72 万 6 千円であり、その差は 26 万 1 千円となっています。



出典：平成 27 年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

(2) 1人当たり後期高齢者医療費の入院と入院外の関係

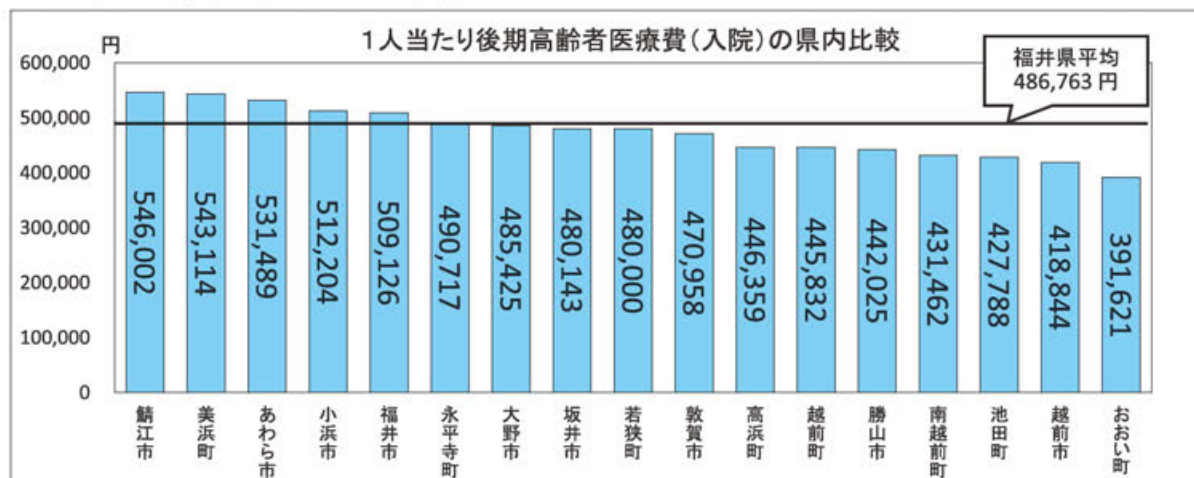
1 人当たりの入院と入院外医療費の関係をみると、福井市とあわら市が入院、入院外とも県平均より高くなっています。一方、おおい町や高浜町などは入院、入院外ともに低くなっています。



出典：平成 27 年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

(3) 1人当たり後期高齢者医療費（入院）の状況

1人当たり入院医療費では、最高が鯖江市の54万6千円、最低がおおい町の39万2千円となっています。



出典：平成 27 年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

1人当たり入院医療費を二次医療圏別にみると、4医療圏とも全国平均を上回っています。医療圏ごとでは、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高く、受診率も県平均を上回っていることから、1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 奥越医療圏は、受診率が県内で最も高くなっていますが、1日当たり医療費、1件当たり日数がともに県平均より低くなっています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費、1件当たり日数が県平均並みとなっていますが、受診率が県内で最も低くなっています。
- 嶺南医療圏は、1件当たり日数が県内で最も長くなっていますが、受診率が県平均並み、1日当たり医療費が県平均より低くなっています。

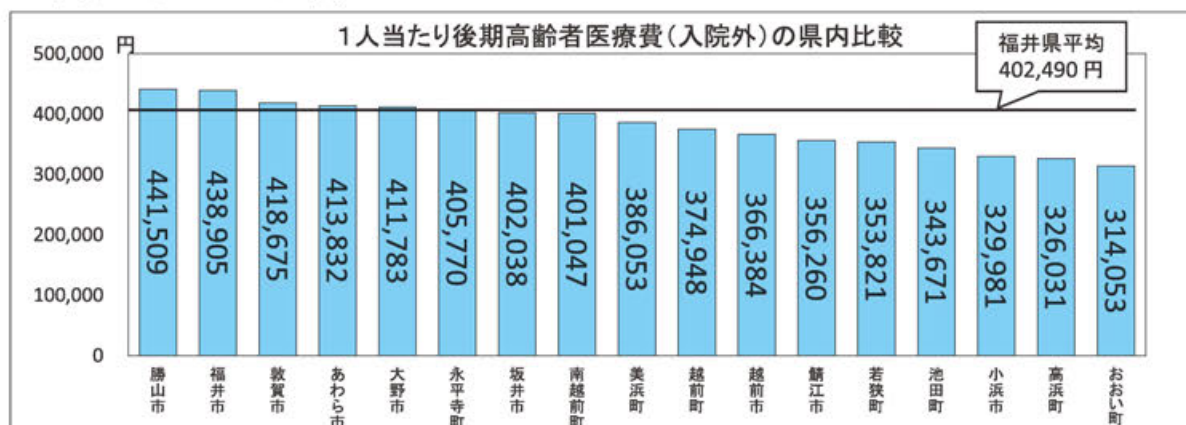
◆ 後期高齢者医療費（入院）に関する指標

医療圏	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	503,693	29,951	17.90	93.98
奥越	467,302	27,789	17.73	94.82
丹南	464,112	28,404	18.28	89.40
嶺南	480,869	27,535	18.79	92.93
福井県	486,763	28,930	18.13	92.79
全国	459,585	31,263	17.89	82.17

出典：平成 27 年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ
厚生労働省「平成 27 年度後期高齢者医療事業年報」

(4) 1人当たり後期高齢者医療費（入院外）の状況

入院外医療費では、最高が勝山市の44万2千円、最低がおおい町の31万4千円となっています。



出典：平成27年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

1人当たり入院外医療費を二次医療圏別にみると、4医療圏とも全国平均を下回っています。医療圏ごとでは、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県平均を下回っていますが、医療機関が多く、医療機関にかかりやすいことから受診率が最も高くなっており、1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 奥越医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も低く、受診率も県平均を下回っていますが、1件当たり日数が県内で最も多くなっています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費が県平均を上回っていますが、1件当たり日数が県平均を下回っており、受診率が県内で最も低いことから1人当たり医療費は県内で最も低くなっています。
- 嶺南医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高くなっていますが、1件当たり日数が県内で最も少なく、受診率も県平均を下回っています。

◆ 後期高齢者医療費（入院外）に関する指標

医療圏	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	427,112	13,898	2.03	1,516.99
奥越	424,196	13,347	2.28	1,391.36
丹南	366,453	15,901	1.75	1,314.76
嶺南	372,843	16,193	1.71	1,346.13
福井県	402,490	14,589	1.93	1,425.99
全国	441,170	14,629	1.88	1,599.88

出典：平成27年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」

V 国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータにみる 本県の医療費の状況

2016（平成 28）年 5 月診療分の県内市町の国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータをもとに、本県の医療費の状況をみてみます。

なお、国民健康保険組合、全国健康保険協会、健康保険組合、共済組合加入の被保険者は除かれており、本県全体の医療費の状況を表すものではありませんが、年齢階層別の数値は、概ね県全体の状況を反映するものと考えられます。

（※全国健康保険協会（協会けんぽ）の医療費の状況についてはⅦで後述します。）

◆2016（平成 28）年 5 月診療分レセプトデータの概要

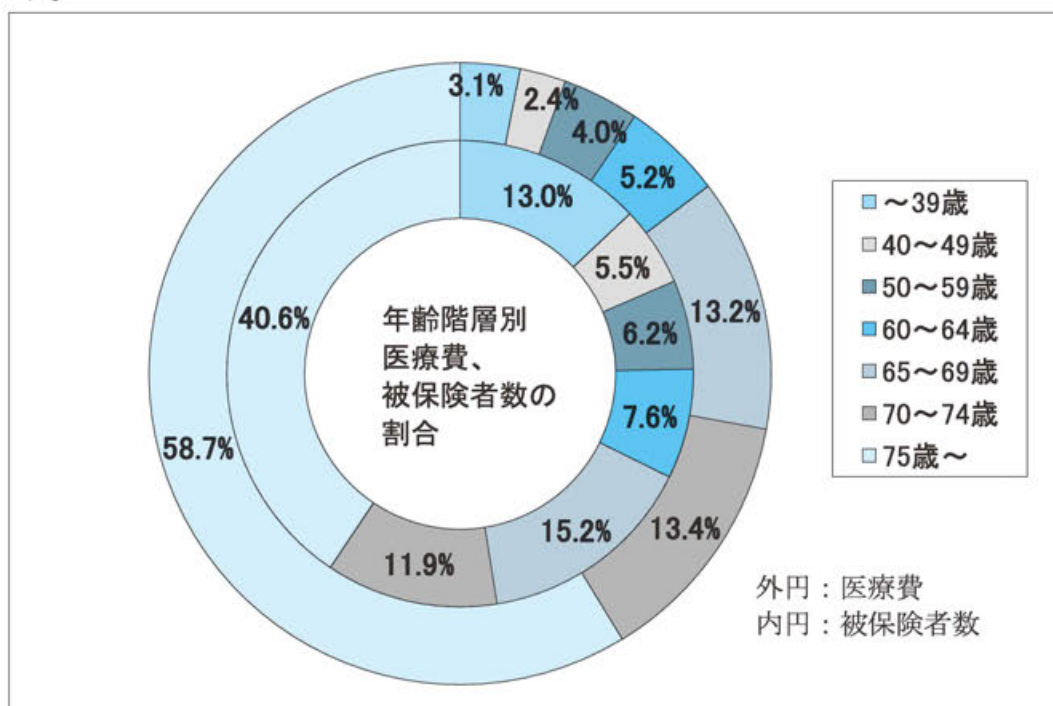
	全体	入院	入院外
医療費	114 億 2,196 万円	62 億 4,790 万円	51 億 7,406 万円
レセプト件数	303,355 件	12,335 件	291,020 件
被保険者数	285,930 人		

※ 医療費は、入院に係る診療費および入院外（外来）に係る診療費をいい、訪問看護費、食事療養・生活療養費、調剤費、移送費を含みません。

1 年齢階層別医療費状況

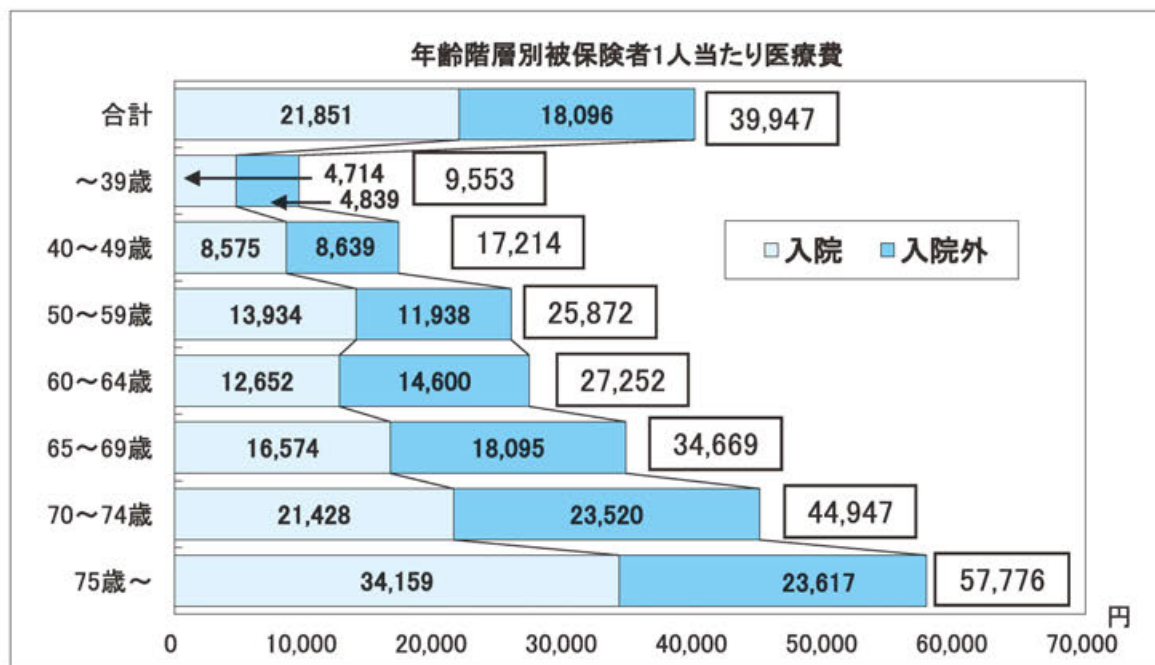
県内国民健康保険・後期高齢者医療の被保険者約 29 万人のうち、40.6%が後期高齢者となっており、その医療費は全体の 58.7%を占めています。

65 歳以上の高齢者でみると、被保険者数は 67.7%、医療費で 85.3%を占めています。



2 1人当たり医療費

被保険者1人当たり医療費（2016（平成28）年5月の1か月分の医療費。以下VIまで同じ。）は全体で39,947円/月ですが、39歳以下では9,553円、75歳以上では57,776円と約6倍近い開きがあります。



年齢階層別被保険者1人当たり医療費

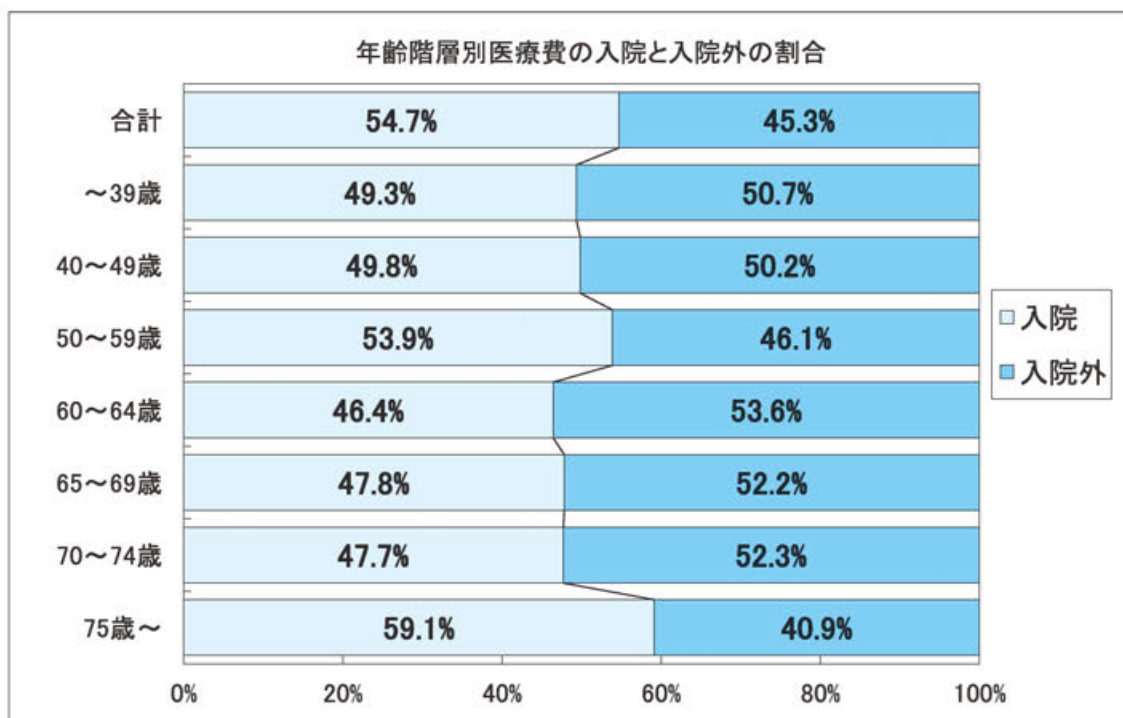
年齢階層に属する被保険者の医療費

=

年齢階層に属する被保険者数

（したがって、患者1人当たり医療費とは異なります。）

次に、年齢階層別に入院と入院外医療費の割合をみると、全体では入院が54.7%、入院外が45.3%となっています。39歳未満および40～49歳では、入院と入院外がほぼ同程度の割合となっており、60歳代で入院の割合が下がっているものの、75歳以上では入院が59.1%となっており、入院外を上回っています。



3 入院医療費の状況

〔年齢階層別〕

被保険者1人当たり入院医療費を40歳以上の年齢階層ごとに1日当たり医療費、1件当たり日数、受診率の構成要素別にみると次のようになります。

○ 「40～64 歳」の階層

受診率が低く、1人当たり医療費は低くなっていますが、1件当たり日数は最も長く、治療が長期化する傾向がみられます。

○ 「65～74 歳」の階層

1人当たり医療費や受診率は県平均を下回っていますが、1日当たり医療費は最も高くなっており、加齢により疾病の重症化や合併症が生じていると考えられます。

○ 「75 歳以上」の階層

1日当たり医療費は県平均を下回っていますが、受診率が高く、1件当たり日数が長いことから1人当たり医療費は最も高くなっています。

入 院	1人当たり 医療費 円	1日当たり 医療費 円	1件当たり 日数 日	受診率 %
～39 歳	4,714	35,211	13.6	1.0
40～64 歳	11,899	24,288	20.0	2.4
65～74 歳	18,710	35,782	15.8	3.3
75 歳以上	34,159	26,883	18.3	6.9
福 井 県	21,851	28,390	17.8	4.3

※ 太字は年齢階層で最も高い数値。以下同じ。

◆ 「被保険者1人当たり入院医療費」、「1日当たり医療費」、「1日当たり日数」「受診率」の関係

$$\begin{aligned}
 \text{被保険者1人当たり入院医療費} &= \frac{\text{医療費}}{\text{日数}} \times \frac{\text{日数}}{\text{件数(延べ患者数)}} \times \frac{\text{件数(延べ患者数)}}{\text{被保険者数}} \\
 &= \text{1日当たり医療費} \times \text{1件当たり日数} \times \text{受診率}
 \end{aligned}$$

〔二次医療圏別〕

入院医療費は、奥越医療圏の1人当たり医療費が最も高く、この要因として、受診率が県内で最も高いことが考えられます。

1人当たり医療費の最も低い嶺南医療圏では、1件当たり日数が県内で最も長いものの、1日当たり医療費と受診率が県内で最も低くなっています。

入 院	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	22,370	29,785	17.5	4.3
奥 越	23,085	28,717	17.5	4.6
丹 南	21,386	27,071	18.3	4.3
嶺 南	20,549	26,451	18.3	4.2
福 井 県	21,851	28,390	17.8	4.3

4 入院外医療費の状況

〔年齢階層別〕

入院外医療費を年齢階層別にみると、加齢に伴い、1件当たり日数とともに、特に受診率が高くなっていくことから、1人当たり医療費は高くなっています。

入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	4,839	6,671	1.5	48.6
40～64歳	12,045	10,215	1.7	70.1
65～74歳	20,483	10,695	1.7	112.0
75歳以上	23,617	10,074	1.8	127.0
福 井 県	18,096	10,093	1.8	101.8

〔二次医療圏別〕

入院外医療費は、福井・坂井医療圏の1人当たり医療費が最も高く、この要因として受診率が県内で最も高いことが考えられます。

1人当たり医療費の最も低い嶺南医療圏では、1日当たり医療費は県内で最も高くなっていますが、1件当たり日数が県内で最も少なく、受診率も県平均を下回っています。

入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	19,742	9,987	1.9	106.2
奥越	19,595	9,759	2.0	100.2
丹南	16,101	10,071	1.7	95.6
嶺南	15,694	10,693	1.5	99.0
福井県	18,096	10,093	1.8	101.8

5 入院＋入院外医療費の状況

〔年齢階層別〕

入院と入院外の合計医療費を年齢階層別にみると、1日当たり医療費を除き、1人当たり医療費、1件当たり日数、受診率は75歳以上が最も高くなっています。年齢が高くなるとともに医療機関にかかる回数が増え、また受診する日数が多くなっています。

また、前期高齢者である65～74歳の1日当たり医療費が最も高く、受診率は40～64歳までと比べ大きく増加していることから、65歳以上になった際に発病・重症化等しないよう早期の重症化予防等の取組みが重要であるといえます。

入院＋入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	9,553	11,118	1.7	49.6
40～64歳	23,944	14,346	2.3	72.6
65～74歳	39,193	16,075	2.1	115.3
75歳以上	57,776	15,982	2.7	133.9
福井県	39,947	15,588	2.4	106.1

〔二次医療圏別〕

入院と入院外の合計医療費は、奥越医療圏の1人当たり医療費が最も高く、この要因として、1件当たり日数が長いことが考えられます。

1人当たり医療費が最も低い嶺南医療圏では、1日当たり医療費が県内で最も高くなっていますが、1件当たり日数が最も少なく、受診率も県平均を下回っています。

入院＋入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	42,112	15,438	2.5	110.5
奥越	42,680	15,179	2.7	104.8
丹南	37,488	15,693	2.4	99.9
嶺南	36,243	16,147	2.2	103.2
福井県	39,947	15,588	2.4	106.1

6 疾病別医療費の状況

(1) 疾病別（大分類）医療費の状況

2016（平成 28）年 5 月診療分の国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータと「社会保険表章用疾病分類表」の大分類（19 分類）による疾病区分から年齢階層別の被保険者の疾病と医療費の状況をみてみます。

「消化器系の疾患」については、「う蝕」（虫歯）など歯科関係の疾病を分け、「歯科の疾患」として分類しました。

感染症及び寄生虫症
新生物
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
内分泌、栄養及び代謝疾患
精神及び行動の障害
神経系の疾患
眼及び付属器の疾患
耳及び乳様突起の疾患
循環器の疾患
呼吸器系の疾患
<u>消化器系の疾患（歯科を除く。）</u>
皮膚及び皮下組織の疾患
筋骨格系及び結合組織の疾患
腎尿路生殖器系の疾患
妊娠、分娩及び産褥
周産期に発生した病態
先天奇形、変形及び染色体異常
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
損傷、中毒及びその他の外因の影響
<u>歯科の疾患</u>

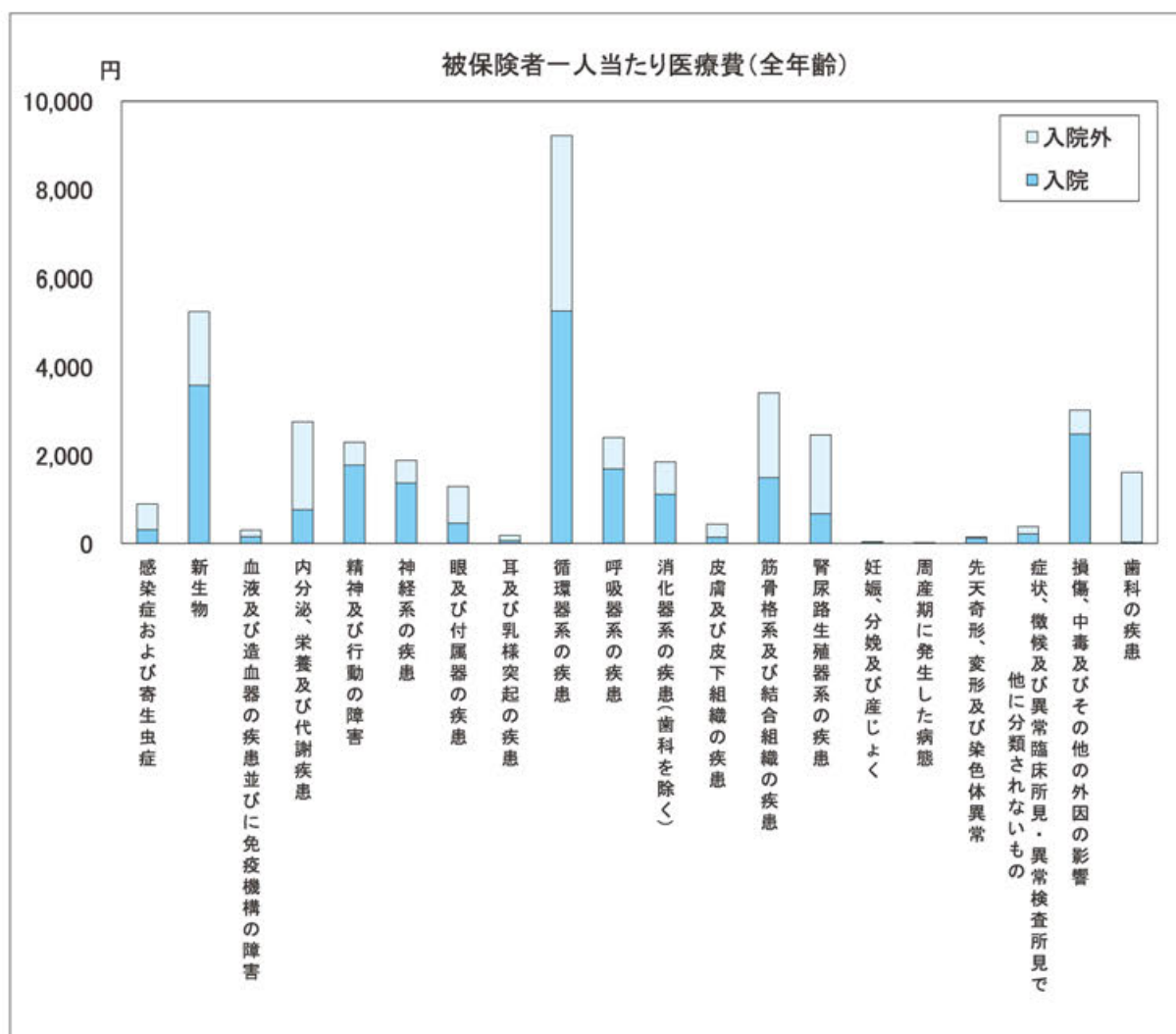
※ _____ は、「社会保険表章用疾病分類表」と異なる本調査独自の分類です。

① 全年齢における疾病別（大分類）医療費

2016（平成 28）年 5 月の 1 か月間の医療費が最も高いのは、「循環器系の疾患」であり、全体の 23.1%を占め、26 億 3,674 万円（1 人当たり医療費 9,222 円、入院 5,273 円、入院外 3,948 円）となっています。次いで「新生物」が 15 億 374 万円（1 人当たり医療費 5,259 円、入院 3,589 円、入院外 1,670 円）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が 9 億 7,604 万円（1 人当たり医療費 3,414 円、入院 1,496 円、入院外 1,918 円）となっており、この 3 疾病で、全体の約 5 割（44.8%）を占めています。

◆ 医療費の上位を占める疾病（大分類）

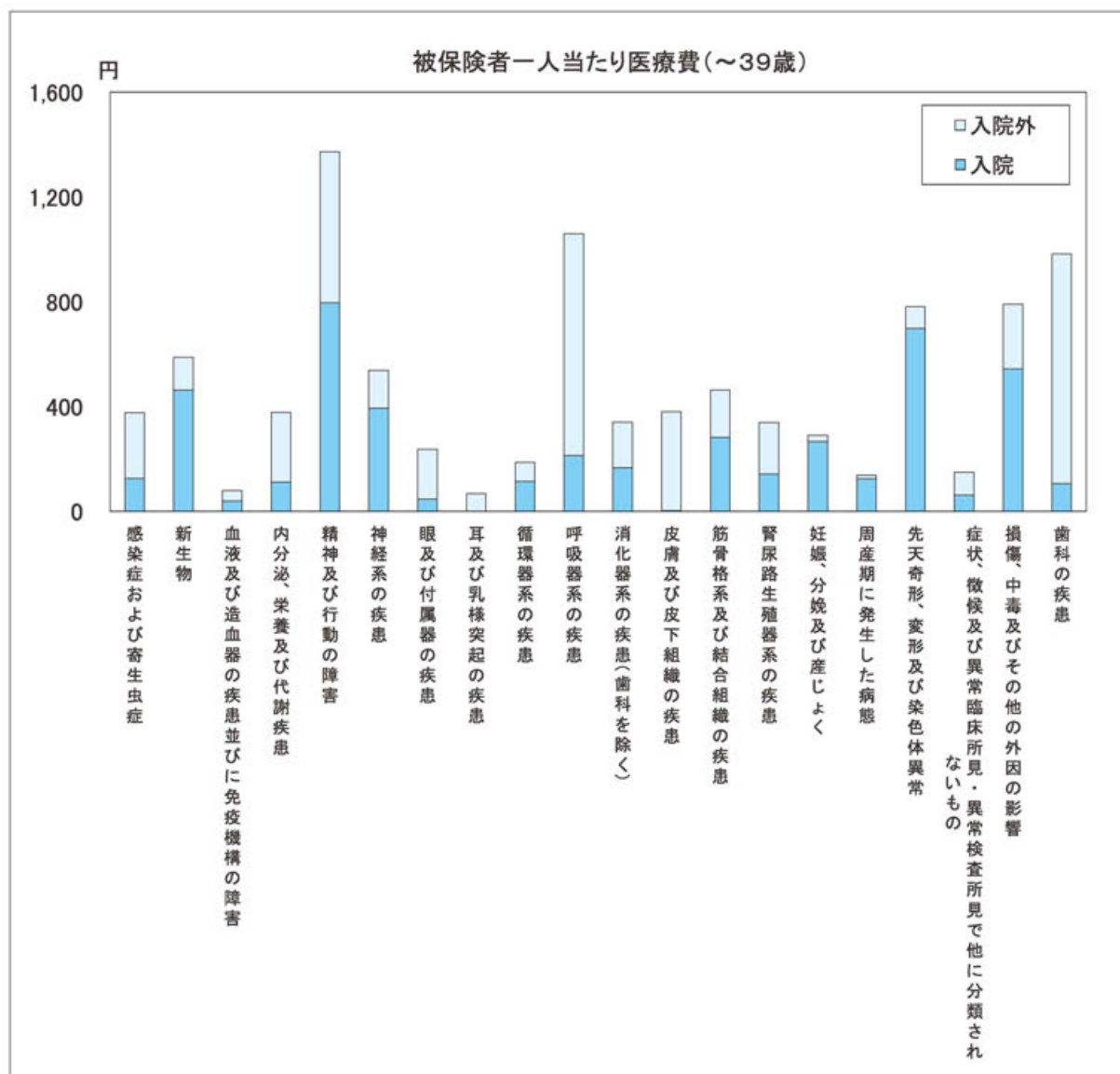
		医療費（千円）	全医療費に占める割合（%）	件数（件）
1	循環器系の疾患	2,636,736	23.1	75,114
2	新生物	1,503,739	13.2	11,061
3	筋骨格系及び結合組織の疾患	976,041	8.5	33,633
4	損傷、中毒及びその他の外因の影響	865,013	7.6	11,640
5	内分泌、栄養及び代謝疾患	789,381	6.9	31,056
6	腎尿路生殖器系の疾患	703,312	6.2	8,664
7	呼吸器系の疾患	688,078	6.0	16,933
8	精神及び行動の障害	658,153	5.8	12,039
9	神経系の疾患	540,031	4.7	9,427
10	消化器系の疾患（歯科を除く）	529,304	4.6	14,459



1人当たり疾病別（大分類）医療費を年齢階層別にみてみます。

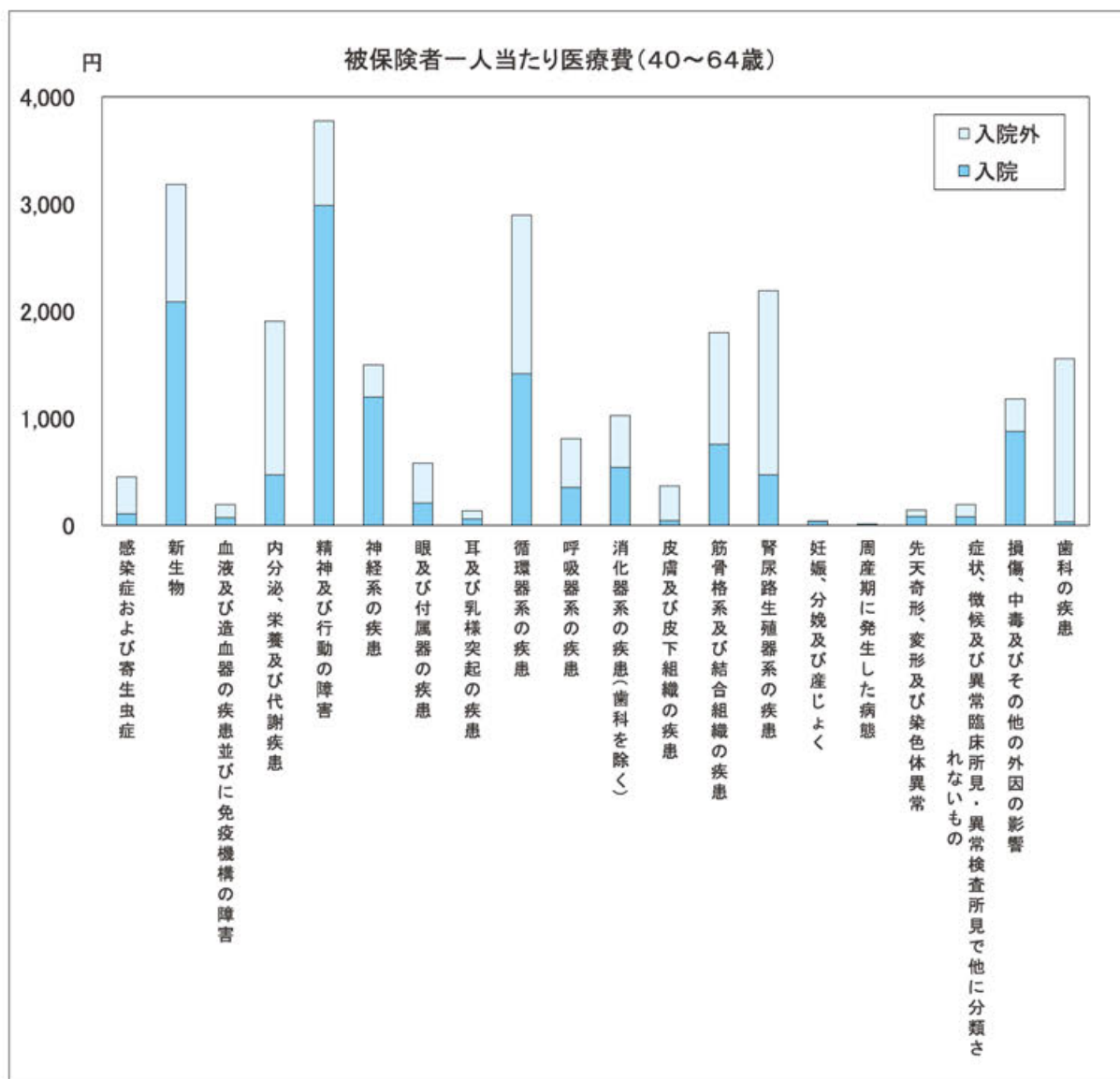
② 「～39歳」の疾病別医療費

この階層では、「精神及び行動の障害」が最も多く、1,374円（入院797円、入院外577円）、次いで、「呼吸器系の疾患」1,060円（入院213円、入院外847円）、「歯科の疾患」983円（入院107円、入院外876円）となっており、この3疾病で全体の35.8%を占めています。



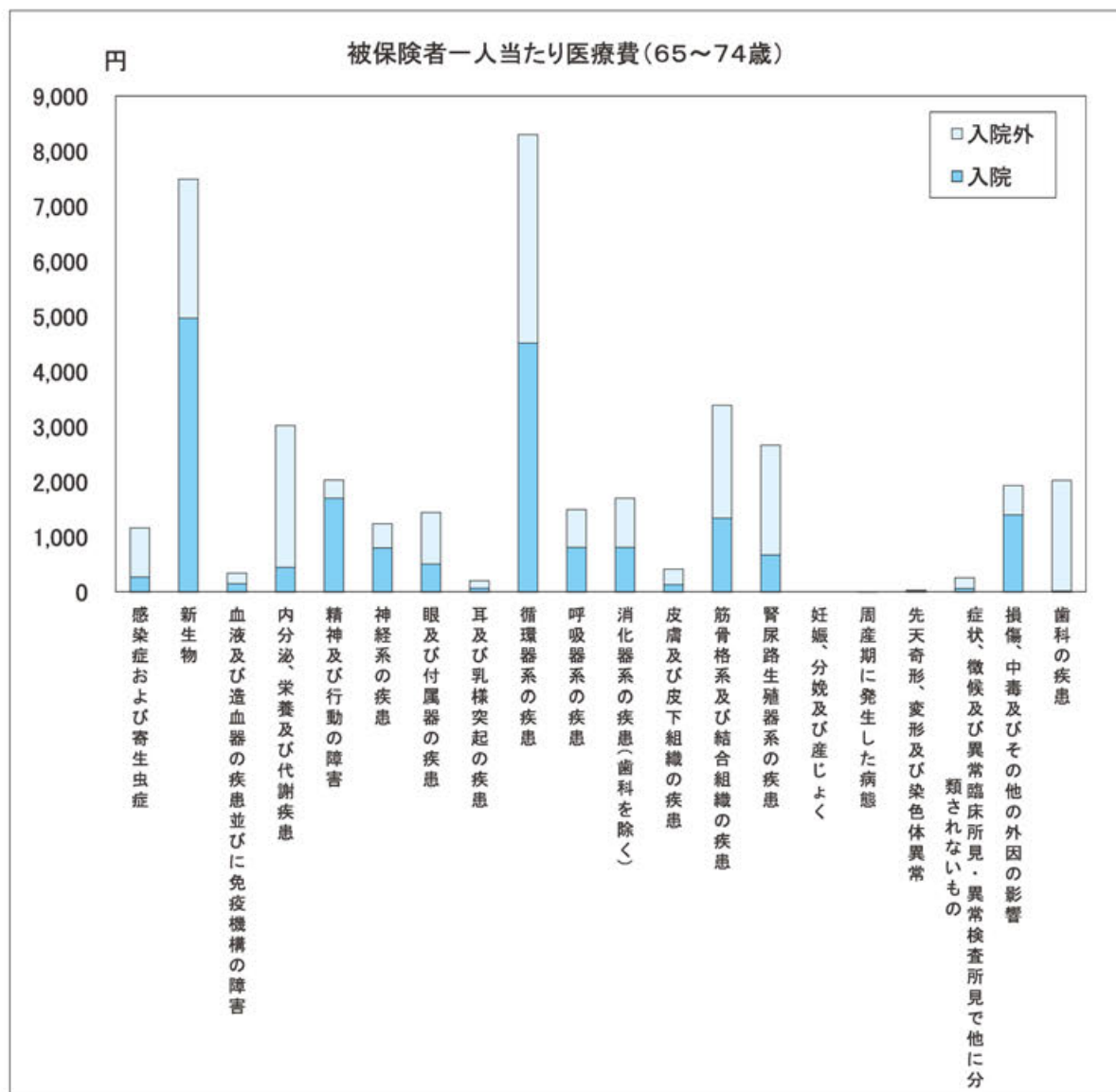
③ 「40～64 歳」の疾病別医療費

この階層においても、「精神及び行動の障害」が最も多く、3,776 円（入院 2,988 円、入院外 789 円）、次いで、「新生物」3,184 円（入院 2,088 円、入院外 1,095 円）、「循環器系の疾患」2,896 円（入院 1,416 円、入院外 1,480 円）となっており、この3 疾病で全体の 41.2%を占めています。



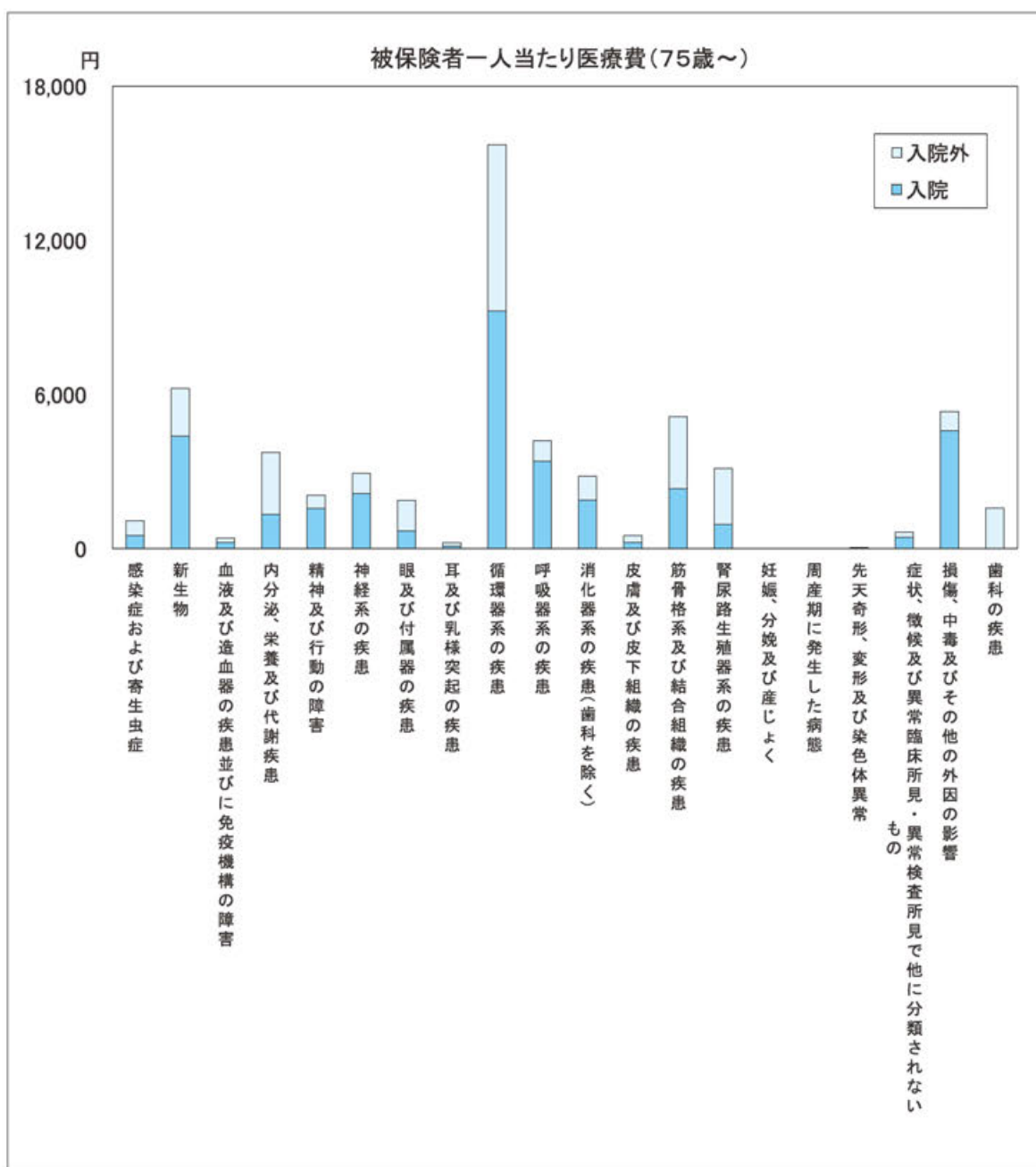
④ 「65～74 歳」の疾病別医療費（前期高齢者）

この階層では、「循環器系の疾患」が 8,304 円（入院 4,519 円、入院外 3,785 円）、次いで、「新生物」7,497 円（入院 4,968 円、入院外 2,529 円）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」3,394 円（入院 1,340 円、入院外 2,054 円）となっており、この 3 疾病で全体の 49.0%を占めています。



⑤ 「75 歳～」の疾病別医療費（後期高齢者）

この階層では、65～74 歳の階層と同様、「循環器系の疾患」が最も多く、次に「新生物」が続きます。「循環器系の疾患」は 15,731 円（入院 9,261 円、入院外 6,470 円）と高く、この年齢層の全疾病の 27.2%を占めています。次いで、「新生物」6,245 円（入院 4,382 円、入院外 1,863 円）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」5,346 円（入院 4,595 円、入院外 751 円）となっており、この 3 疾病で 47.3%を占めています。



(2) 疾病別（中分類）医療費の状況

2016（平成28）年5月診療分の国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータと「社会保険表章用疾病分類表」（中分類：119分類）による疾病区分から、年齢階層別の被保険者の疾病と医療費の状況をみてみます。

社会保険表章用疾病分類表

I 感染症及び寄生虫症	X 呼吸器系の疾患
腸管感染症	急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞
結核	急性咽頭炎及び急性扁桃炎
主として性的伝播様式をとる感染症	その他の急性上気道感染症
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	肺炎
ウイルス肝炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎
その他のウイルス疾患	アレルギー性鼻炎
真菌症	慢性副鼻腔炎
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	急性又は慢性と明示されない気管支炎
その他の感染症及び寄生虫症	慢性閉塞性肺疾患
II 新生物	喘息
胃の悪性新生物	その他の呼吸器系の疾患
結腸の悪性新生物	X I 消化器系の疾患
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	う蝕
肝及び肝内胆管の悪性新生物	歯肉炎及び歯周疾患
気管、気管支及び肺の悪性新生物	その他の歯及び歯肉の支持組織の障害
乳房の悪性新生物	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍
子宮の悪性新生物	胃炎及び十二指腸炎
悪性リンパ腫	アルコール性肝疾患
白血病	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）
その他の悪性新生物	肝硬変（アルコール性のものを除く）
良性新生物及びその他の新生物	その他の肝疾患
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	胆石症及び胆のう炎
貧血	脾疾患
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	その他の消化器系の疾患
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	X II 皮膚及び皮下組織の疾患
甲状腺障害	皮膚及び皮下組織の感染症
糖尿病	皮膚炎及び湿疹
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
V 精神及び行動の障害	X III 筋骨格系及び結合組織の疾患
血管性及び詳細不明の認知症	炎症性多発性関節障害
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	関節症
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	脊椎障害（脊椎症を含む）
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	椎間板障害
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	頸腕症候群
知的障害＜精神遅滞＞	腰痛症及び坐骨神経痛
その他の精神及び行動の障害	その他の脊柱障害
VI 神経系の疾患	肩の傷害＜損傷＞
パーキンソン病	骨の密度及び構造の障害
アルツハイマー病	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
てんかん	X IV 腎尿路生殖系の疾患
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患
自律神経系の障害	腎不全
その他の神経系の疾患	尿路結石症
VII 眼及び付属器の疾患	その他の腎尿路系の疾患
結膜炎	前立腺肥大（症）
白内障	その他の男性生殖器の疾患
屈折及び調節の障害	月経障害及び閉経周辺期障害
その他の眼及び付属器の疾患	乳房及びその他の女性生殖器の疾患
VIII 耳及び乳突突起の疾患	X V 妊娠、分娩及び産後
外耳炎	流産
その他の外耳疾患	妊娠高血圧症候群
中耳炎	単胎自然分娩
その他の中耳及び乳突突起の疾患	その他の妊娠、分娩及び産後
メニエール病	X VI 周産期に発生した病態
その他の内耳疾患	妊娠及び胎児発育に関連する障害
その他の耳疾患	その他の周産期に発生した病態
IX 循環器系の疾患	X VII 先天奇形、変形及び染色体異常
高血圧性疾患	心臓の先天奇形
虚血性心疾患	その他の先天奇形、変形及び染色体異常
その他の心疾患	X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
くも膜下出血	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
脳内出血	X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
脳梗塞	骨折
脳動脈硬化（症）	頭蓋内損傷及び内臓の損傷
その他の脳血管疾患	熱傷及び腐食
動脈硬化（症）	中毒
痔核	その他の損傷及びその他の外因の影響
低血圧（症）	
その他の循環器系の疾患	

※ 太字は、資料編 P 44 以降で取り上げる生活習慣病です。

① 全年齢における疾病別（中分類）医療費

1 人当たり医療費が高い疾病は高血圧性疾患、骨折、糖尿病、脳梗塞などであり、生活習慣病が上位を占めています。

また、上位 10 疾病で全体の医療費の 42.4%を占めています。

一方、1 件当たり医療費をみると、腎不全やくも膜下出血などの重症化した生活習慣病が高いほか、白血病など悪性新生物の疾病は、全医療費に占める割合は小さいものの 1 件当たり医療費が高くなる傾向があります。

医療費の適正化に向け、全医療費に占める割合が高い生活習慣病などの疾病予防に積極的に取り組むことが効果的であるといえます。

◆ 医療費の上位を占める疾病（中分類）

順位	疾病名	医療費	1人当たり医療費	全医療費に占める割合	疾病名	1件当たり医療費
1位	高血圧性疾患	千円 894,162	円 3,127	7.8%	白血病	円 352,095
2位	骨折	574,575	2,009	5.0%	心臓の先天奇形	341,232
3位	糖尿病	522,388	1,827	4.6%	腎不全	314,734
4位	脳梗塞	511,599	1,789	4.5%	くも膜下出血	274,811
5位	その他の悪性新生物	490,689	1,716	4.3%	肺炎	270,519
6位	その他の心疾患	474,380	1,659	4.2%	肝及び肝内胆管の悪性新生物	237,768
7位	腎不全	456,994	1,598	4.0%	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	236,859
8位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	327,734	1,146	2.9%	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	232,917
9位	虚血性心疾患	314,498	1,100	2.8%	気管、気管支及び肺の悪性新生物	231,033
10位	関節症	273,153	955	2.4%	胆石症及び胆のう炎	195,316

※ 太字は、資料編 P 44 以降で取り上げる生活習慣病

全医療費に占める疾病別の医療費の割合を入院、入院外別に示します。

◆ 入院、入院外別医療費の割合

	入 院		入 院 外	
1 位	骨折	8.25%	高血圧性疾患	14.73%
2 位	脳梗塞	6.92%	腎不全	7.63%
3 位	その他の心疾患	5.75%	糖尿病	7.17%
4 位	その他の悪性新生物	5.21%	歯肉炎及び歯周疾患	5.12%
5 位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	4.53%	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	3.37%
6 位	その他の呼吸器系の疾患	3.30%	その他の悪性新生物	3.20%
7 位	虚血性心疾患	3.29%	関節症	2.74%
8 位	肺炎	3.17%	脊椎障害(脊椎症を含む)	2.63%
9 位	その他の消化器系の疾患	2.61%	その他の歯及び歯の支持組織の障害	2.33%
10 位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	2.56%	その他の心疾患	2.23%

※ %は、入院、入院外の医療費をそれぞれ 100 とした場合の数値

太字は、資料編 P 44 以降で取り上げる生活習慣病

◆ 年齢階層別 疾病別（中分類）医療費における上位 3 疾病の状況

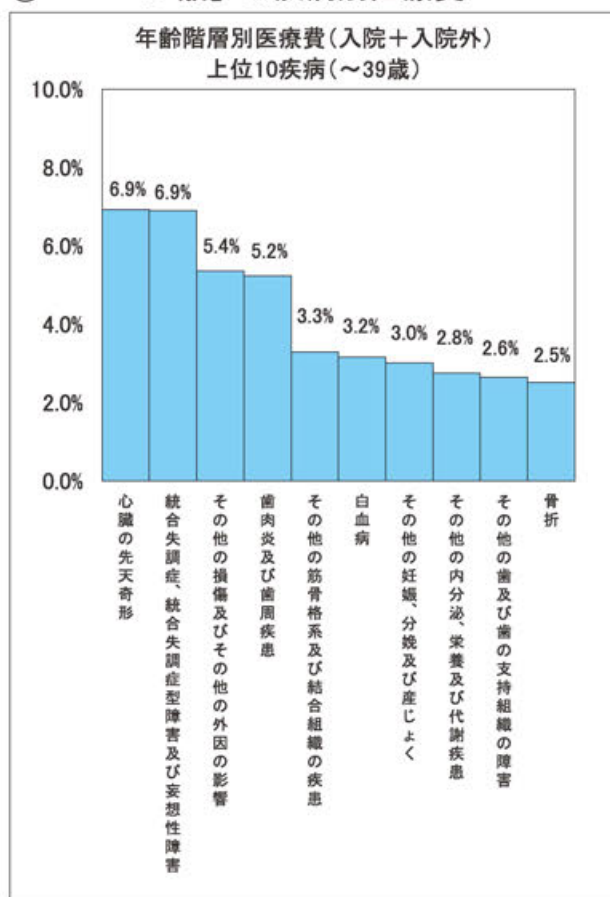
国保 (40～64 歳)	入院			入院外		
	件数	日数	医療費(千円)	件数	日数	医療費(千円)
統合失調症等	375	11,177	129,805	1,382	2,612	24,365
腎不全	26	466	16,005	249	2,529	77,034
糖尿病	44	742	21,138	2,005	3,112	52,999

国保 (65～74 歳)	入院			入院外		
	件数	日数	医療費(千円)	件数	日数	医療費(千円)
高血圧性疾患	26	349	11,202	16,634	22,720	205,796
その他の悪性新生物	173	2,267	124,503	897	1,544	60,371
糖尿病	60	907	25,948	5,290	8,157	130,659

後期 (75 歳～)	入院			入院外		
	件数	日数	医療費(千円)	件数	日数	医療費(千円)
高血圧性疾患	328	6,216	117,853	33,176	53,886	498,139
骨折	719	14,890	422,058	1,883	4,433	39,025
脳梗塞	593	13,107	326,236	3,541	6,475	57,179

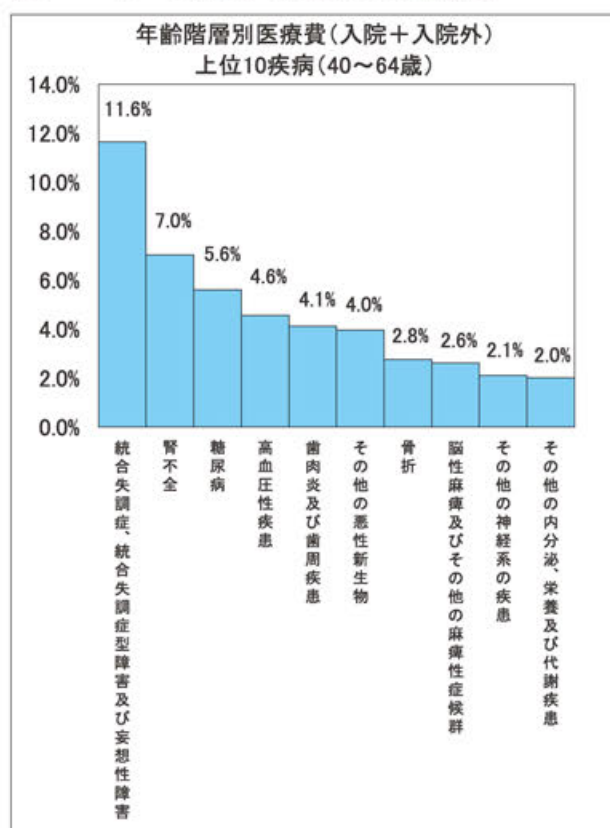
1人当たり疾病別（中分類）医療費を年齢階層別に示します。

② 「～39 歳」の疾病別医療費



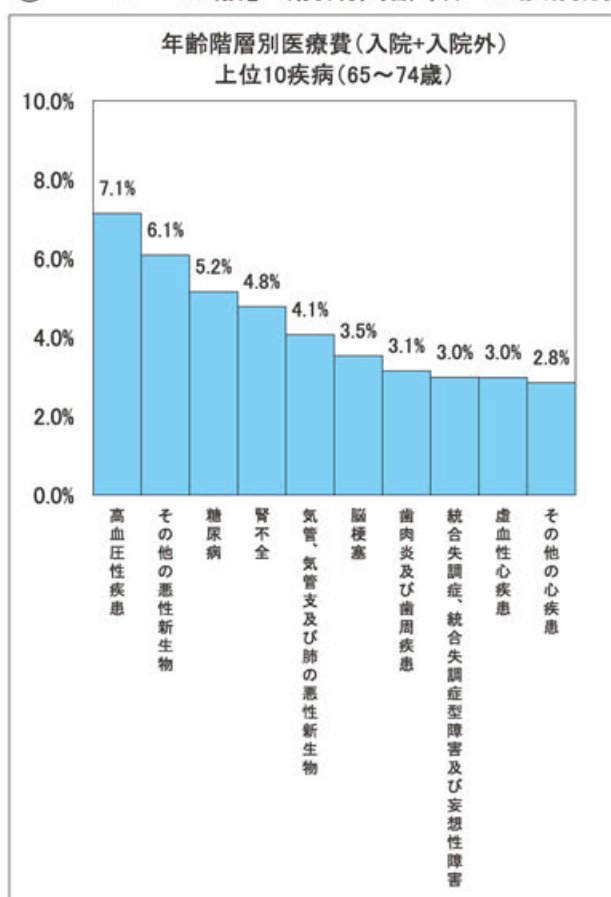
この階層では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」、「その他の損傷及びその他の外因の影響」、「歯肉炎及び歯周疾患」の疾患が多くなっています。また、この年齢層の特徴として産婦人科関係の疾病もみられます。

③ 「40～64 歳」の疾病別医療費



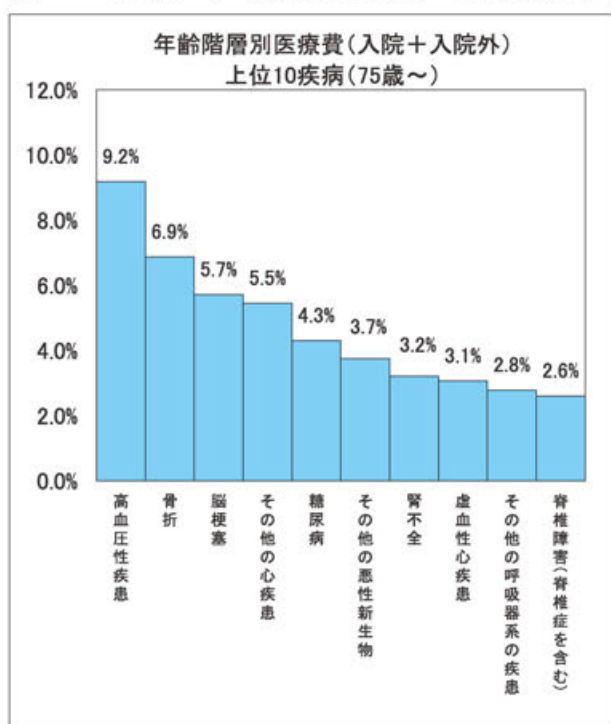
この階層では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が最も多く、次いで「腎不全」、「糖尿病」および「高血圧性疾患」といった生活習慣病が上位を占めています。

④ 「65～74 歳」（前期高齢者）の疾病別医療費



この階層では、「高血圧性疾患」、「糖尿病」、「腎不全」、「脳梗塞」、「虚血性心疾患」、「その他の心疾患」の生活習慣病が多く、これらが約 27%を占めています。

⑤ 「75 歳～」（後期高齢者）の疾病別医療費



この階層では、前期高齢者と同様、「高血圧性疾患」などの生活習慣病が多くなっていますが、高齢者の転倒事故が原因と思われる「骨折」も 2 位となっています。

VI 生活習慣病の状況

1 本県の生活習慣病に係る医療費の状況

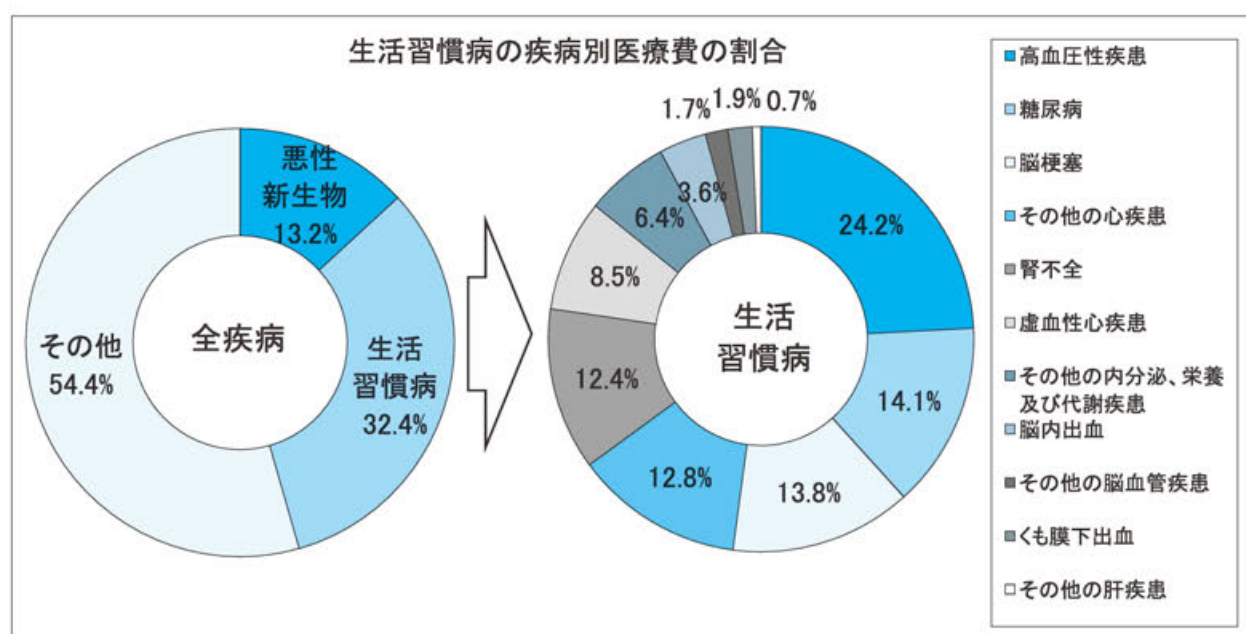
Vの分析に用いた2016（平成28）年5月診療分の県内市町国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータをもとに、「社会保険表章用疾病分類表」（119分類）のうち、次の11分類を生活習慣病として、医療費の状況をみます。

糖尿病
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患
高血圧性疾患
虚血性心疾患
その他の心疾患
くも膜下出血
脳内出血
脳梗塞
その他の脳血管疾患
その他の肝疾患
腎不全

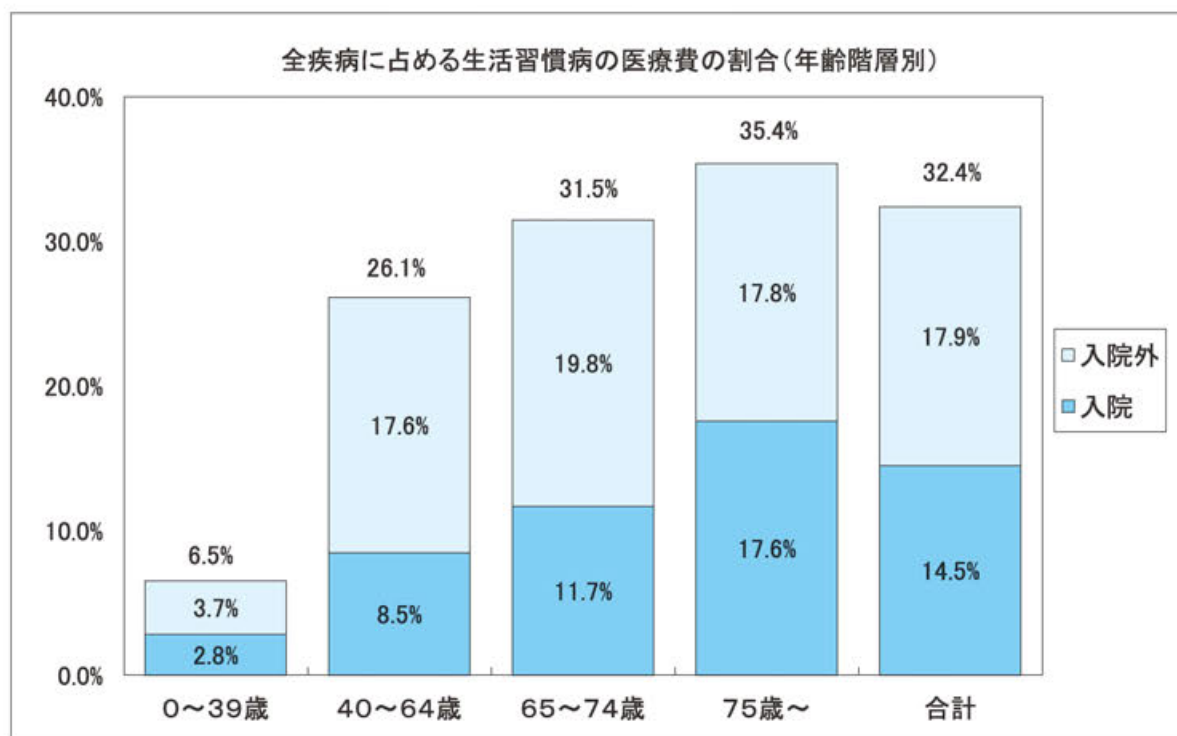
（1）生活習慣病全体の状況

全疾病に占める疾病別の医療費の割合は、生活習慣病が32.4%、次いで悪性新生物が13.2%となっており、生活習慣病の割合が大きくなっています。

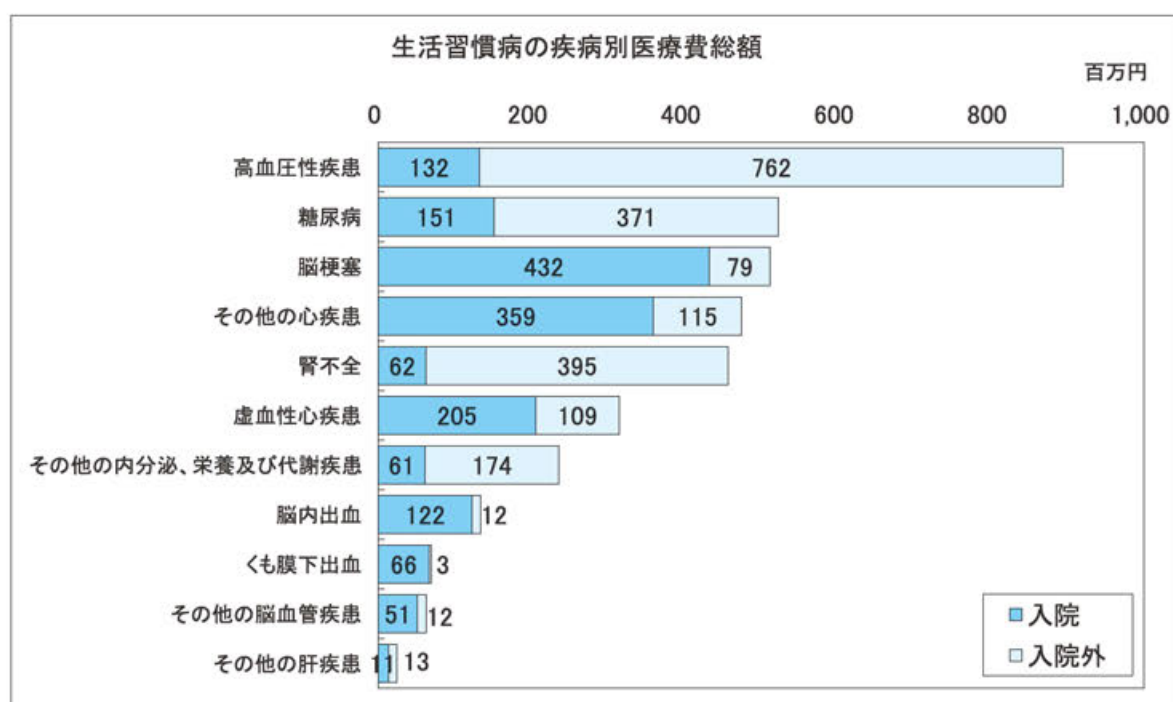
その内訳は、「高血圧性疾患」が最も多く24.2%、次いで「糖尿病」、「脳梗塞」となり、この上位3疾病で生活習慣病の52.1%を占めます。



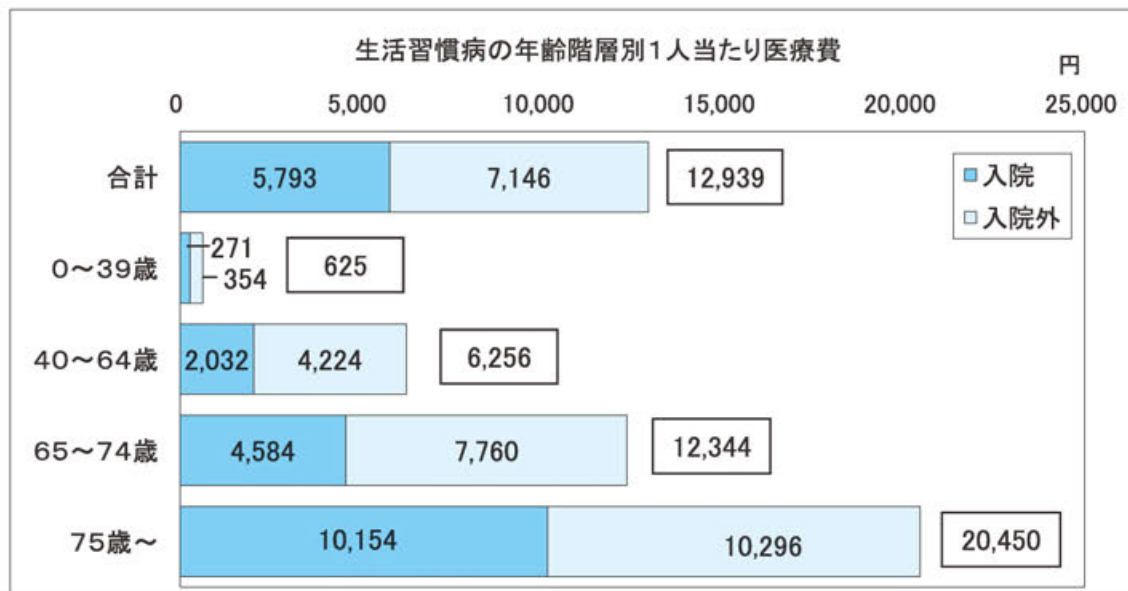
全疾病に占める生活習慣病の医療費の割合を年齢階層別にみると、39歳以下の階層では6.5%ですが、40歳以上になるとその割合が高くなり、75歳以上では35.4%を占めます。



生活習慣病のうち、入院医療費の占める割合の高い疾病は、「脳梗塞」、「その他の心疾患」、「虚血性心疾患」の順となっており、一方、入院外医療費の占める割合の高い疾病は、「高血圧性疾患」、「腎不全」、「糖尿病」の順となっています。



国民健康保険と後期高齢者医療の被保険者 1 人当たりの生活習慣病の医療費は、12,939 円となっています。年齢階層別にみると、年齢が上がるに従い医療費が増加し、75 歳以上の階層では 20,450 円と、65～74 歳の約 1.7 倍となっています。また、入院と入院外との比較では年齢が上がるに従い、入院の割合が高くなっています。



生活習慣病について、各年齢階層の 1 日当たり医療費、1 件当たり日数、受診率をみると、入院、入院外とも年齢が上がるに従い受診率は高くなり、また、1 件当たり日数は 75 歳以上の階層が最も長くなっています。しかし、1 日当たり医療費は、入院では 65～74 歳、入院外では 40～64 歳の階層が最も高くなっています。これは通院患者が年齢とともに重症化、合併症併発等により入院に移行するためと考えられます。

◆ 生活習慣病、年齢階層別、1 人当たり医療費等

入院	1 人当たり 医療費	1 日当たり 医療費	1 件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39 歳	271	46,665	11.9	0.05
40～64 歳	2,032	36,975	16.1	0.34
65～74 歳	4,584	45,442	14.9	0.68
75 歳以上	10,154	26,904	19.1	2.96
県全体	5,793	30,179	18.1	1.06

※ 太字は、40 歳以上の年齢階層で最も高い数値。

入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	354	14,095	1.60	1.57
40～64歳	4,224	14,281	1.58	18.74
65～74歳	7,760	12,498	1.51	41.03
75歳以上	10,296	11,736	1.73	50.78
県全体	7,146	12,217	1.64	35.56

※ 太字は、40歳以上の年齢階層で最も高い数値。

(2) 二次医療圏別の生活習慣病の医療費の状況

二次医療圏別にみると、1人当たり医療費では、生活習慣病全体で奥越医療圏が最も高く、嶺南医療圏が最も低くなっています。

◆ 二次医療圏別、生活習慣病1人当たり医療費

(単位：円)

	生活習慣病 計	糖尿病	高血圧 性疾患	虚血性 心疾患	くも膜下 出血	脳内 出血	脳梗塞	腎不全
福井・坂井	13,435	2,023	3,207	1,149	148	490	1,947	1,612
奥 越	13,912	1,881	3,963	1,200	145	479	1,835	1,669
丹 南	12,564	1,685	2,905	1,065	350	427	1,823	1,739
嶺 南	11,698	1,476	2,827	974	393	458	1,320	1,354
県 計	12,939	1,827	3,127	1,100	242	468	1,789	1,598

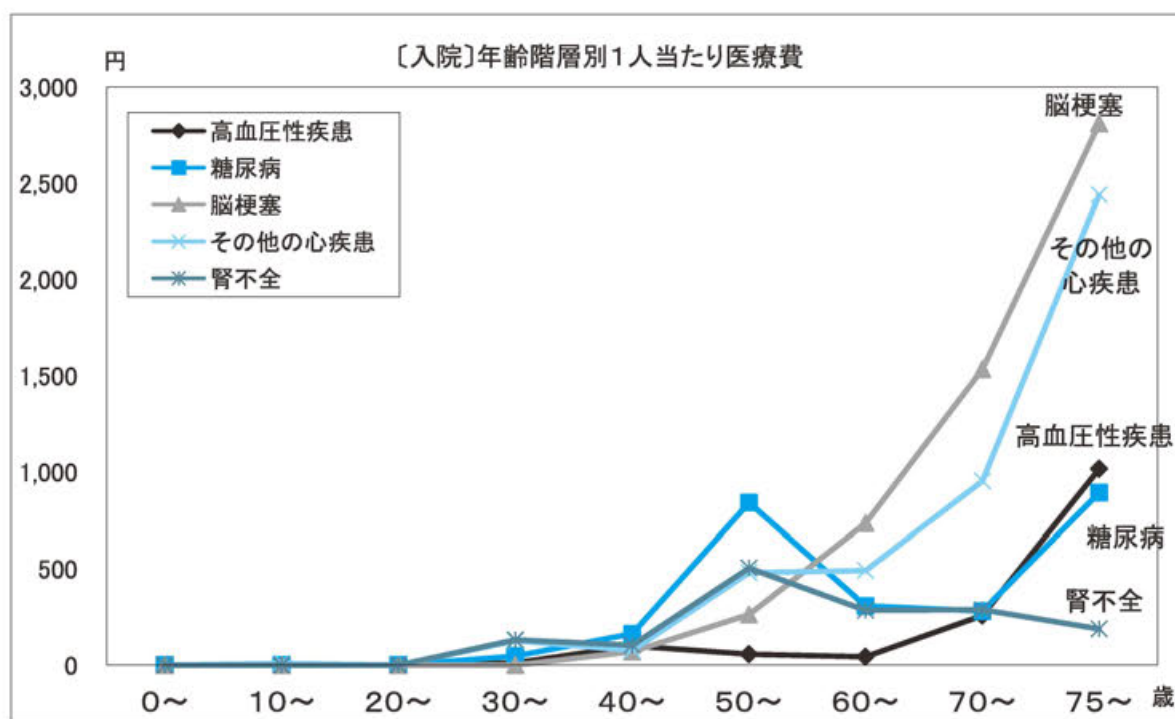
※ 「生活習慣病 計」には、この表に記載されていない疾病を含む。

(3) 高齢期に重症化する生活習慣病

① 入院医療費

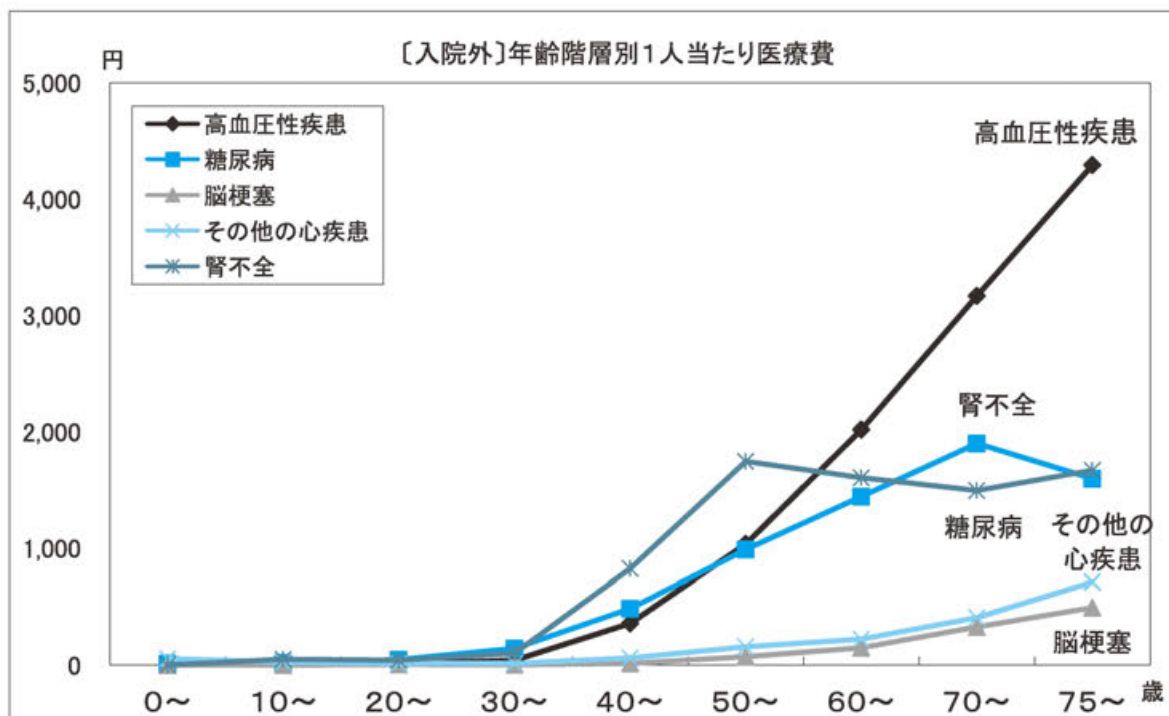
生活習慣病のうち医療費の高い5疾病（高血圧性疾患、糖尿病、脳梗塞、腎不全、その他の心疾患）の入院医療費について、1人当たり医療費の年齢階層毎の変化をみると、50歳代において糖尿病、腎不全、その他の心疾患の医療費が増加しています。このことから、潜在的な重症化が進むと考えられる40歳代から重点的に対策を行う必要があります。

また、70歳以降については、脳梗塞、その他の心疾患、高血圧性疾患の医療費が急増しています。



② 入院外医療費

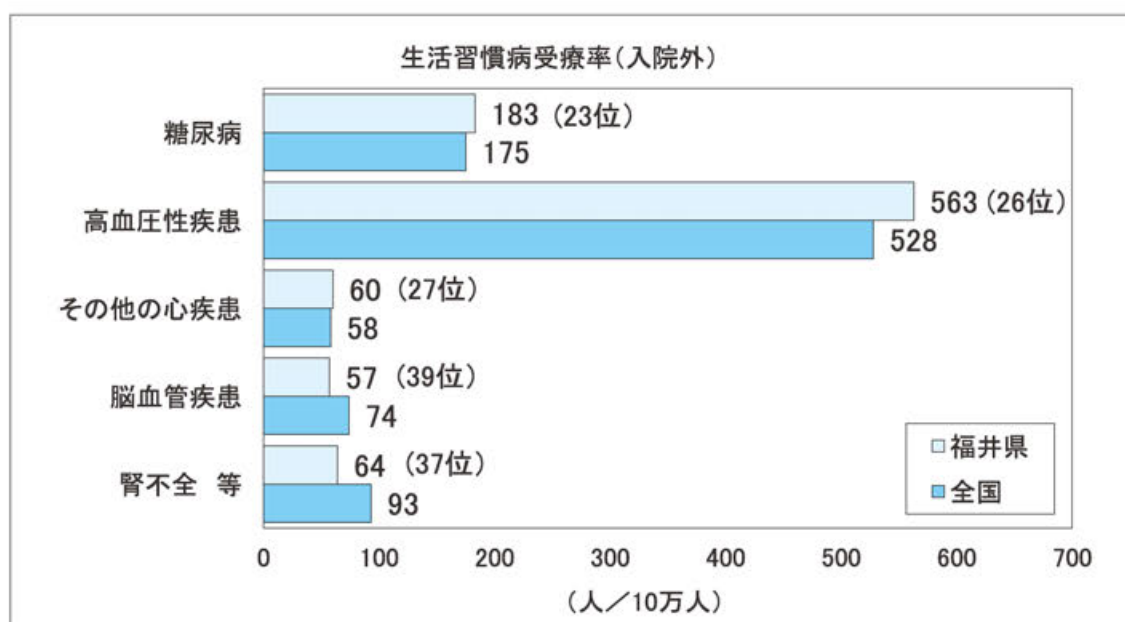
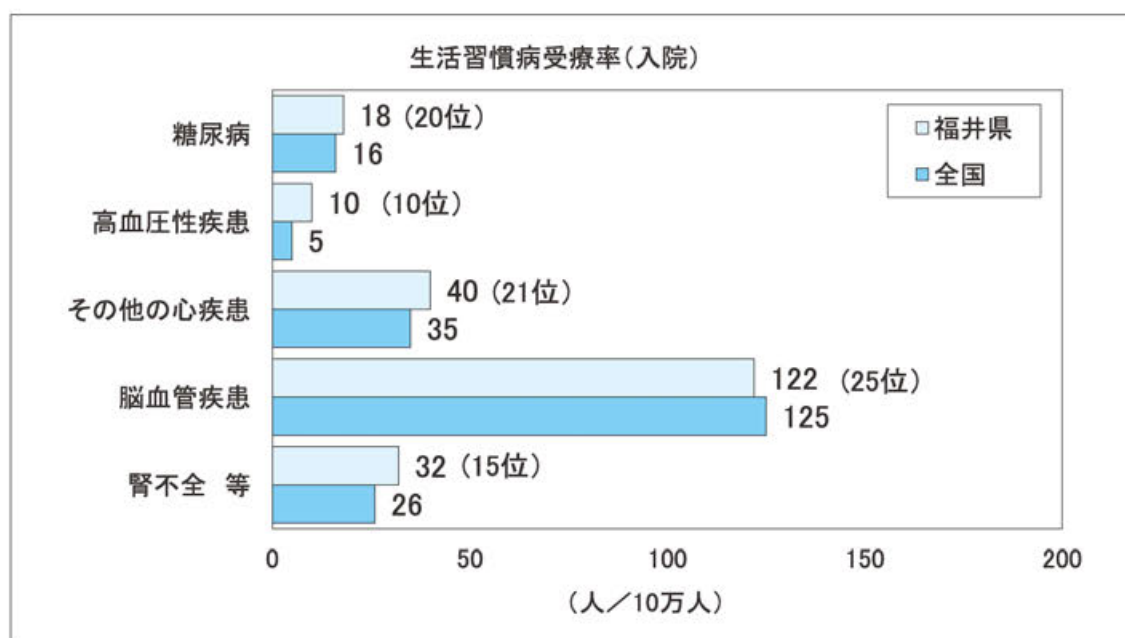
生活習慣病のうち医療費の高い5疾病（高血圧性疾患、糖尿病、脳梗塞、腎不全、その他の心疾患）の入院外医療費について、1人当たり医療費の年齢階層毎の変化をみると、40歳代で1人当たり医療費が増加していることがわかります。とりわけ高血圧性疾患については、他の疾患と比べて大きく増加しています。このことから、入院医療費と同様、潜在的な重症化が進むと考えられる40歳代において重点的に対策を行う必要があります。



2 受療動向

2014（平成 26）年「患者調査」から本県の生活習慣病に分類される主な傷病の受療率をみると、入院では、脳血管疾患が 122 人（対人口 10 万人）と高く、以下、その他の心疾患 40 人、腎不全等が 32 人となっています。全国と比較すると、脳血管疾患を除き、全ての疾患で全国を上回っています。

入院外では、高血圧性疾患が 563 人と高く、以下、糖尿病 183 人、腎不全等が 64 人となっています。全国と比較すると、糖尿病とその他の心疾患が全国を上回っています。

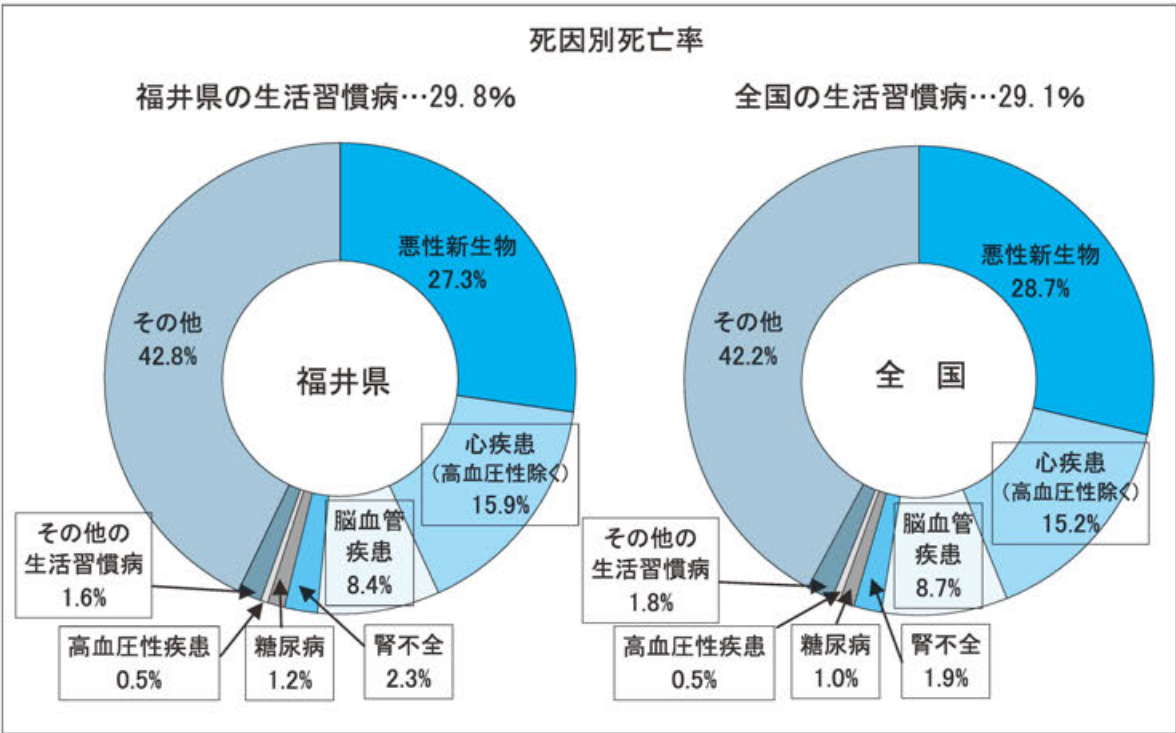


※「腎不全 等」とは、「糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全」をいう。

出典：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

3 死亡率

本県の生活習慣病による死亡率は29.8%で、全国とほぼ同水準となっています。悪性新生物を除き、生活習慣病の死亡率の構成をみると、心疾患（高血圧性を除く）（15.9%）が最も多く、続いて脳血管疾患（8.4%）、腎不全（2.3%）となっており、全国と同様の傾向を示しています。



出典：厚生労働省「平成27年人口動態調査」

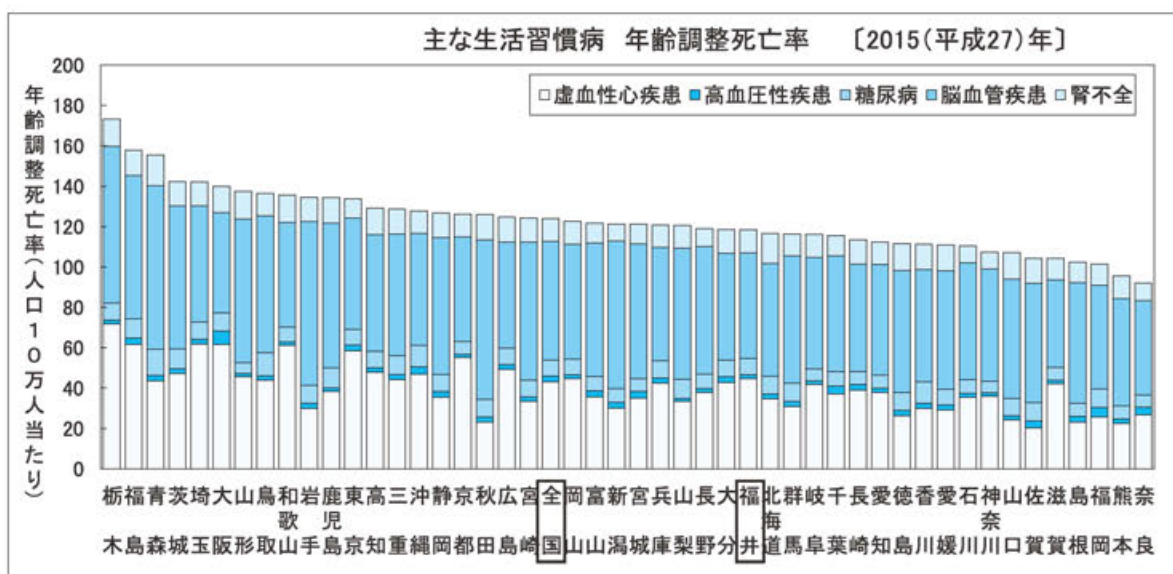
また、主な生活習慣病について、人口10万人当たりの年齢調整死亡率を比較すると、本県では糖尿病、虚血性心疾患、腎不全が全国を上回っています。

◆ 主な生活習慣病の年齢調整死亡率（人口10万人当たり）

（単位：人）

都道府県	糖尿病	高血圧性疾患	虚血性心疾患	脳血管疾患	腎不全	左の計
福井県	8.1 (25位)	2.0 (34位)	44.6 (14位)	52.2 (41位)	11.5 (25位)	118.4 (29位)
全国	8.0	2.8	43.1	58.8	11.3	124.0
栃木県	8.5 (20位)	1.9 (37位)	71.7 (1位)	77.6 (4位)	13.5 (4位)	173.2 (1位)
奈良県	6.1 (44位)	3.7 (4位)	26.8 (40位)	46.8 (46位)	8.7 (44位)	92.1 (47位)

出典：厚生労働省「平成27年都道府県別年齢調整死亡率」



出典：厚生労働省「平成27年都道府県別年齢調整死亡率」

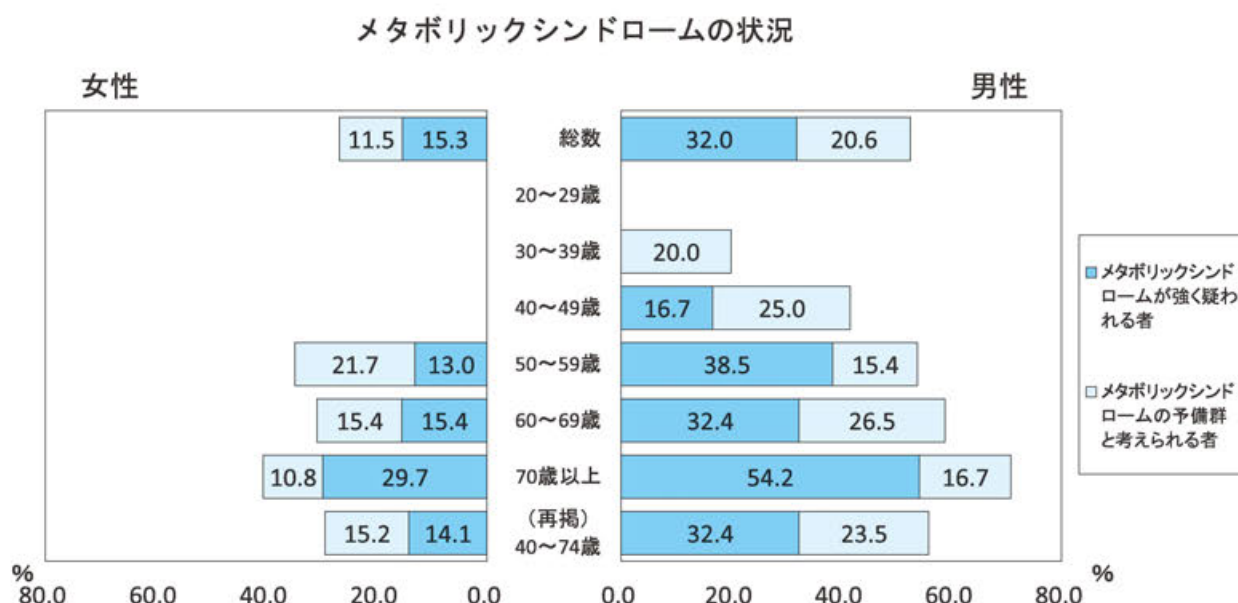
4 メタボリックシンドロームおよび糖尿病、高血圧症、脂質異常症の状況

[2016(平成28)年度「県民健康・栄養調査」]

(1) メタボリックシンドロームの状況

メタボリックシンドロームが強く疑われる者と予備群と考えられる者を合わせた割合は、男性では全体の52.6%、女性では26.8%と男性の方が高くなっています。

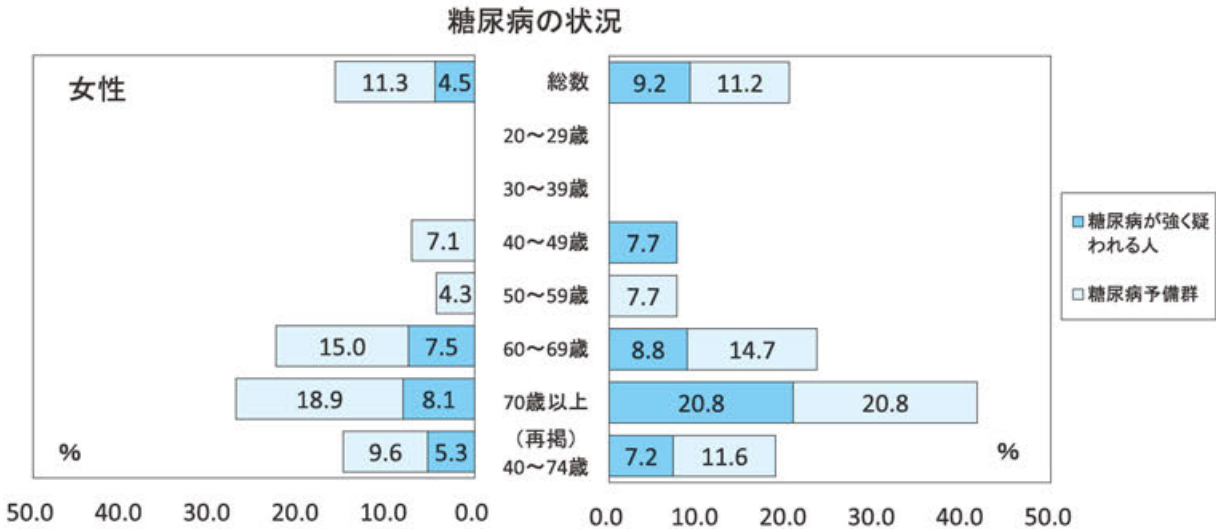
また、年齢階層別でみると、男女とも70歳以上の割合が最も高くなっています。



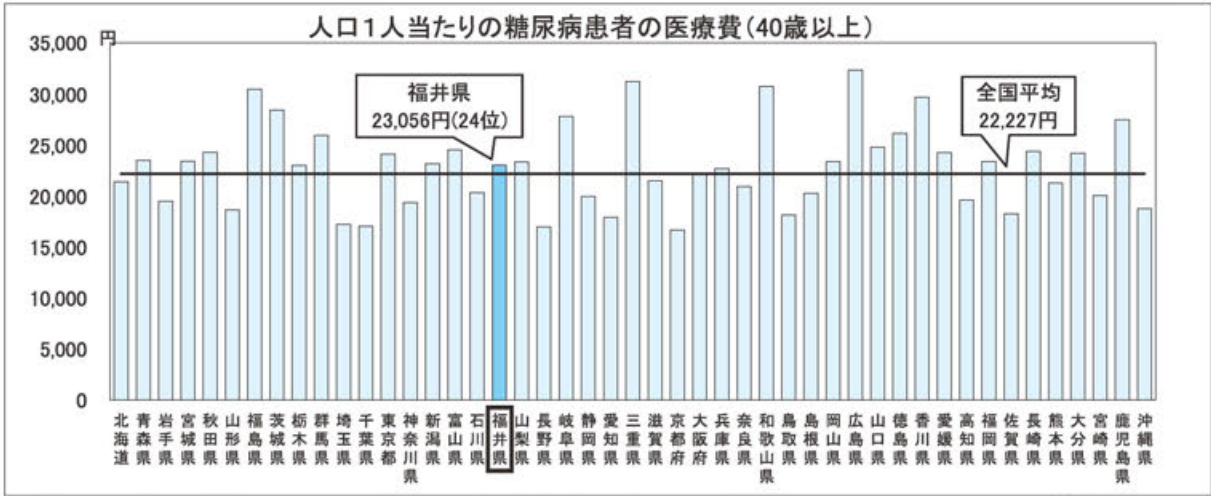
(2) 糖尿病の状況

糖尿病が強く疑われる者と予備群を合わせた割合は、男性では全体の 20.4%、女性では 15.8%と男性の方が高くなっています。

また、年齢階層別でみると、男女とも 60 歳代から大きく増加しています。



1 人当たりの糖尿病患者の医療費（40 歳以上）をみると、本県は 23,056 円（全国 24 位）となっており、全国平均を上回っています。また、糖尿病性腎症由来の新規透析導入患者についても増加傾向にあります。



出典：厚生労働省「NDB（ナショナルデータベース）データ」（平成 25 年 10 月レセプト）

本県における透析患者数および新規透析導入患者数の推移

	2012 年 (平成 24 年)	2013 年 (平成 25 年)	2014 年 (平成 26 年)	2015 年 (平成 27 年)	2016 年 (平成 28 年)
透析患者数	1,793 人	1,790 人	1,796 人	1,797 人	1,837 人
新規透析導入患者数	285 人	308 人	269 人	280 人	330 人
うち糖尿病性腎症由来 (割合)	117 人 (41.1%)	129 人 (41.9%)	141 人 (52.4%)	125 人 (44.6%)	181 人 (54.8%)

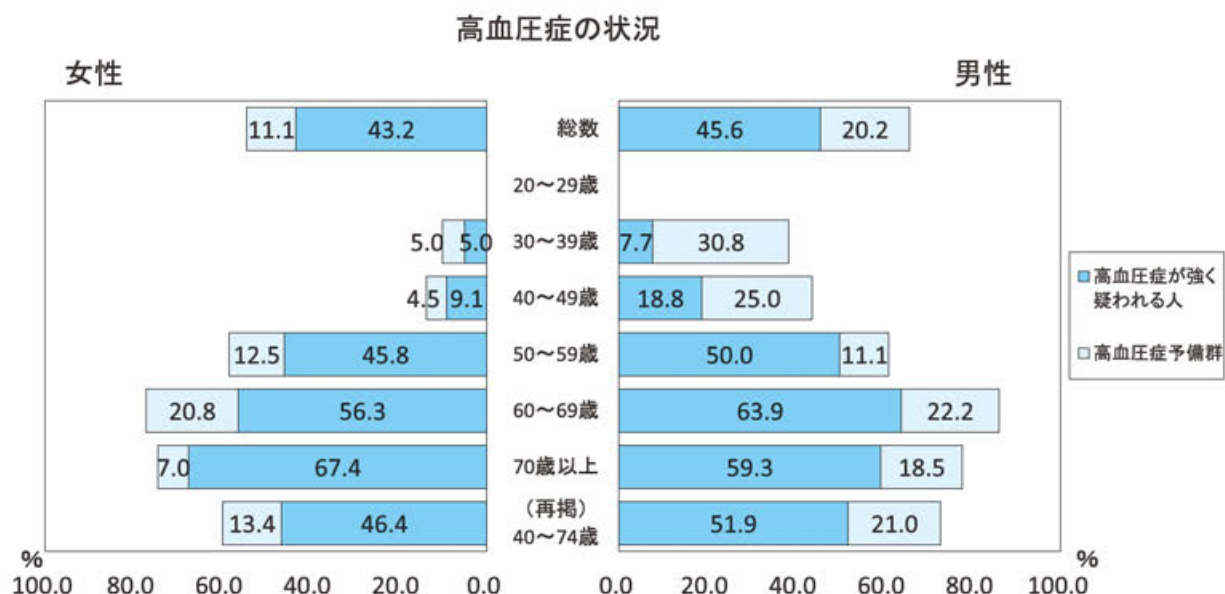
※透析患者数（毎年 12 月 31 日現在）、新規透析導入患者数（毎年 1 月～12 月）

出典：福井県独自調査「透析医療提供体制等に関する調査」

(3) 高血圧症の状況

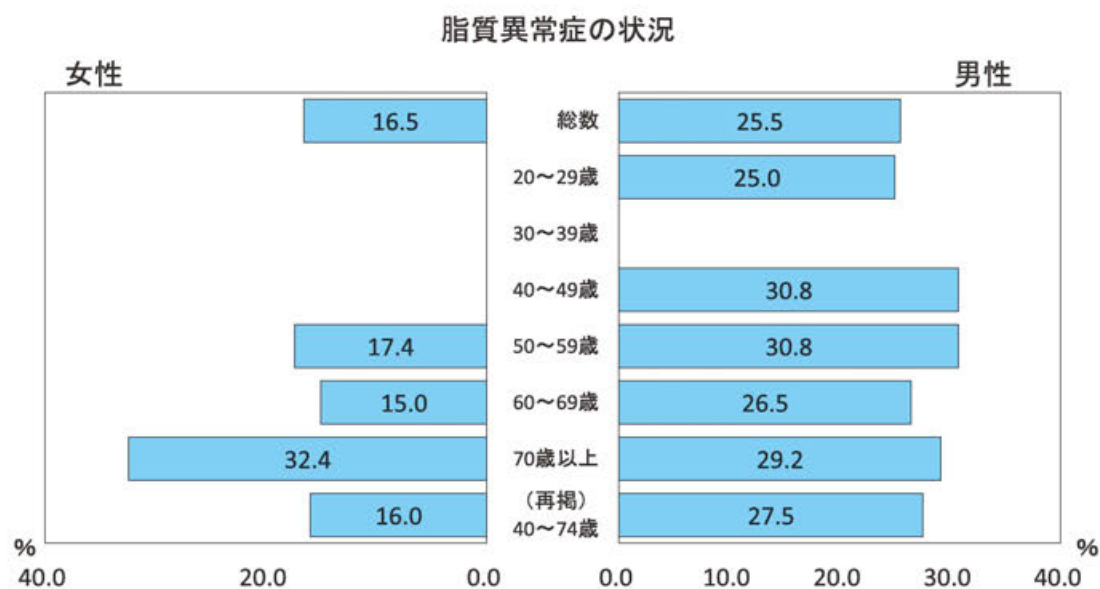
高血圧症が強く疑われる者と予備群を合わせた割合は、男性が 65.8%、女性が 54.3%と、男性の方が高くなっています。

また、年齢階層別にみると、男女とも概ね年代が高くなるに従い、その割合が高くなっています。



(4) 脂質異常症の状況

脂質異常症の割合は男性が 25.5%、女性が 16.5%と、男性の方が高くなっています。



Ⅶ 本県の被用者保険（協会けんぽ）医療費の動向

1 本県の被用者保険医療費

本県の 2016（平成 28）年度の被用者保険（協会けんぽ）医療費は総額約 498 億円となっています。協会けんぽの加入者は、主に健康保険の適用事業所で働く会社員（民間会社の勤労者）やその被扶養者などが多く、加入者数は 2016（平成 28）年度平均で 291,428 人となっています。

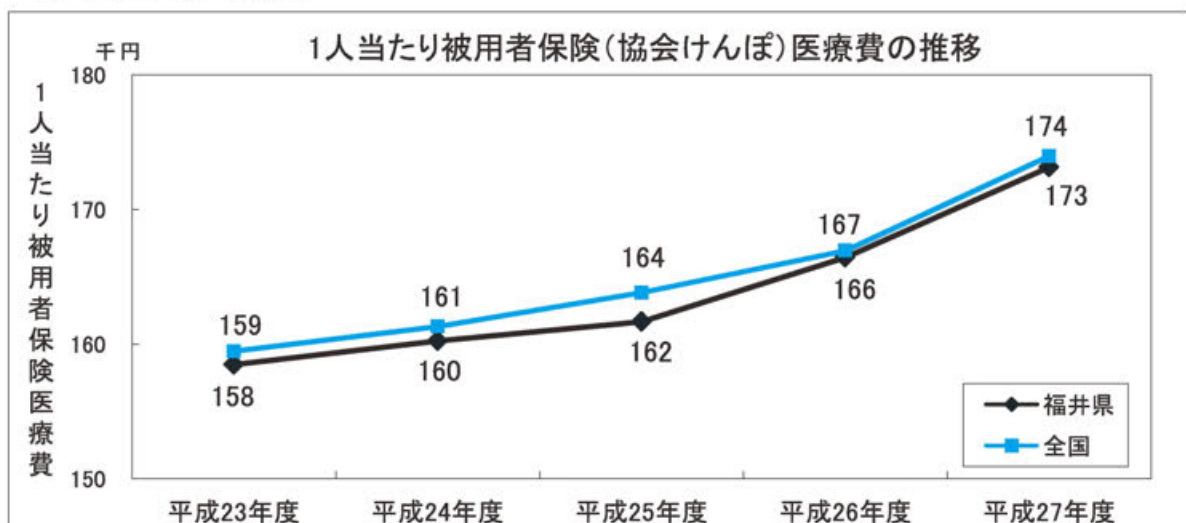
加入者数（2016 年度平均）	291,428 人
男性	142,411 人（48.8%）
女性	149,017 人（51.2%）

年齢階級別	加入者数（人）	割合
0～9 歳	31,939	10.96%
10～19 歳	36,727	12.60%
20～29 歳	38,204	13.11%
30～39 歳	44,510	15.27%
40～49 歳	52,511	18.02%
50～59 歳	44,349	15.22%
60～69 歳	37,018	12.70%
70 歳～	6,171	2.12%

出典：全国健康保険協会「平成 28 年度加入者基本情報データ」

（1）1 人当たり被用者保険医療費の推移

本県の 1 人当たり被用者保険医療費は、増加傾向にあり、2015（平成 27）年度は、173,143 円（全国 27 位）となっており、対前年度の伸び率が 4.03%と大きくなっています。



出典：全国健康保険協会「都道府県医療費の状況」

(2) 1人当たり被用者保険医療費（入院）の状況

本県の1人当たり入院医療費は全国12位と高く、その構成要素をみると、1日当たり医療費は全国平均を下回っていますが、1件当たり日数および受診率は全国平均を上回っています。この2つの指標の高さが1人当たり入院医療費のに影響していると考えられます。

また、国民健康保険と同様、1件当たり日数は本県、全国ともに減少傾向を示していますが、1日当たり医療費は増加傾向にあり、この傾向は在院日数の短縮に伴う影響と考えられます。

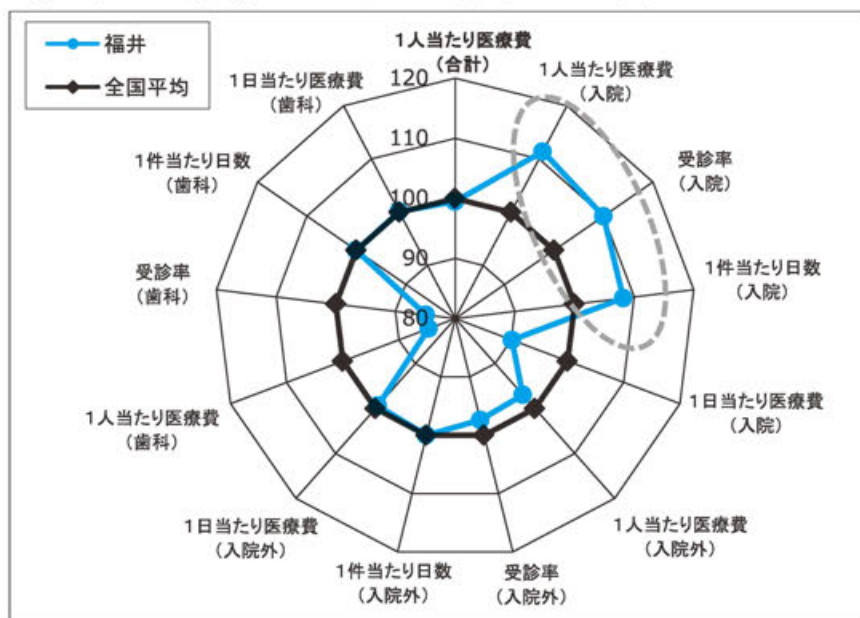
◆ 被用者保険医療費（入院）に関する指標

	年度	1人当たり医療費			1日当たり医療費			1件当たり日数			受診率 (100人当たり受診件数)		
		順位	円	伸び率	順位	円	伸び率	順位	日	伸び率	順位	%	伸び率
福井県	2012	9位	51,110	5.3	37位	40,790	6.5	9位	11.03	-1.3	8位	11.36	0.2
	2013	14位	49,407	-3.3	39位	41,507	1.8	13位	10.83	-1.8	12位	10.99	-3.2
	2014	11位	51,568	4.4	39位	42,481	2.3	7位	10.90	0.7	9位	11.13	1.3
	2015	12位	52,944	2.7	39位	43,503	2.4	6位	10.76	-1.3	12位	11.31	1.5
全 国	2012		45,204	3.0		44,576	5.1		10.35	-1.5		9.80	-0.5
	2013		45,716	1.1		45,805	2.8		10.24	-1.0		9.74	-0.6
	2014		46,379	1.4		47,106	2.8		10.09	-1.5		9.75	0.1
	2015		47,539	2.5		48,260	2.4		9.94	-1.5		9.91	1.6

出典：全国健康保険協会「都道府県医療費の状況」

《参考》 福井支部と全国平均の診療諸比率比較 ～医療費構成要素レーダーチャート～

加入者1人当たり医療費および医療費を構成する三要素について全国平均と比較すると、福井支部の特徴である入院医療費が高い要因は受診率および1件当たり日数の長さの影響によるものと推測できます。



(3) 1人当たり被用者保険医療費（入院外）の状況

本県の1人当たり入院外医療費は全国40位と低く、その構成要素をみると1日当たり医療費と1件当たり日数は全国平均並みであり、受診率は全国平均を下回っています。また、入院医療費と同様、入院外医療費についても1件当たり日数は本県、全国ともに減少傾向を示していますが、受診率と1日当たり医療費は増加傾向にあり、1人当たり医療費の増加要因となっています。

◆ 被用者保険医療費（入院外）に関する指標

	年度	1人当たり医療費			1日当たり医療費			1件当たり日数			受診率 (100人当たり受診件数)		
		順位	円	伸び率	順位	円	伸び率	順位	日	伸び率	順位	%	伸び率
福井県	2012	40位	90,107	-1.0	27位	10,168	1.7	18位	1.52	-2.5	38位	581.8	-0.2
	2013	37位	93,019	3.2	27位	10,603	4.3	20位	1.50	-1.4	38位	583.9	0.4
	2014	37位	94,815	1.9	24位	10,946	3.2	22位	1.48	-1.4	38位	585.0	0.2
	2015	40位	99,973	5.4	23位	11,487	4.9	22位	1.46	-1.1	38位	594.5	1.6
全 国	2012		93,702	0.5		10,367	1.8		1.51	-1.9		599.1	0.6
	2013		95,704	2.1		10,776	3.9		1.49	-1.3		596.3	-0.5
	2014		97,528	1.9		11,040	2.5		1.48	-0.9		598.6	0.4
	2015		103,218	5.6		11,552	4.6		1.46	-0.9		609.8	1.9

出典：全国健康保険協会「都道府県医療費の状況」

さらに、糖尿病にかかる入院外医療費は全国16位と全国平均を上回っており、受診率は低下傾向にありますが、1件当たり日数が全国平均より高くなっています。

◆ 糖尿病にかかる医療費（入院外）に関する指標

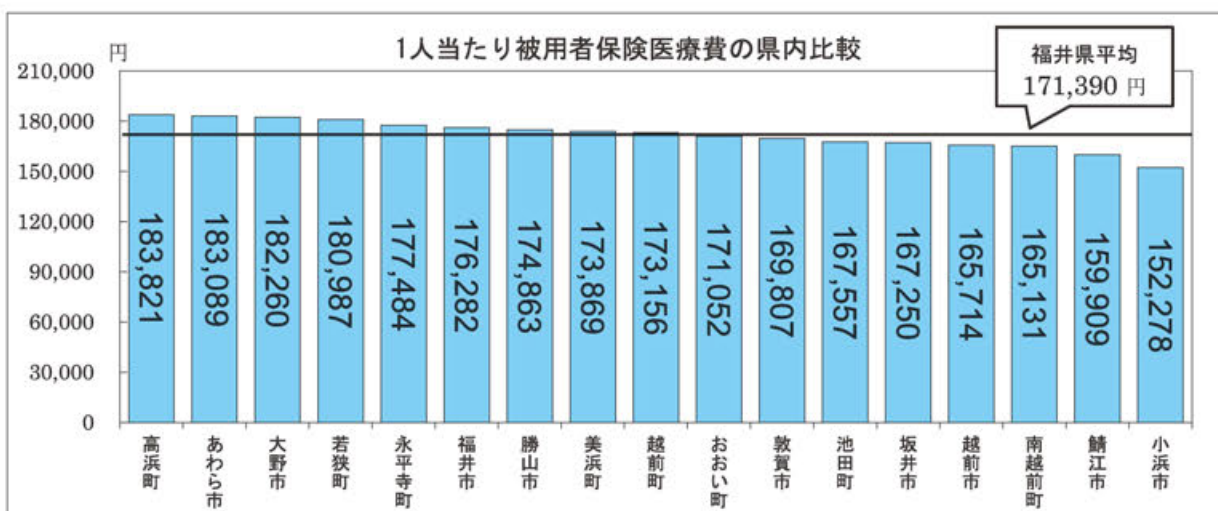
	年度	1人当たり医療費			1日当たり医療費			1件当たり日数			受診率 (100人当たり受診件数)		
		順位	円	伸び率	順位	円	伸び率	順位	日	伸び率	順位	%	伸び率
福井県	2012	10位	5,877	-2.3	22位	21,376	2.5	3位	1.47	-3.1	29位	18.72	-1.6
	2013	12位	6,035	2.7	26位	21,927	2.6	3位	1.44	-1.6	25位	19.06	1.8
	2014	13位	6,151	1.9	23位	22,465	2.5	3位	1.42	-1.4	27位	19.23	0.9
	2015	16位	6,437	4.6	21位	23,941	6.6	3位	1.40	-1.9	32位	19.24	0.04
全 国	2012		5,411	0.4		21,381	2.8		1.35	-2.3		18.73	-0.04
	2013		5,632	4.1		22,368	4.6		1.33	-1.3		18.88	0.8
	2014		5,739	1.9		22,456	0.4		1.33	-0.1		19.17	1.5
	2015		6,000	4.6		23,603	5.1		1.31	-1.8		19.43	1.4

出典：全国健康保険協会「都道府県医療費の状況」

2 県内市町、二次医療圏の被用者保険医療費の状況

(1) 1人当たり被用者保険医療費の状況

2015（平成 27）年度の県内市町別の 1 人当たり医療費をみると、最高が高浜町の 18 万 4 千円で最低が小浜市の 15 万 2 千円となっています。

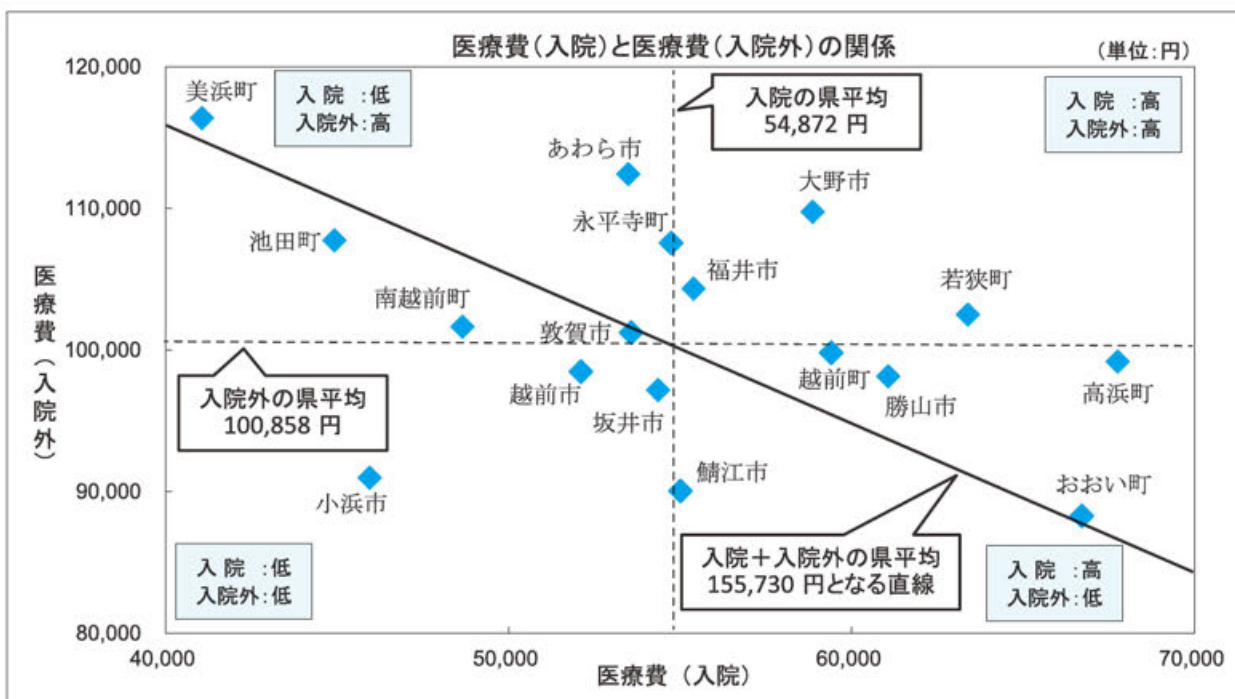


出典：全国健康保険協会福井支部

※ 市町別集計は加入者の「郵便番号」をもとに行っており、加入者の郵便番号が不明なデータは集計することができないため、55 頁および 56 頁に記載している 1 人当たり被用者保険医療費の数値と一致しない。

(2) 1人当たり被用者保険医療費の入院と入院外の関係

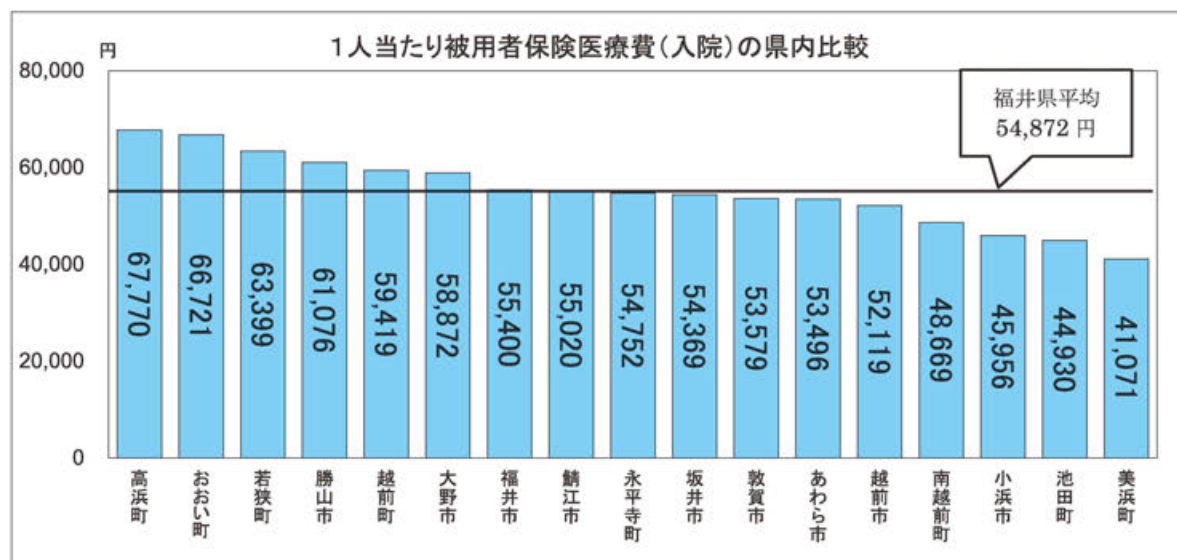
1 人当たりの入院と入院外医療費の関係をみると、福井市と大野市、若狭町が入院、入院外とも県全体より高くなっています。一方、小浜市や越前市、坂井市は入院、入院外ともに低くなっています。



出典：全国健康保険協会福井支部

(3) 1人当たり被用者保険医療費（入院）の状況

1人当たり入院医療費では、最高が高浜町の6万8千円、最低が美浜町の4万1千円となっています。



出典：全国健康保険協会福井支部

1人当たり入院医療費を二次医療圏別にみると、福井・坂井医療圏と奥越医療圏が福井県平均を上回っています。医療圏ごとにみると、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高く、受診率も県平均を上回っていますが、1件当たり日数が県内で最も短くなっています。
- 奥越医療圏は、1日当たり医療費が県平均を下回っていますが、1件当たり日数および受診率が県内で最も高いことから1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費、1件当たり日数が県平均並みとなっていますが、受診率が県内で最も低くなっています。
- 嶺南医療圏は、1件当たり日数と受診率が県全体を上回っていますが、1日当たり医療費が県内で最も低いことから、1人当たり医療費は県内で最も低くなっています。

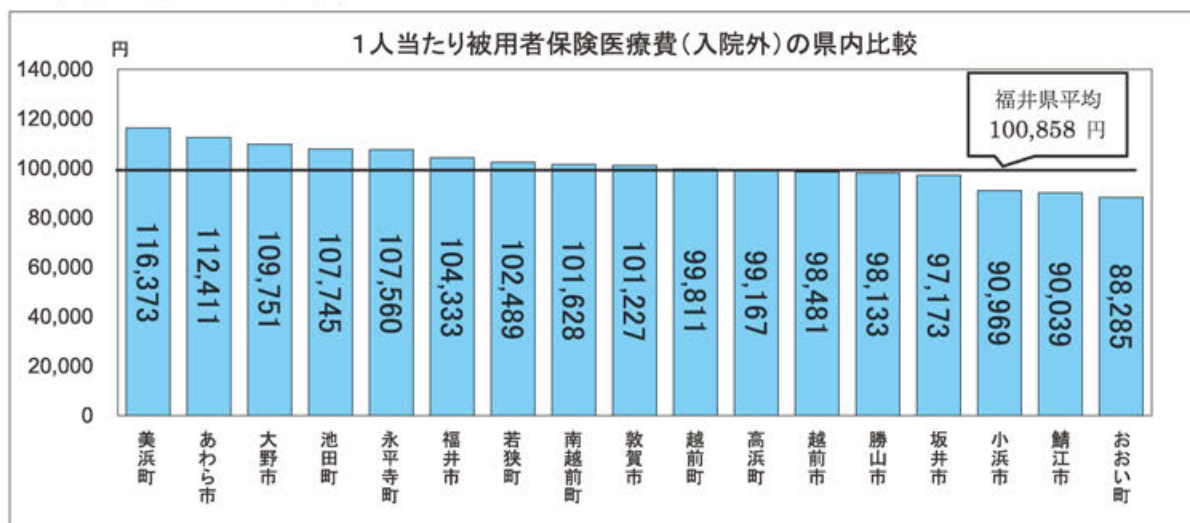
◆ 被用者保険医療費（入院）に関する指標

医療圏	1人当たり医療費	1日当たり医療費	1件当たり日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	55,000	44,298	10.68	11.62
奥越	59,783	42,805	11.40	12.26
丹南	53,807	43,515	11.02	11.22
嶺南	53,689	41,052	11.16	11.72
福井県	54,872	43,462	10.90	11.58

出典：全国健康保険協会福井支部

(4) 1人当たり被用者保険医療費（入院外）の状況

入院外医療費では、最高が美浜町の11万6千円、最低がおおい町の8万8千円となっています。



出典：全国健康保険協会福井支部

1人当たり入院外医療費を二次医療圏別にみると、福井・坂井医療圏と奥越医療圏が福井県平均を上回っています。医療圏ごとにみると、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県平均を下回っていますが、受診率が県内で最も高くなっています。
- 奥越医療圏は、1日当たり医療費および受診率が県全体を下回っていますが、1件当たり日数が県内で最も多くなっていることから1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費が県平均を上回っていますが、1件当たり日数が県平均を下回り、受診率も県内で最も低いことから1人当たり医療費は県内で最も低くなっています。
- 嶺南医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高くなっていますが、1件当たり日数が県内で最も少なく、受診率も県平均を下回っています。

◆ 被用者保険医療費（入院外）に関する指標

医療圏	1人当たり医療費	1日当たり医療費	1件当たり日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	103,310	11,370	1.48	615.60
奥越	104,946	11,410	1.57	584.19
丹南	95,616	11,679	1.44	567.45
嶺南	99,099	11,988	1.42	582.35
福井県	100,858	11,536	1.47	595.96

出典：全国健康保険協会福井支部

◇ 被用者保険（協会けんぽ）の医療費基本情報による本県医療費の状況

全国健康保険協会が公表している 2016（平成 28）年 4 月～2017（平成 29）年 3 月診療分の医療費基本情報をもとに、本県の被用者保険（協会けんぽ）の医療費状況をみてみます。

◆2016（平成 28）年 4 月～2017（平成 29）年 3 月診療分の医療費基本情報の概要

	全体	入院	入院外
医療費	495 億 8,031 万円	159 億 9,089 万円	335 億 8,942 万円
レセプト件数	2,165,891 件	32,279 件	2,133,612 件
加入者数	291,428 人（年度平均）		

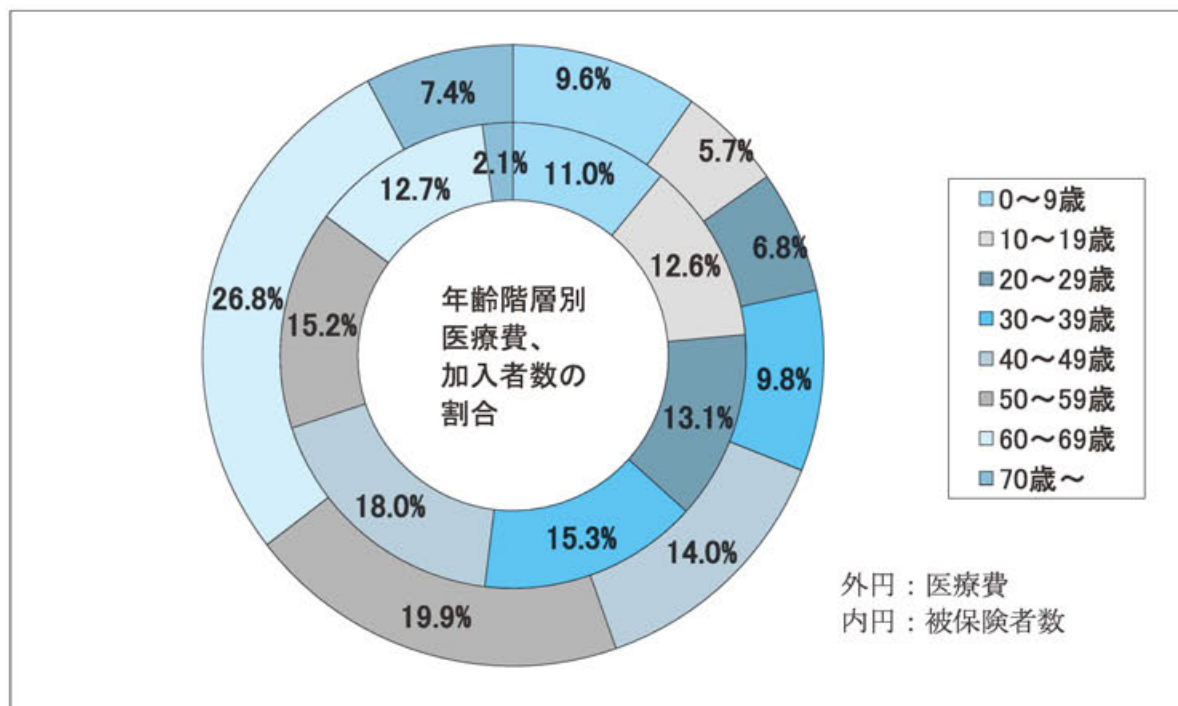
※ 医療費は、入院に係る診療費および入院外（外来）に係る診療費をいい、入院外レセプトと突合できる調剤レセプト分も入院外の点数に含まれています。また、歯科診療費についても入院外に含めています。

※ 分析にあたり、年齢不詳者にかかる医療費を除いています。

※ データのレセプト件数、日数、点数（調剤を含む）はいずれも「請求ベース」の数値であり、ホームページに掲載されている「協会けんぽ月報」との数値とは一致しません。

3 年齢階層別医療費状況

県内被用者保険（協会けんぽ）の加入者数約 29 万人のうち、48.0%が 40 歳以上となっており、その医療費は全体の 68.1%を占めています。

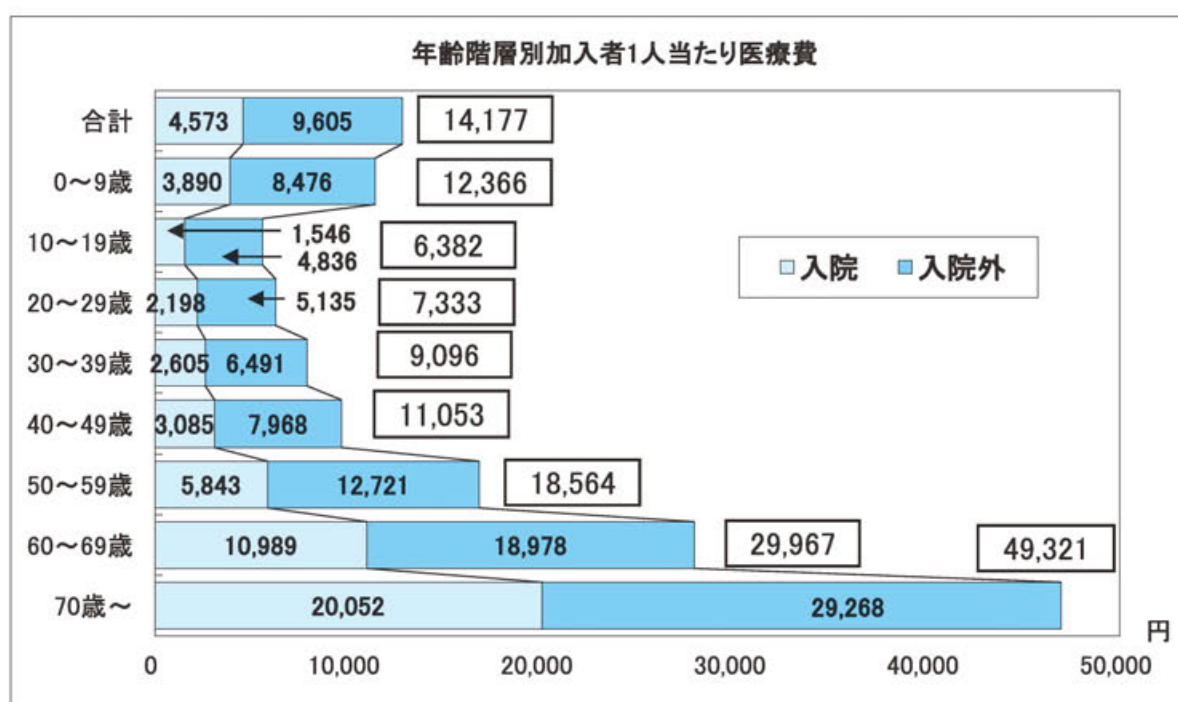


4 1人当たり医療費

加入者1人当たり医療費（2016（平成28）年4月～2017（平成29）年3月診療分における年度平均）は14,177円/月であり、27ページに記載している国民健康保険（市町国保）と後期高齢者医療の被保険者1人当たり医療費の約3分の1程度となっています。

0～9歳では12,366円と高くなっていますが、1人当たり医療費が最も低い10～19歳では6,382円、最も高い70歳以上では49,321円と、約7.7倍程度の差があります。

また、国民健康保険（市町国保）と後期高齢者医療では、年齢が上がるに従い、入院医療費の占める割合が高くなっていますが、被用者保険においては、どの年齢階層においても入院外医療費の占める割合が高くなっています。



年齢階層別加入者1人当たり医療費

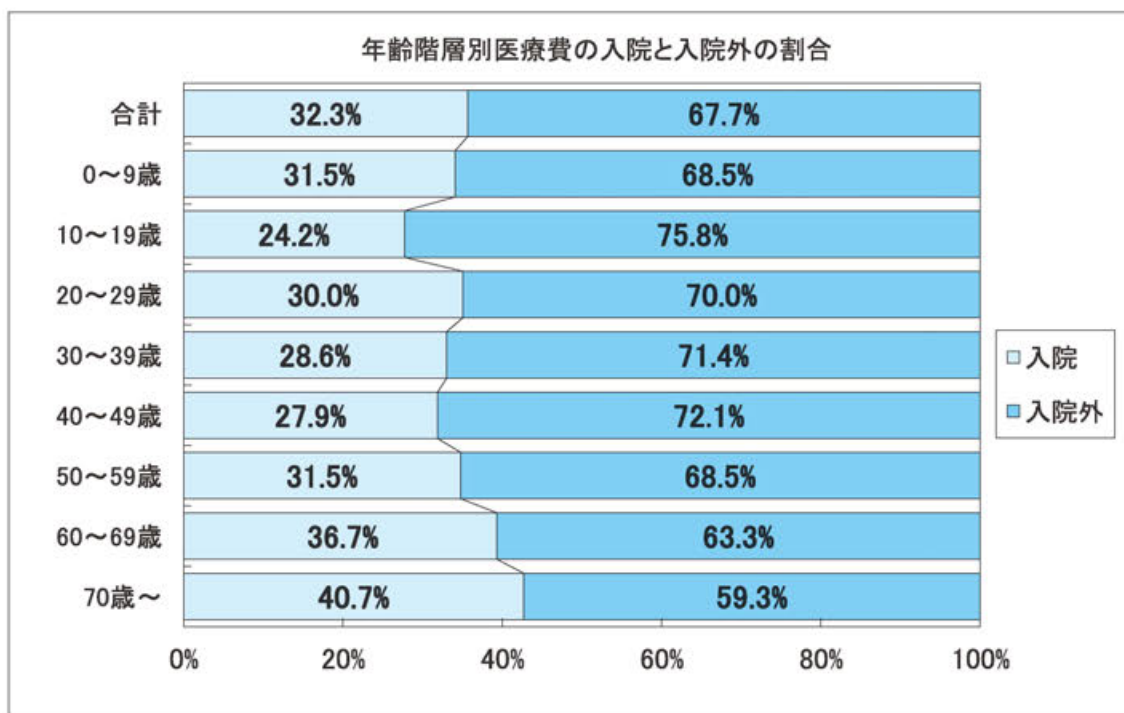
年齢階層に属する加入者の医療費

=

年齢階層に属する加入者数

（したがって、患者1人当たり医療費とは異なります。）

次に、年齢階層別に入院と入院外医療費の割合をみると、全体では入院が32.3%、入院外が67.7%となっています。0～9歳では入院の割合が約32%となっており、10～19歳で入院の割合が下がっているものの、20歳以上の年齢階層においては、年齢とともに入院の割合が高くなる傾向にあります。



5 入院医療費の状況

〔年齢階層別〕

加入者 1 人当たり入院医療費を年齢階層ごとに 1 日当たり医療費、1 件当たり日数、受診率の構成要素別にみると次のようになります。

○ 「0～9 歳」の階層

1 日当たり医療費と受診率が高いことから、1 人当たり医療費は高くなっていますが、1 件当たり日数は最も短くなっています。

○ 「40～49 歳」の階層

1 日当たり医療費が 0～9 歳の次に高くなっており、1 人当たり医療費がこの年齢階層から高まってきています。

○ 「50～59 歳」の階層

1 人当たり医療費を含め、全ての要素が県平均を上回っています。

○ 「70 歳以上」の階層

1 日当たり医療費は県平均を下回っていますが、受診率が高く、1 件当たり日数が長いことから、1 人当たり医療費は、この階層が最も高くなっています。

入 院	1 人当たり 医療費	1 日当たり 医療費	1 件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
0～9 歳	3,890	57,630	6.49	1.04
10～19 歳	1,546	46,778	9.37	0.35
20～29 歳	2,198	33,988	10.27	0.63
30～39 歳	2,605	39,572	9.13	0.72
40～49 歳	3,085	49,313	10.34	0.61
50～59 歳	5,843	48,596	11.69	1.03
60～69 歳	10,989	48,552	12.21	1.85
70 歳以上	20,052	45,955	13.05	3.34
福 井 県	4,573	46,826	10.58	0.92

※ 太字は年齢階層で最も高い数値。以下同じ。

6 入院外医療費の状況

〔年齢階層別〕

入院外医療費を年齢階層別にみると、0～9歳の階層を除き、加齢に伴い1件当たり日数と受診率が高くなっていくことから、高齢になるほど1人当たり医療費は高くなっています。特に、50歳以上になると1人当たり医療費が大きく増加しています。

入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
0～9歳	8,476	6,593	1.51	85.0
10～19歳	4,836	8,259	1.35	43.5
20～29歳	5,135	8,810	1.43	40.9
30～39歳	6,491	9,591	1.46	46.4
40～49歳	7,968	10,696	1.49	49.9
50～59歳	12,721	11,943	1.54	69.3
60～69歳	18,978	13,051	1.59	91.5
70歳以上	29,268	13,964	1.70	123.0
福井県	9,605	10,442	1.51	61.0

7 入院＋入院外医療費の状況

〔年齢階層別〕

入院と入院外の合計医療費を年齢階層別にみると、0～9歳の階層を除き、全ての要素において70歳以上が最も高くなっており、年齢とともに医療機関にかかる回数が増え、受診にかかる日数が多くなる傾向にあります。

また、50歳以上になると、受診率が大きく増加していることから、働き世代である30～40歳の加入者等に対する重症化予防等の取組みが重要であるといえます。

入院＋入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
0～9歳	12,366	9,140	1.57	86.0
10～19歳	6,382	10,317	1.41	43.8
20～29歳	7,333	11,324	1.56	41.5
30～39歳	9,096	12,248	1.58	47.1
40～49歳	11,053	13,688	1.60	50.5
50～59歳	18,564	15,661	1.69	70.3
60～69歳	29,967	17,833	1.80	93.4
70歳以上	49,321	19,476	2.00	126.3
福井県	14,177	13,934	1.64	61.9

8 疾病別医療費の状況

(1) 疾病別（大分類）医療費の状況

全国健康保険協会が公表している 2016（平成 28）年 4 月～2017（平成 29）年 3 月診療分の医療費基本情報と「社会保険表章用疾病分類表」の大分類（19 分類）による疾病区分から、年齢階層別の被保険者の疾病と医療費の状況をみてみます。

「消化器系の疾患」については、「う蝕」（虫歯）など歯科関係の疾病を分け、「歯科の疾患」として分類しました。

感染症及び寄生虫症
新生物
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
内分泌、栄養及び代謝疾患
精神及び行動の障害
神経系の疾患
眼及び付属器の疾患
耳及び乳様突起の疾患
循環器の疾患
呼吸器系の疾患
<u>消化器系の疾患（歯科を除く。）</u>
皮膚及び皮下組織の疾患
筋骨格系及び結合組織の疾患
腎尿路生殖器系の疾患
妊娠、分娩及び産褥
周産期に発生した病態
先天奇形、変形及び染色体異常
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
損傷、中毒及びその他の外因の影響
<u>歯科の疾患</u> （年齢階層別に集計できない歯科医療費は除く）

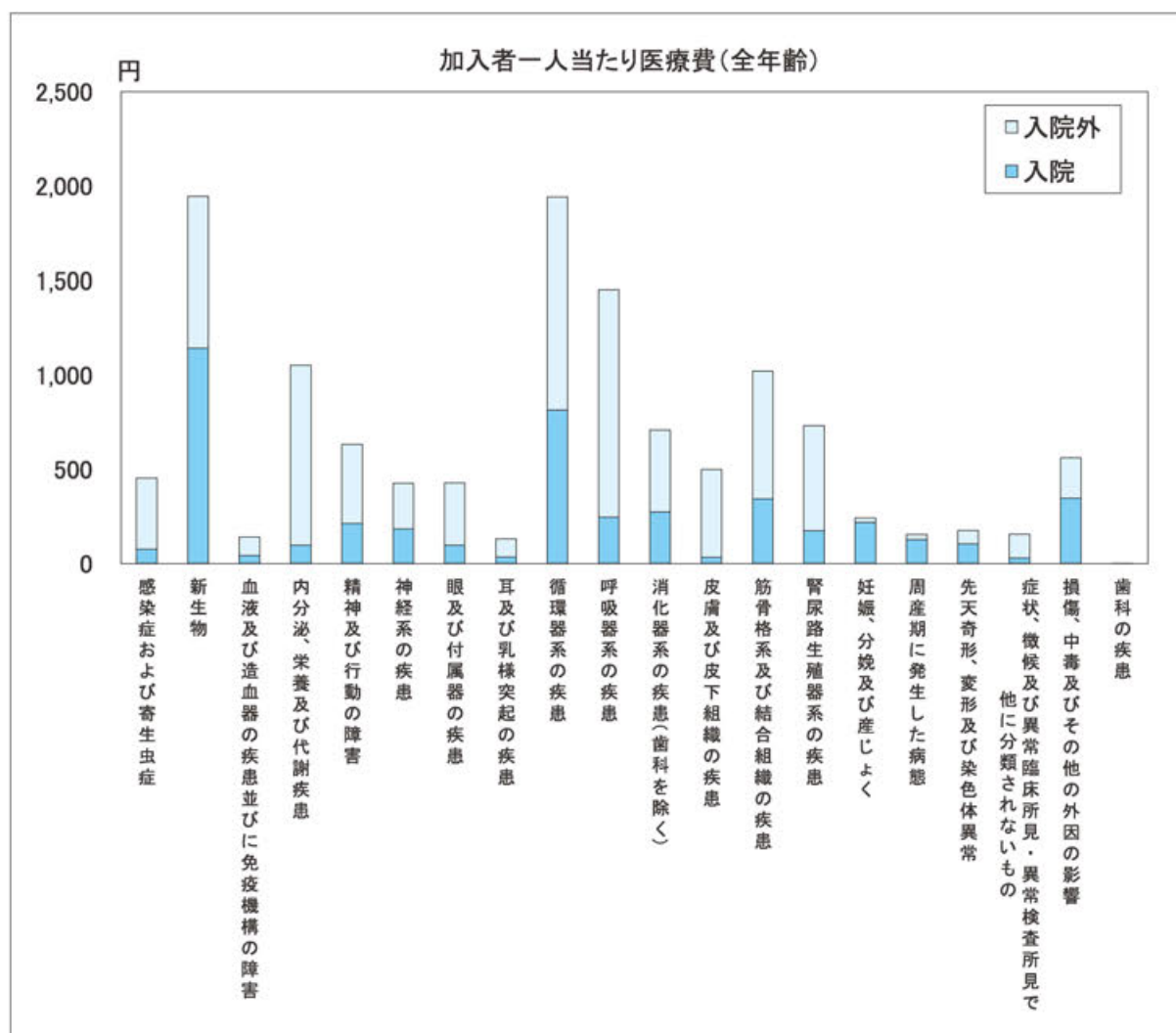
※ _____ は、「社会保険表章用疾病分類表」と異なる本調査独自の分類です。

① 全年齢における疾病別（大分類）医療費

2016（平成 28）年度における医療費が最も高いのは、「新生物」であり、全体の 15.2%を占め、67 億 9,752 万円（1 人当たり医療費〔1 か月平均〕1,944 円、入院 1,141 円、入院外 803 円）となっています。次いで「循環器系の疾患」が 67 億 8,432 万円（1 人当たり医療費 1,940 円、入院 814 円、入院外 1,126 円）、「呼吸器系の疾患」が 50 億 7,396 万円（1 人当たり医療費 1,451 円、入院 244 円、入院外 1,207 円）となっており、この 3 疾病で、全体の約 4 割（41.6%）を占めています。

◆ 医療費の上位を占める疾病（大分類）

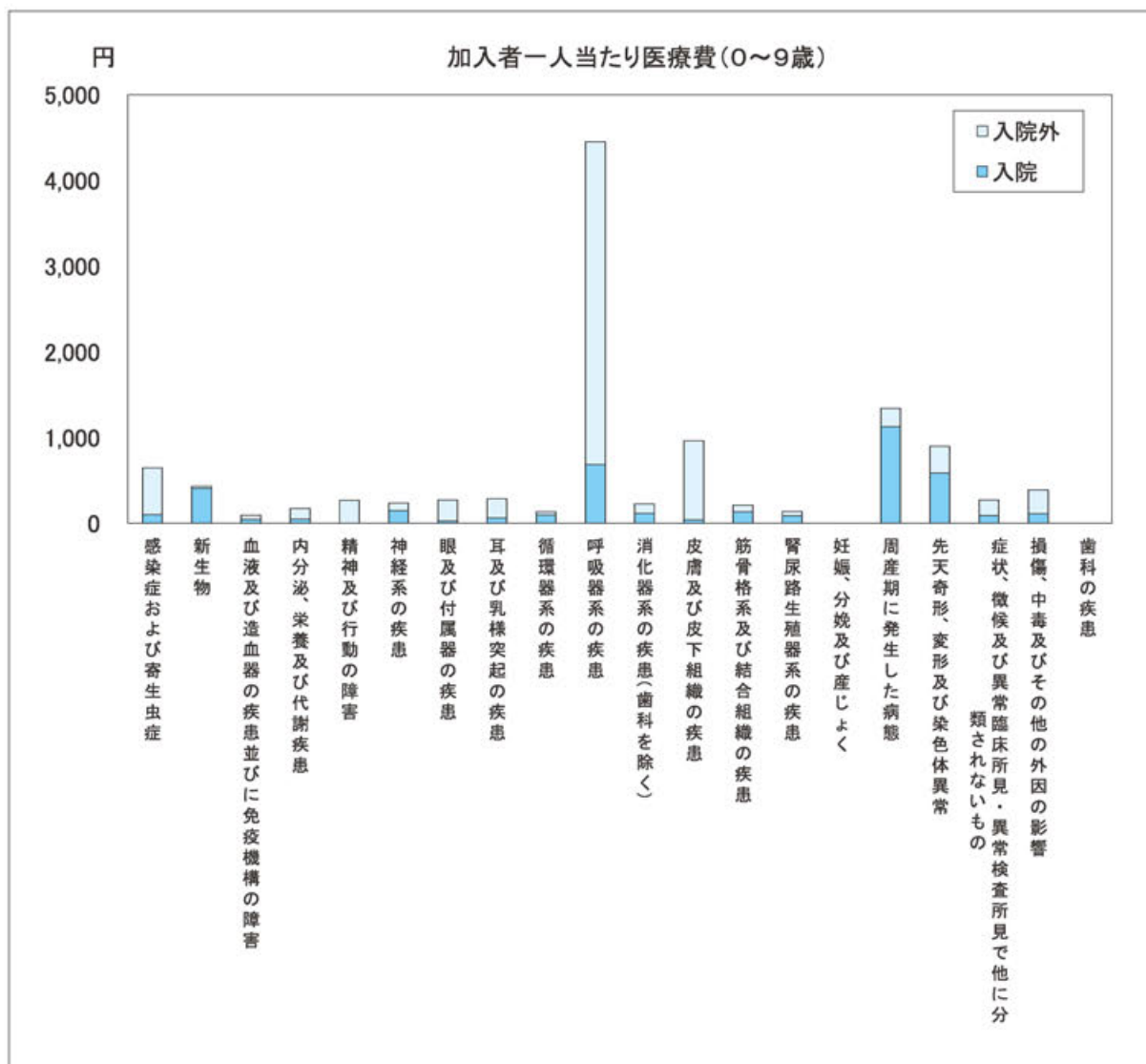
		医療費（千円）	全医療費に 占める割合 （％）	件数（件）
1	新生物	6,797,519	15.2	62,842
2	循環器系の疾患	6,784,318	15.1	212,418
3	呼吸器系の疾患	5,073,955	11.3	387,721
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	3,678,027	8.2	143,498
5	筋骨格系及び結合組織の疾患	3,563,507	7.9	138,467
6	腎尿路生殖器系の疾患	2,555,571	5.7	60,638
7	消化器系の疾患（歯科を除く）	2,470,563	5.5	85,122
8	精神及び行動の障害	2,208,626	4.9	77,490
9	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,955,536	4.4	60,422
10	皮膚及び皮下組織の疾患	1,741,203	3.9	195,678



1人当たり疾病別（大分類）医療費を年齢階層別にみてみます。

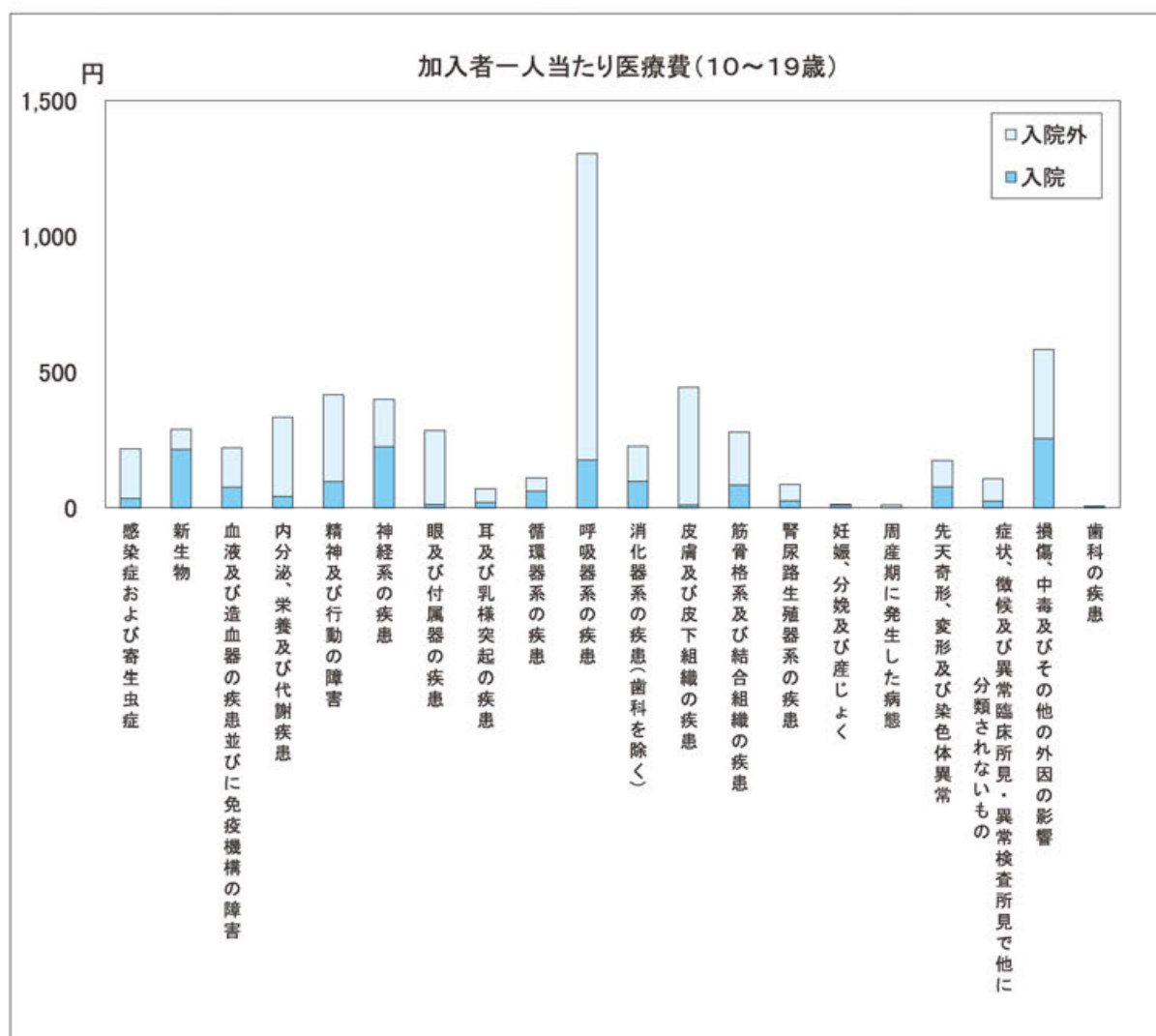
② 「0～9歳」の疾病別医療費

この階層では、「呼吸器系の疾患」が最も多く、4,449円（入院684円、入院外3,765円）、次いで、「周産期に発生した病態」1,339円（入院1,125円、入院外214円）、「皮膚及び皮下組織の疾患」961円（入院41円、入院外920円）となっており、この3疾病で全体の59.1%を占めています。



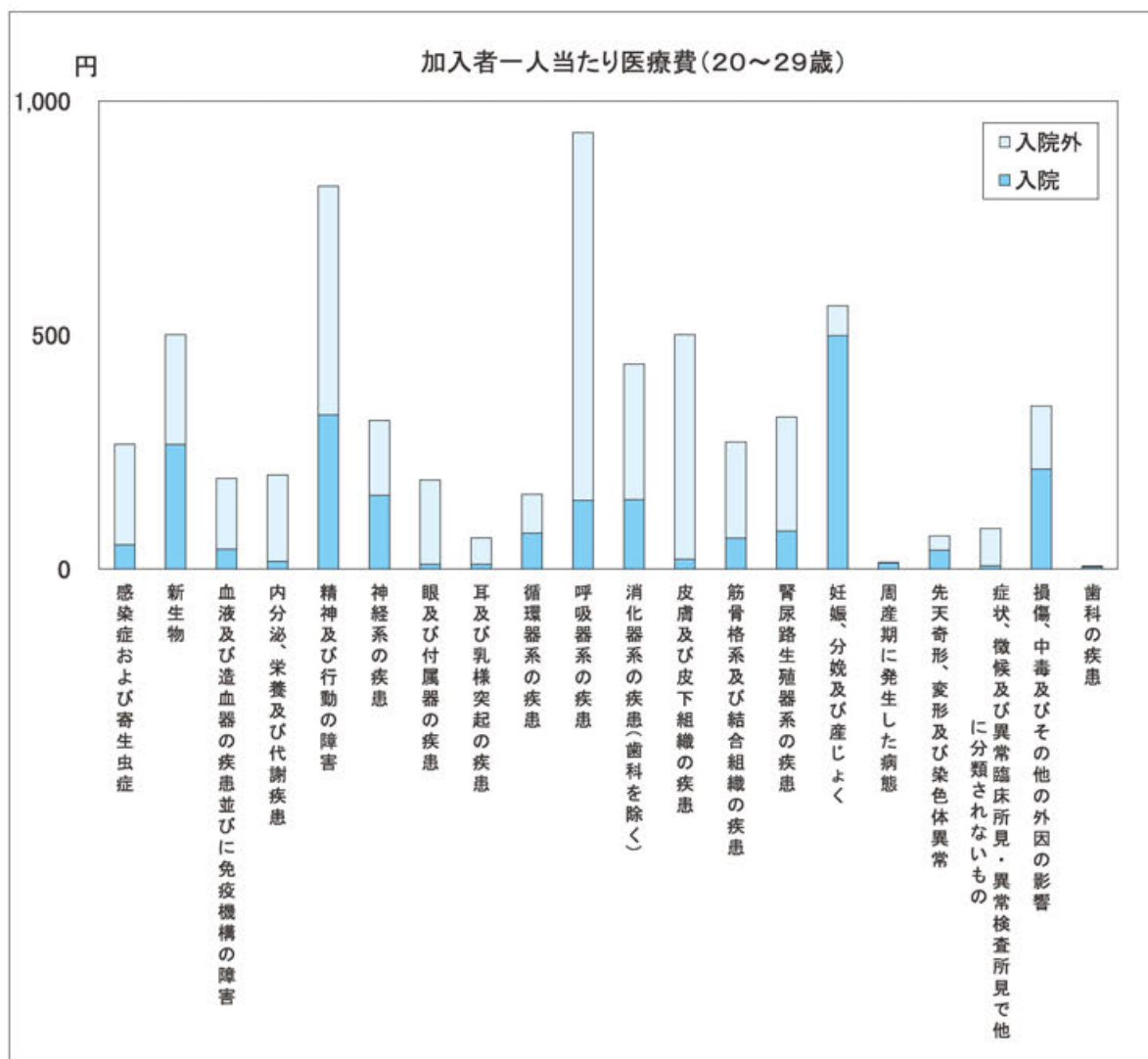
③ 「10～19 歳」の疾病別医療費

この階層においても、「呼吸器系の疾患」が最も多く、1,305 円（入院 176 円、入院外 1,130 円）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」584 円（入院 255 円、入院外 328 円）、「皮膚及び皮下組織の疾患」444 円（入院 10 円、入院外 434 円）となっており、この 3 疾病で全体の 41.9%を占めています。



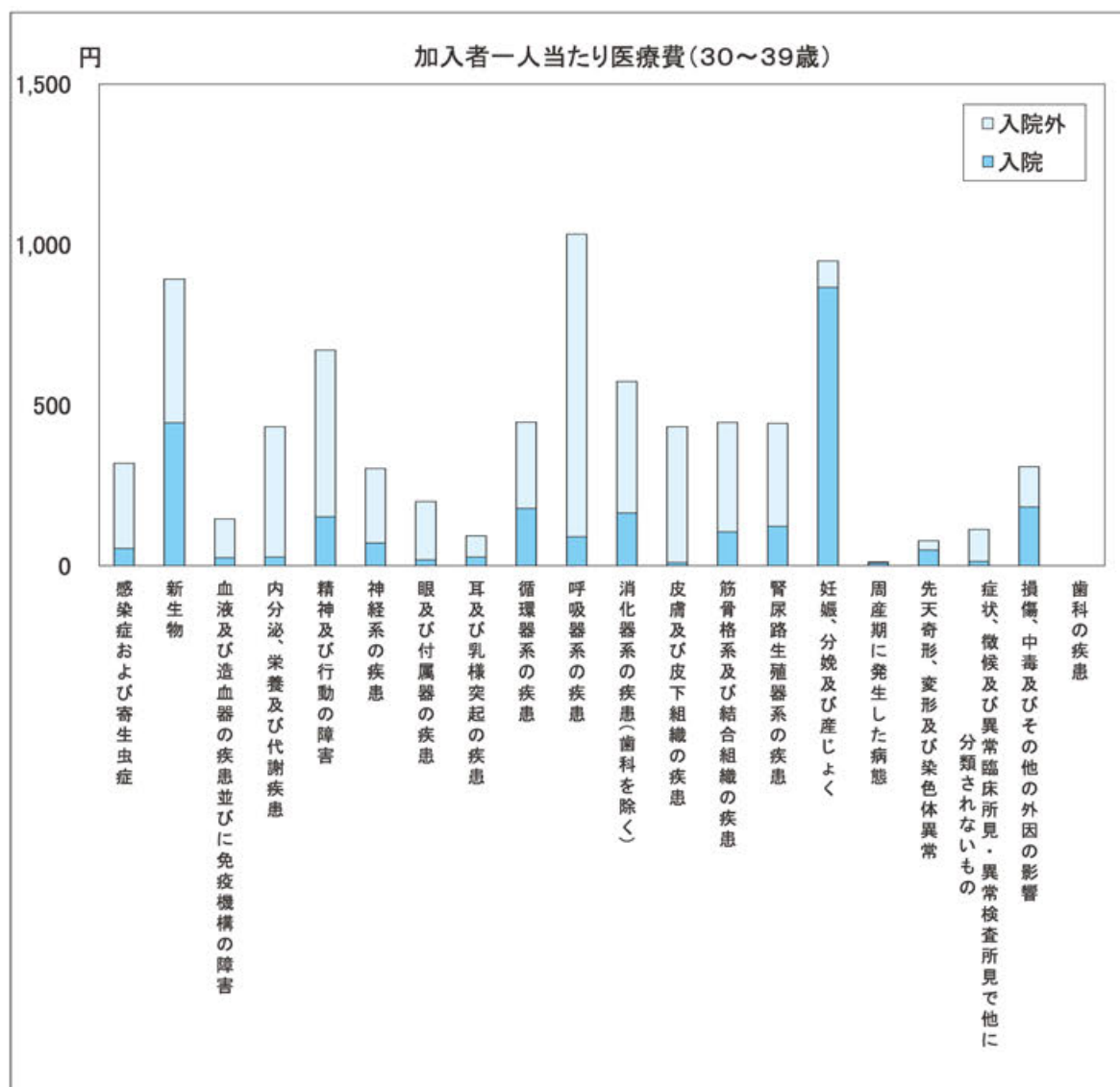
④ 「20～29 歳」の疾病別医療費

この階層では、「呼吸器系の疾患」が 932 円（入院 147 円、入院外 785 円）、次いで、「精神及び行動の障害」818 円（入院 329 円、入院外 489 円）、「妊娠、分娩及び産じょく」562 円（入院 499 円、入院外 63 円）となっており、この 3 疾病で全体の 37.0%を占めています。



⑤ 「30～39 歳」の疾病別医療費

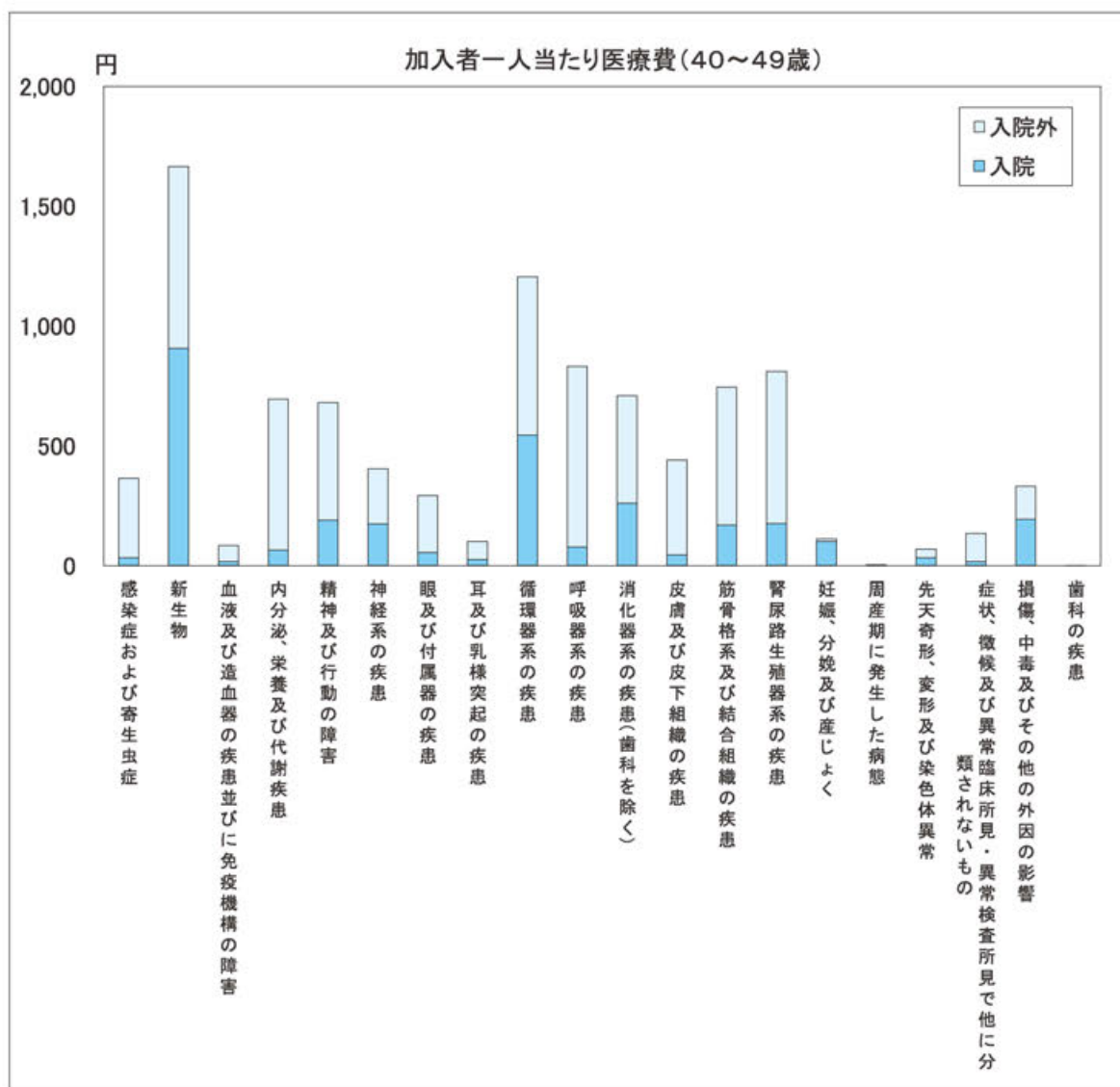
この階層では、「呼吸器系の疾患」が1,033 円（入院 90 円、入院外 943 円）、次いで、「妊娠、分娩及び産じょく」949 円（入院 866 円、入院外 83 円）、「新生物」892 円（入院 445 円、入院外 447 円）となっており、この3 疾病で全体の36.4%を占めています。



⑥ 「40～49 歳」の疾病別医療費

この階層では、「新生物」が 1,665 円（入院 907 円、入院外 758 円）、次いで、「循環器系の疾患」1,205 円（入院 544 円、入院外 661 円）、「呼吸器系の疾患」831 円（入院 78 円、入院外 753 円）となっており、この 3 疾病で全体の 38.3%を占めています。

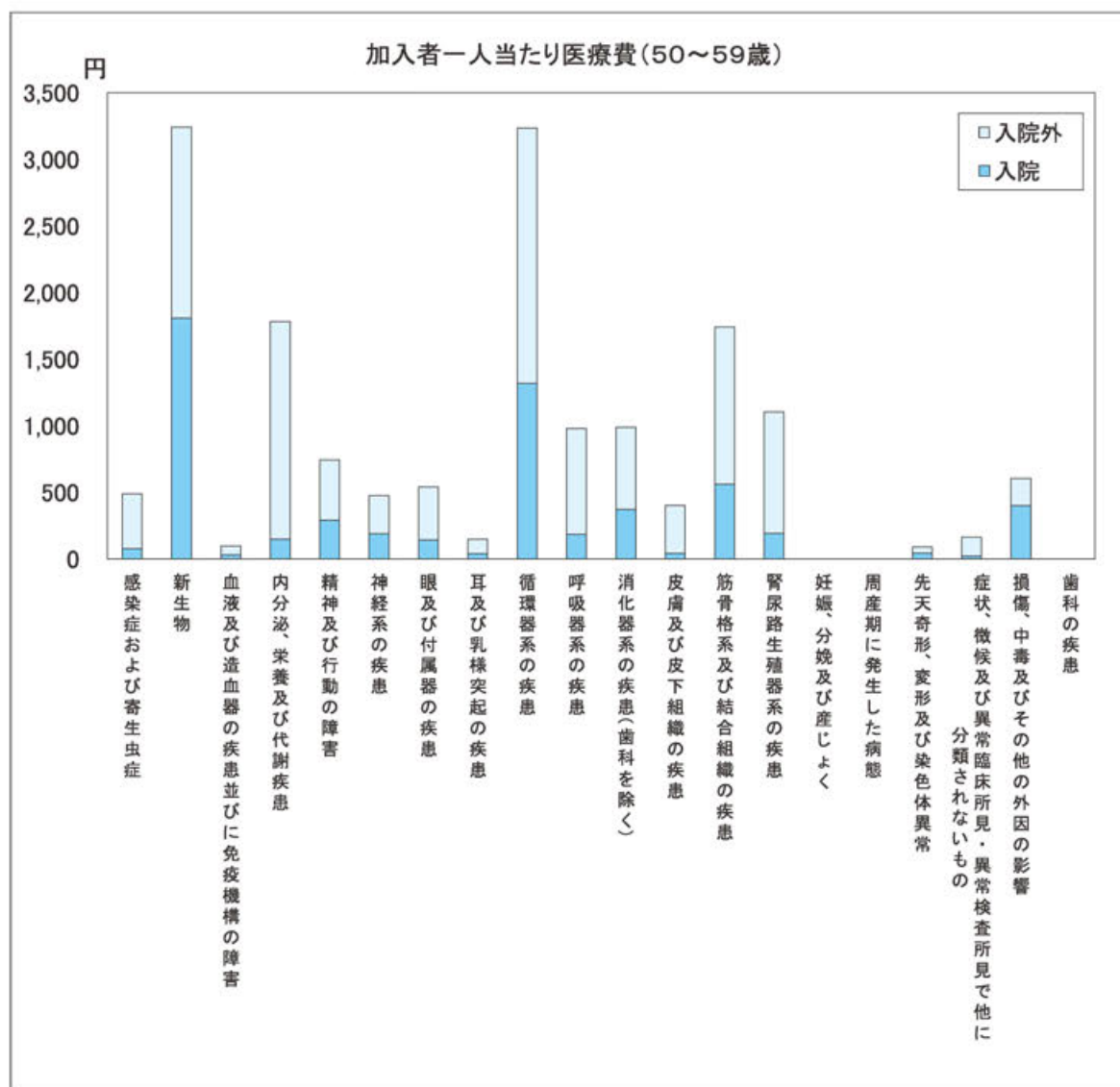
40 歳以上の年齢階層では、「新生物」や高血圧や心疾患などの「循環器系の疾患」に係る医療費が高くなっています。



⑦ 「50～59 歳」の疾病別医療費

この階層では、「新生物」が 3,242 円（入院 1,806 円、入院外 1,435 円）、次いで、「循環器系の疾患」3,234 円（入院 1,318 円、入院外 1,916 円）、「内分泌、栄養及び代謝疾患」1,782 円（入院 146 円、入院外 1,636 円）となっており、この 3 疾病で全体の 49.1%を占めています。

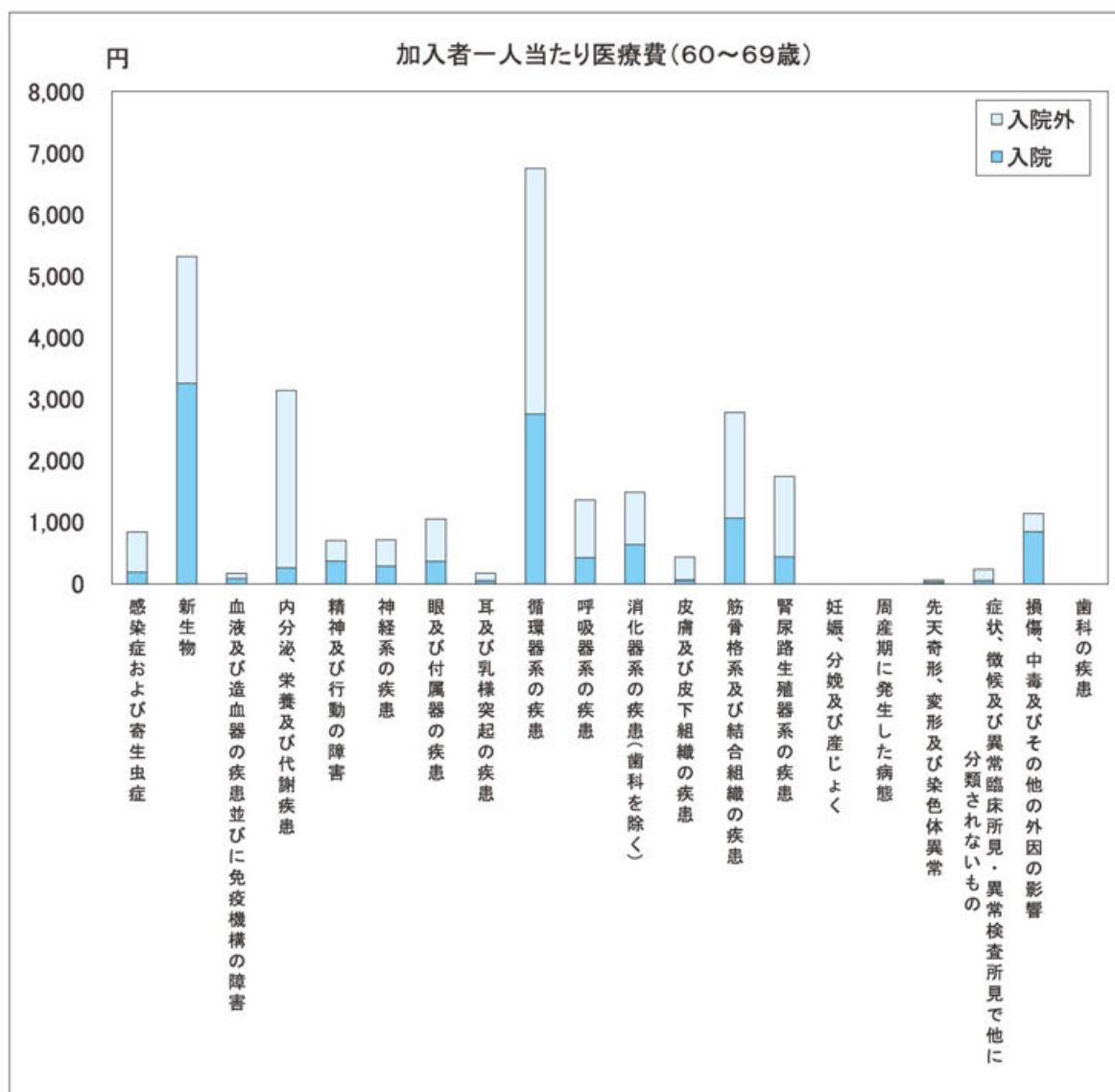
50 歳以上の年齢階層では、糖尿病や甲状腺障害などの「内分泌、栄養及び代謝疾患」に係る医療費が高くなっています。



⑧ 「60～69 歳」の疾病別医療費

この階層では、「循環器系の疾患」が 6,749 円（入院 2,752 円、入院外 3,997 円）、次いで、「新生物」5,316 円（入院 3,252 円、入院外 2,064 円）、「内分泌、栄養及び代謝疾患」3,136 円（入院 247 円、入院外 2,888 円）となっており、この 3 疾病で全体の 54.3%を占めています。

また、1 人当たり医療費が 60 歳未満の年齢階層と比較して、2 倍近く増加していることが分かります。



(2) 疾病別（中分類）医療費の状況

全国健康保険協会福井支部における 2016（平成 28）年 4 月～2017（平成 29）年 3 月診療分の医療費基本情報と「社会保険表章用疾病分類表」（中分類：119 分類）による疾病区分から、年齢階層別の被保険者の疾病と医療費の状況をみてみます。

① 全年齢における疾病別（中分類）医療費

1 人当たり医療費が高い疾病をみると、高血圧性疾患、糖尿病、その他の内分泌、栄養及び代謝疾患といった生活習慣病が上位を占めています。

また、上位 10 疾病で全体の医療費の 33.4%を占めています。

一方、1 件当たり医療費は、腎不全やくも膜下出血などの重症化した生活習慣病が高いほか、白血病など悪性新生物の疾病が上位を占めています。

◆ 医療費の上位を占める疾病（中分類）

順位	疾病名	医療費	1 人当たり 医療費 (年度平均)	全医療費に 占める割合	疾病名	1 件当たり 医療費
1 位	高血圧性疾患	千円 2,813,453	円 9,654	6.27%	白血病	円 497,867
2 位	糖尿病	2,116,532	7,263	4.72%	腎不全	344,402
3 位	その他の悪性 新生物	1,678,951	5,761	3.74%	悪性リンパ腫	285,634
4 位	その他の内分泌、 栄養及び代謝疾患	1,316,795	4,518	2.94%	肝及び肝内胆管 の悪性新生物	264,093
5 位	その他の消化器 系の疾患	1,303,831	4,474	2.91%	気管、気管支及 び肺の悪性新生 物	253,490
6 位	腎不全	1,230,202	4,221	2.74%	くも膜下出血	238,512
7 位	その他の心疾患	1,229,542	4,219	2.74%	妊娠高血圧症 候群	213,531
8 位	良性新生物及び その他の新生物	1,216,153	4,173	2.71%	直腸 S 状結腸移 行部及び直腸の 悪性新生物	207,605
9 位	虚血性心疾患	1,040,136	3,569	2.32%	その他の悪性 新生物	176,787
10 位	その他の損傷及 びその他の外因の影響	1,025,918	3,520	2.29%	妊娠及び胎児発 育に関連する障 害	176,664

全医療費に占める疾病別の医療費の割合を入院、入院外別に示します。

◆ 入院、入院外別医療費の割合

	入 院		入 院 外	
1 位	その他の悪性新生物	6.86%	高血圧性疾患	9.54%
2 位	その他の心疾患	5.01%	糖尿病	6.48%
3 位	虚血性心疾患	4.45%	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	4.31%
4 位	その他の妊娠、分娩及び産じょく	4.28%	腎不全	3.63%
5 位	良性新生物及びその他の新生物	4.19%	皮膚炎及び湿疹	3.07%
6 位	その他の消化器系の疾患	3.80%	その他の急性上気道感染症	2.89%
7 位	骨折	3.63%	喘息	2.74%
8 位	その他の損傷及びその他の外因の影響	3.24%	その他の消化器系の疾患	2.41%
9 位	気管、気管支及び肺の悪性新生物	2.95%	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	2.24%
10 位	関節症	2.40%	アレルギー性鼻炎	2.24%

※ %は、入院、入院外の医療費をそれぞれ 100 とした場合の数値

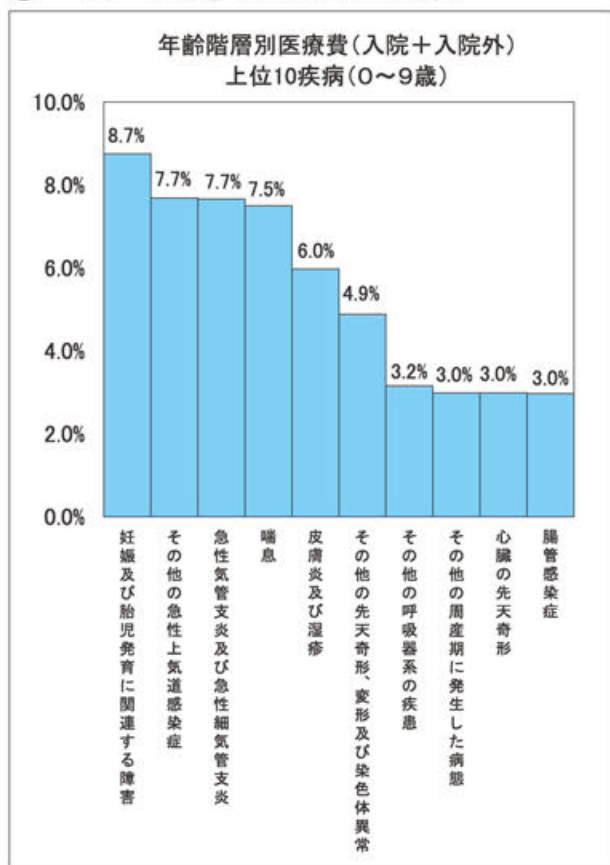
◆ 年齢階層別 疾病別（中分類）医療費における上位 3 疾病の状況

～39 歳	入院			入院外		
	件数	日数	医療費(千円)	件数	日数	医療費(千円)
その他の妊娠、分娩及び産じょく	2,241	21,145	631,878	6,245	10,343	61,886
その他の急性上気道感染症	63	281	11,272	67,764	96,144	625,842
皮膚炎及び湿疹	25	129	3,245	81,922	103,740	611,300

40～59 歳	入院			入院外		
	件数	日数	医療費(千円)	件数	日数	医療費(千円)
高血圧性疾患	63	642	13,994	67,748	83,995	1,048,727
糖尿病	250	3,130	88,306	23,072	30,571	741,874
良性新生物及びその他の新生物	568	3,944	306,519	13,157	17,655	262,477

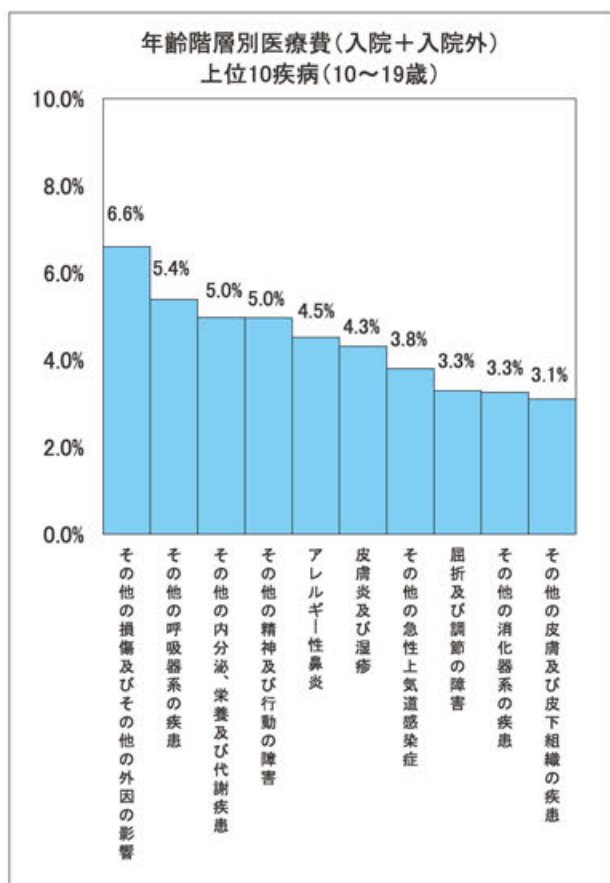
60 歳～	入院			入院外		
	件数	日数	医療費(千円)	件数	日数	医療費(千円)
高血圧性疾患	159	2,006	44,592	95,922	125,020	1,623,744
骨折	356	4,973	138,788	30,584	43,085	1,013,129
その他の悪性新生物	828	10,253	583,707	4,229	6,973	316,672

② 「0～9 歳」の疾病別医療費



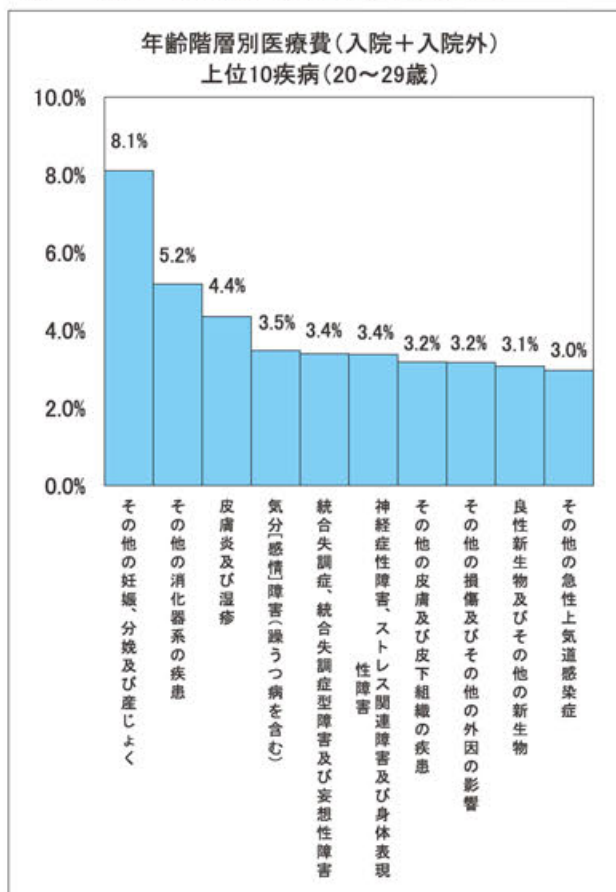
この階層では、「妊娠及び胎児発育に関連する障害」、「その他の急性上気道感染症」、「急性気管支炎及び急性細気管支炎」の疾患が多く、子どもがかりしやすい疾病が上位を占めています。

③ 「10～19 歳」の疾病別医療費



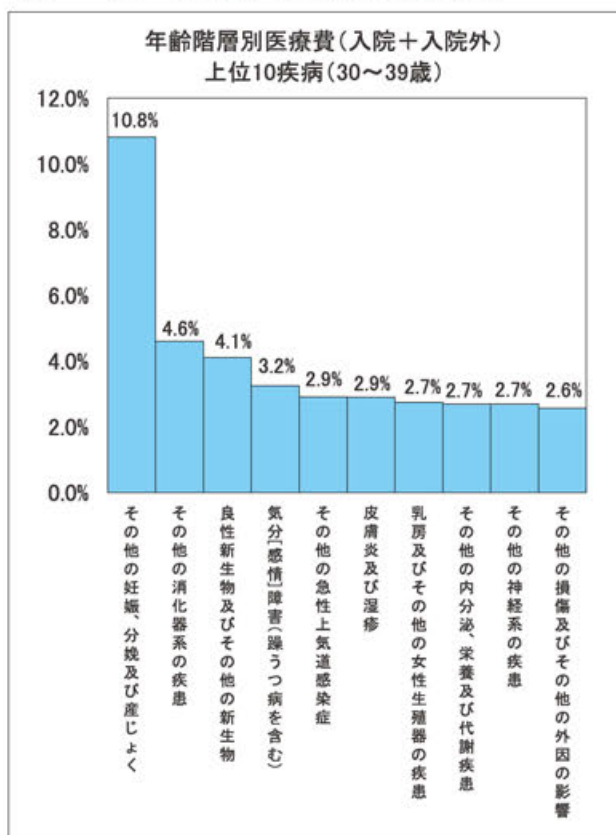
この階層では、「その他の損傷及びその他の外因の影響」が最も多く、次いで「その他の呼吸器系の疾患」、「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」といった疾患が上位を占めています。

④ 「20～29 歳」の疾病別医療費



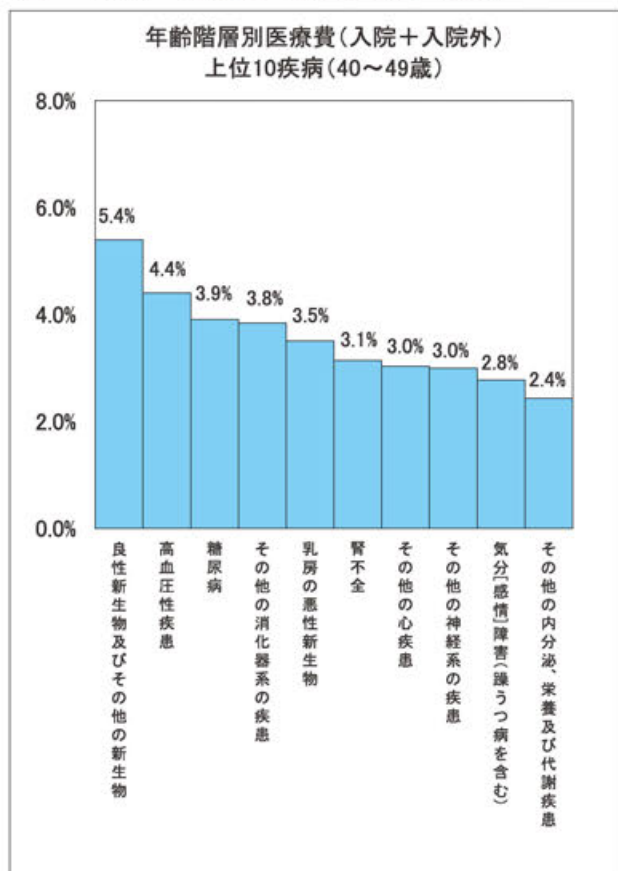
この階層では、「その他の妊娠、分娩及び産じょく」が最も多く、「気分[感情]障害(躁うつ病を含む)」、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」などの精神疾患が上位に位置しています。

⑤ 「30～39 歳」の疾病別医療費



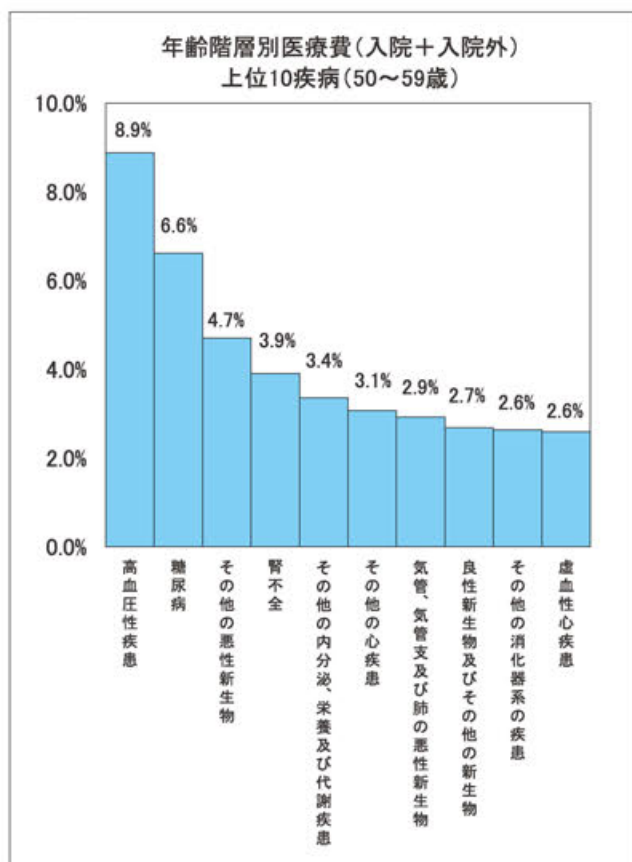
この階層でも、「その他の妊娠、分娩及び産じょく」が最も多く、次いで「その他の消化器系の疾患」や「良性新生物及びその他の新生物」などが上位を占めるようになります。

⑥ 「40～49 歳」の疾病別医療費



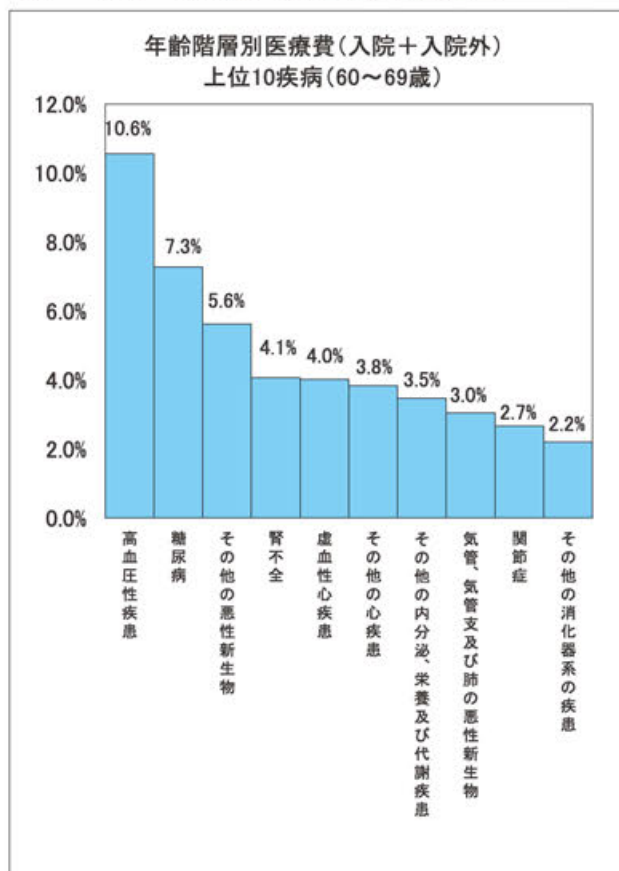
この階層では、「良性新生物及びその他の新生物」が最も多く、次いで「高血圧性疾患」や「糖尿病」などの生活習慣病が上位を占めるようになります。

⑦ 「50～59 歳」の疾病別医療費



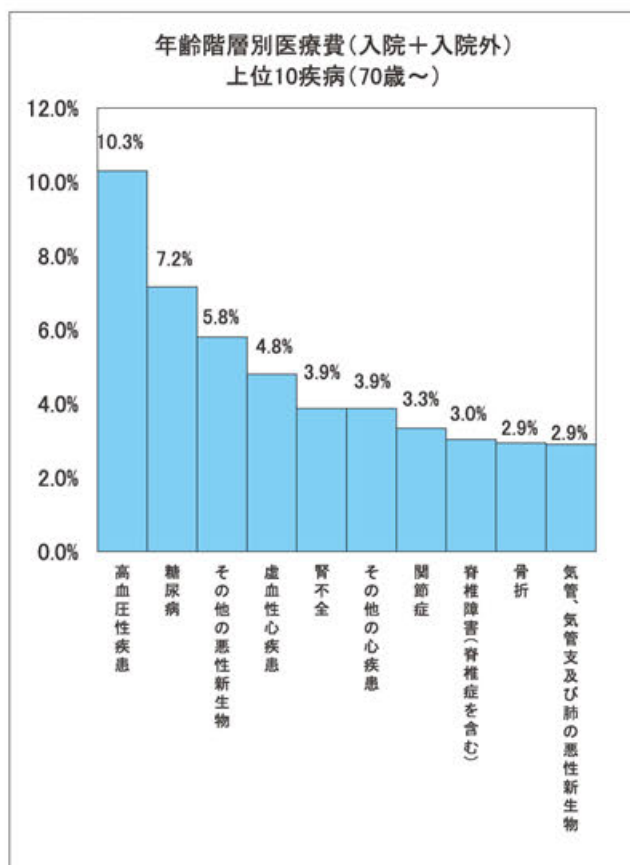
この階層では、「高血圧性疾患」、「糖尿病」、「腎不全」、「その他の心疾患」などの生活習慣病が上位を占めていますが、その中で「その他の悪性新生物」が3番目に多くなっています。

⑧ 「60～69 歳」の疾病別医療費



この階層は、50～59 歳の階層と同様に、「高血圧性疾患」、「糖尿病」、「腎不全」などの生活習慣病が上位を占めています。

⑨ 「70 歳～」の疾病別医療費



この階層においても、50～59 歳、60～69 歳の階層と同様に、「高血圧性疾患」、「糖尿病」、「虚血性心疾患」、「腎不全」などの生活習慣病が上位を占めています。

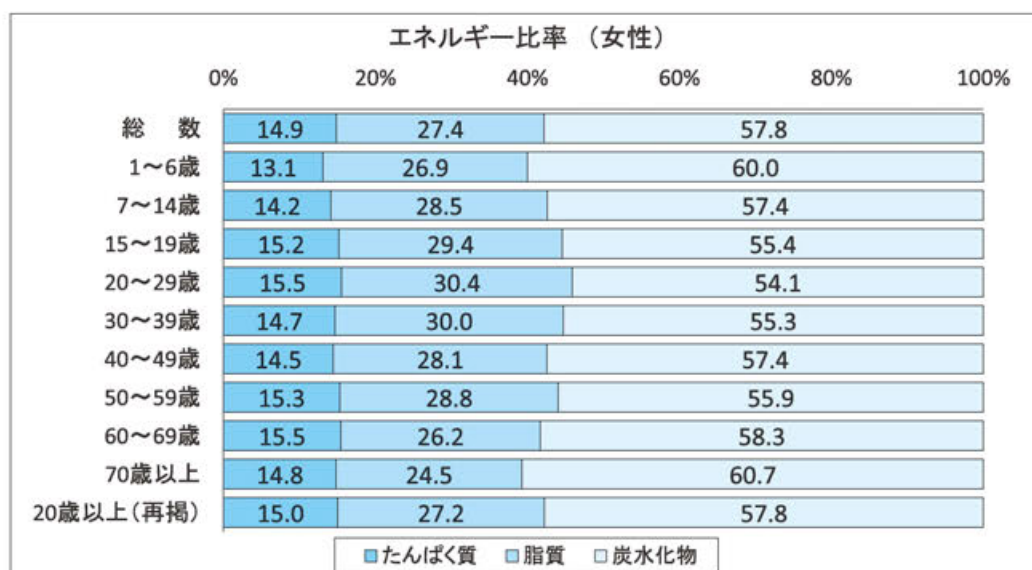
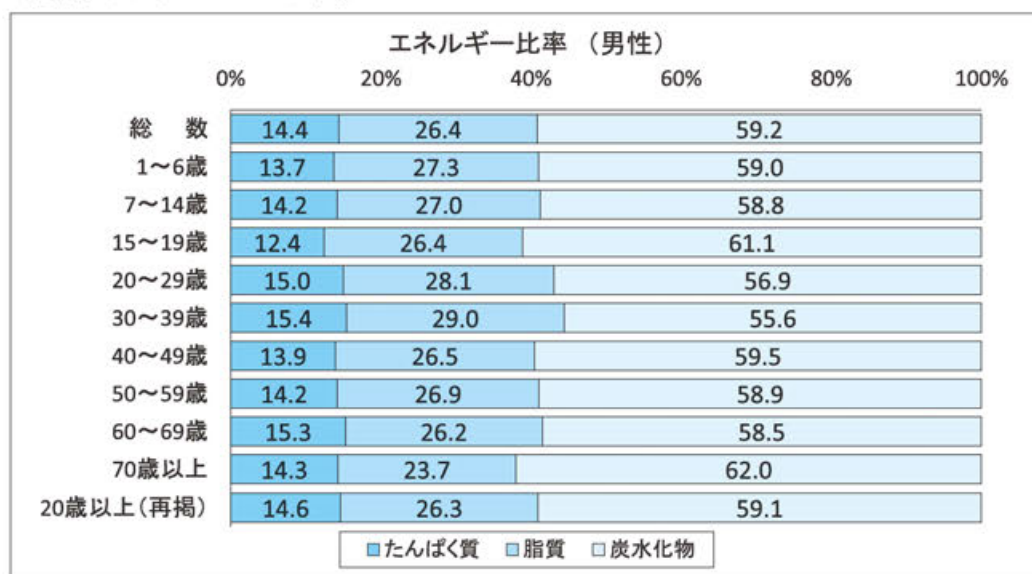
VIII 県民の生活習慣の状況

[2016（平成28）年度「県民健康・栄養調査」]

生活習慣病は、食生活や運動、喫煙など日々の生活習慣の積み重ねによって引き起こされる疾病ですが、福井県民の生活習慣の状況は、次のとおりとなっています。

1 食生活の状況

脂肪から摂取するエネルギーの割合（総数）は男性が26.4%、女性が27.4%となっています。また、女性の20歳代～30歳代を除いて、脂質の食事摂取基準の範囲内となっています。

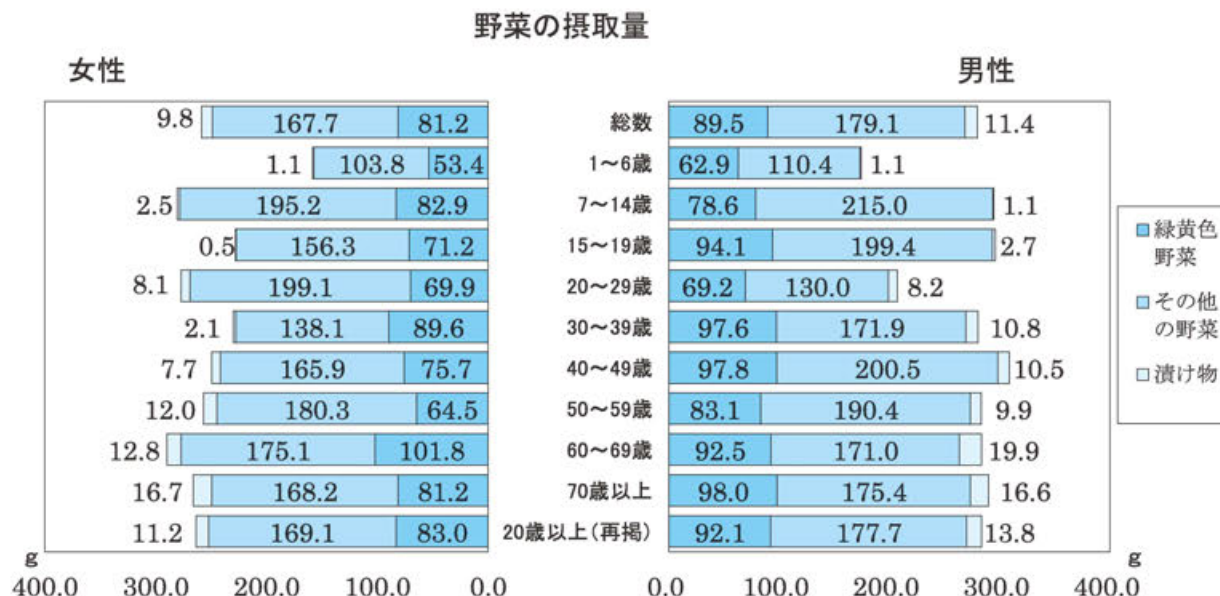


<参考> 脂質の食事摂取基準（脂質の総エネルギーに占める割合）

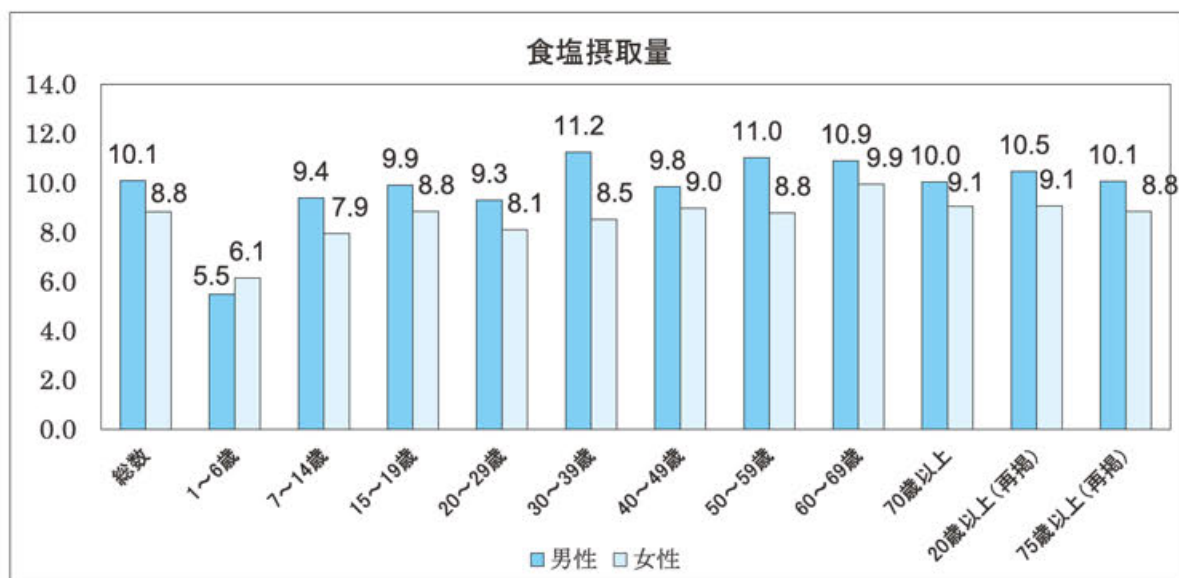
目標値（範囲）	20%以上 30%未満
---------	-------------

出典：厚生労働省「日本人の食事摂取基準」（2015年版）

野菜摂取量は、男性（総数）で 280.0g、女性（総数）で 258.7g となっており、年齢階層別にみると、1～6 歳代を除き、男性では 20 歳代、女性では 15～19 歳代の野菜摂取量が最も少なくなっています。

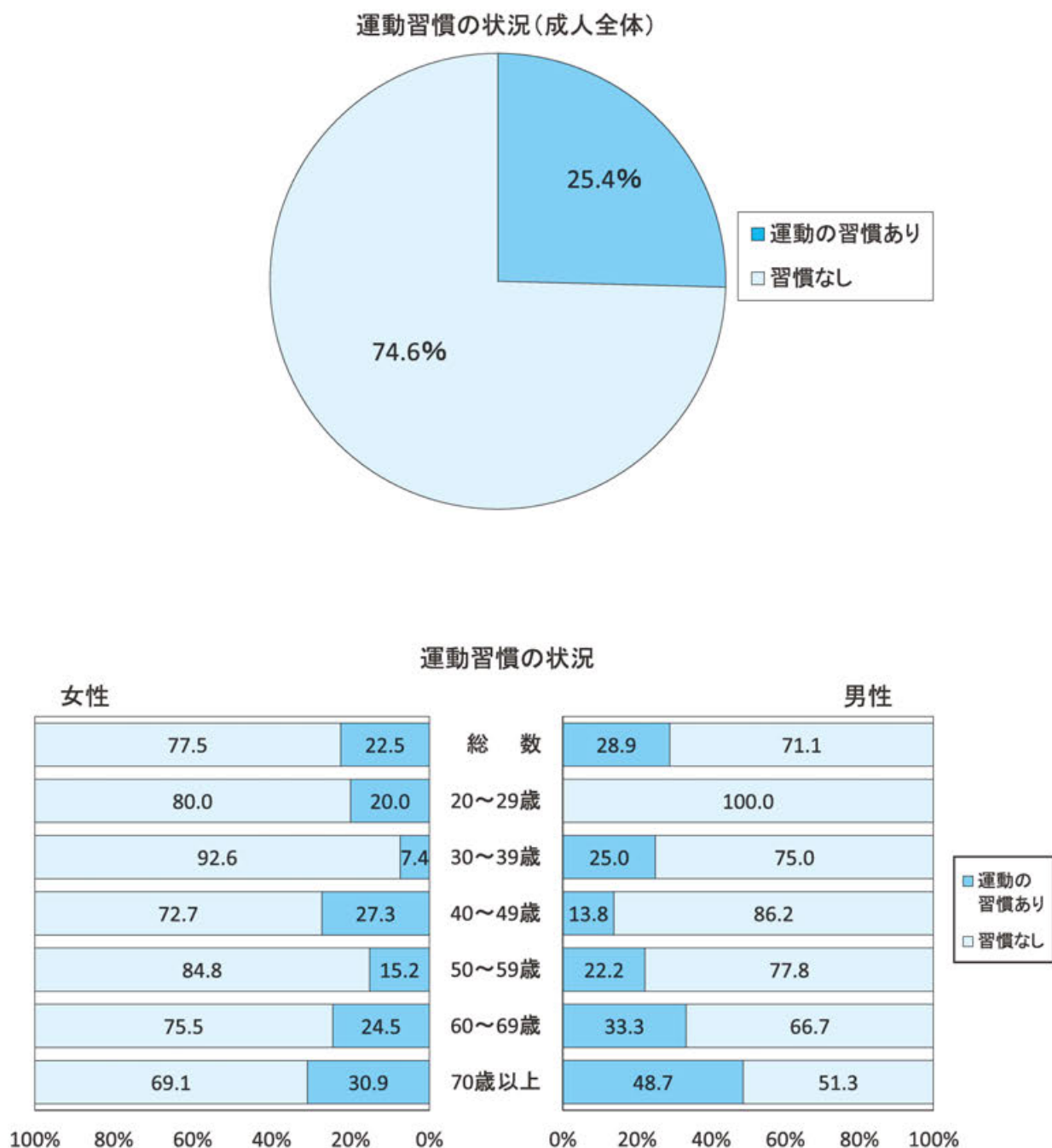


また、食塩摂取量（1 歳以上総数平均）は 10.1g で、男女別では、男性の摂取量が多くなっています。



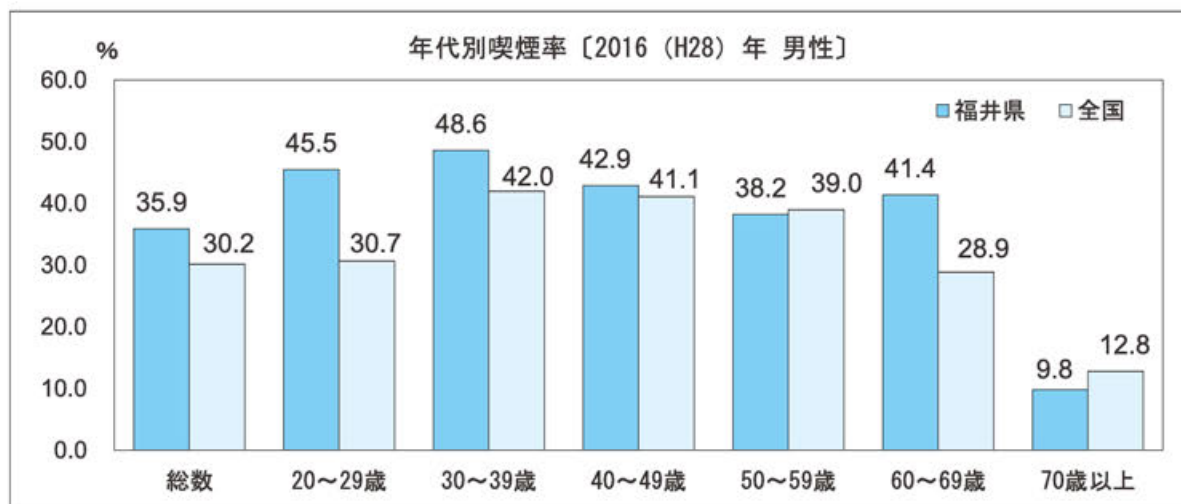
2 運動の状況

成人で運動習慣のない者は74.6%となっており、年齢階層別にみると、男性の20歳代、40歳代と女性の30歳代、50歳代の運動習慣のない者の割合が8割を超えています。

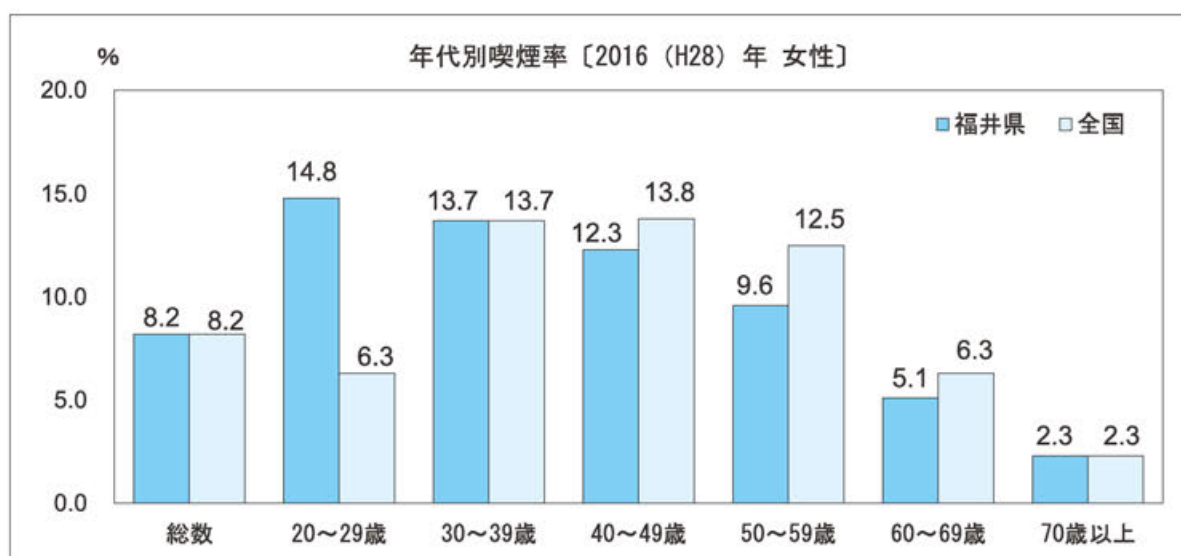


3 喫煙の状況

2016（平成 28）年国民健康・栄養調査と県民健康・栄養調査における年代別喫煙率をみると、男性では 20～40 歳代と 60 歳代、女性では 20 歳代において全国平均を上回っています。



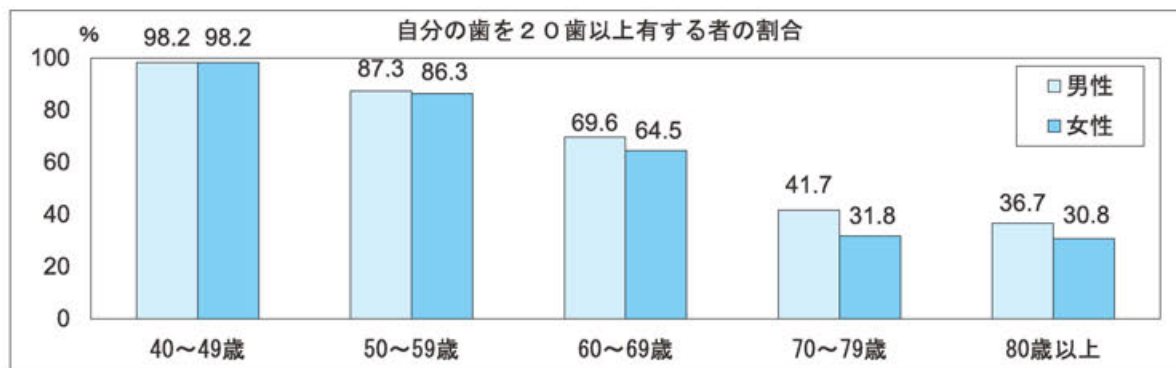
出典：厚生労働省「平成 28 年国民健康・栄養調査」
福井県「平成 28 年県民健康・栄養調査」



出典：厚生労働省「平成 28 年国民健康・栄養調査」
福井県「平成 28 年県民健康・栄養調査」

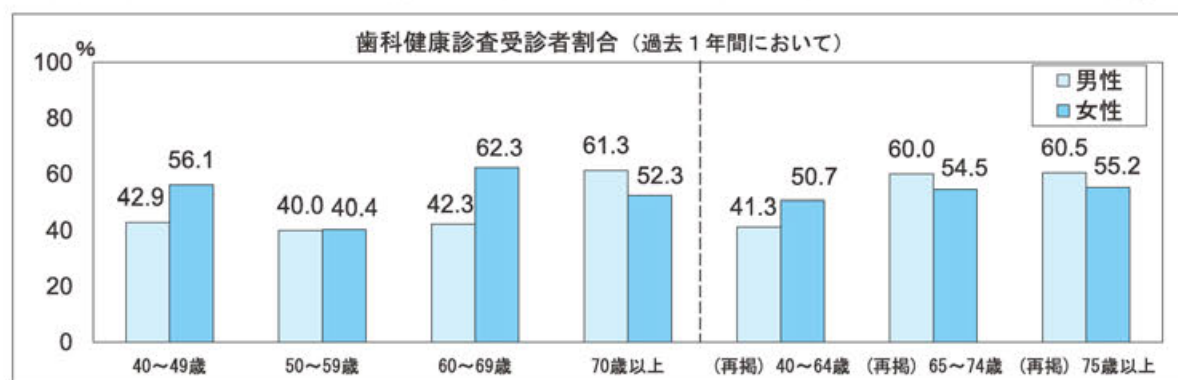
4 歯の健康の状況

2016（平成 28）年国民健康・栄養調査と県民健康・栄養調査における 20 歯以上自分の歯を有する者の割合を見ると、70 歳以上の年齢階層において男女差が大きくなっており、女性の方が自分の歯を 20 歯以上有している割合が低くなっています。



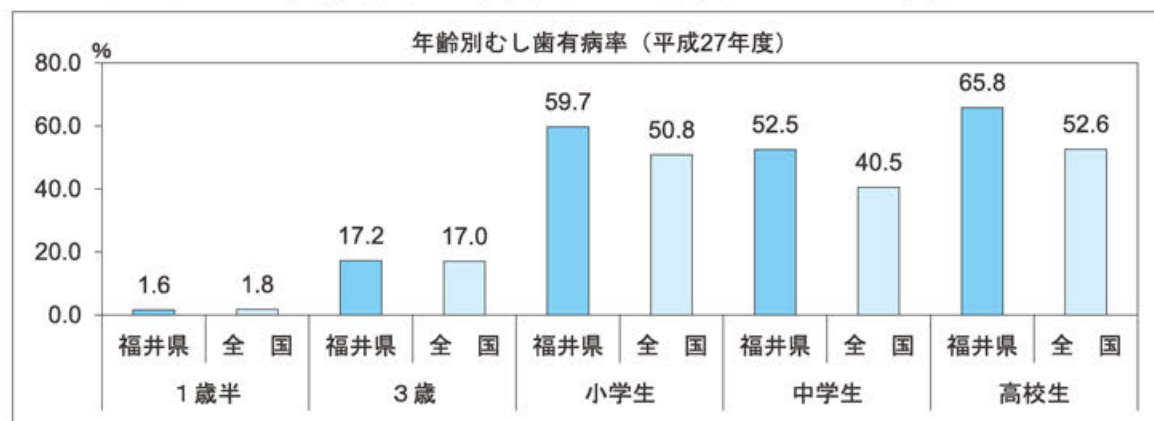
出典：厚生労働省「平成 28 年国民健康・栄養調査」、福井県「平成 28 年県民健康・栄養調査」

歯科健康診査の受診者割合をみると、男性、女性ともに高齢になるほど受診者割合が高くなっており、働き世代における受診者割合が低い傾向にあります。



出典：厚生労働省「平成 28 年国民健康・栄養調査」、福井県「平成 28 年県民健康・栄養調査」

2015（平成 27）年度における年齢別むし歯有病率をみると、本県は小学生以上の子どものむし歯有病率が全国平均よりも高くなっています。

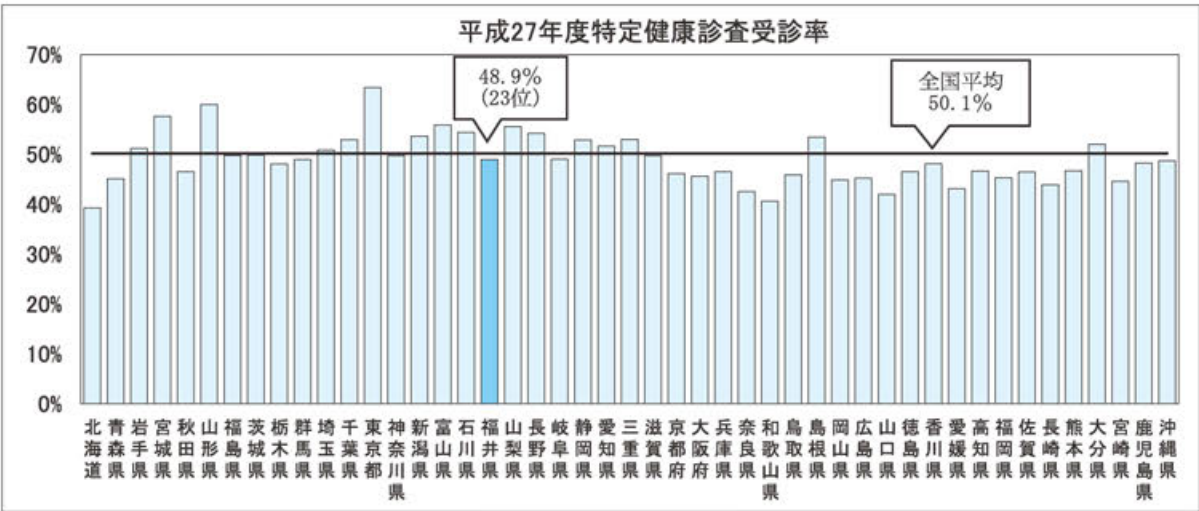


出典：厚生労働省「1歳6か月児および3歳児の歯科健康診査結果」、文部科学省「学校保健統計調査」

Ⅸ 特定健康診査および特定保健指導の状況

1 特定健康診査の受診状況

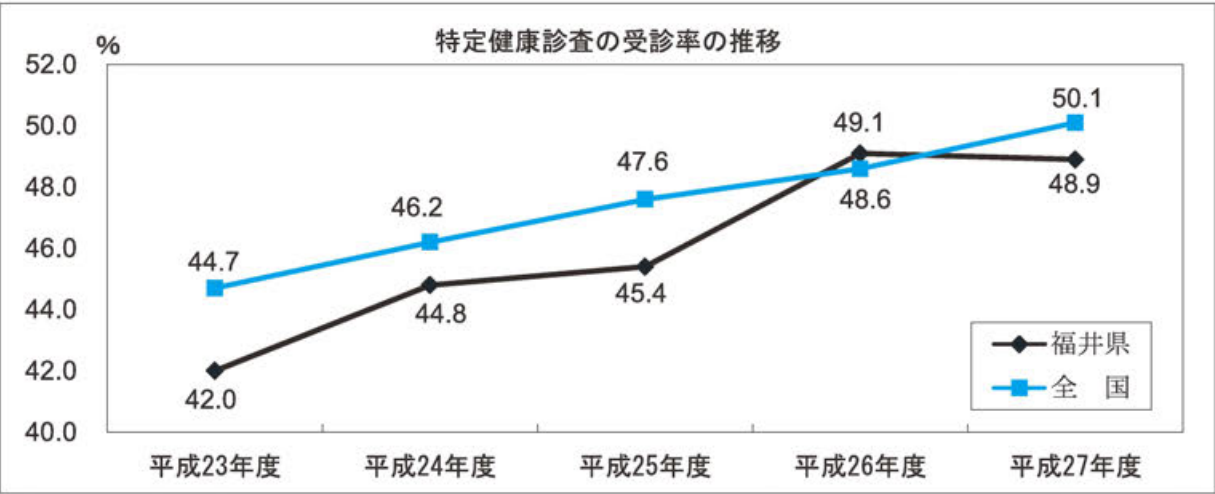
本県の高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健康診査の受診率は、2015（平成 27）年度で 48.9％（23 位）と全国平均の 50.1％を下回っています。



※ 都道府県別データは確報値から住所不明データを除いて算定されている。

出典：厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ」（平成 27 年度）

本県および全国の特定健康診査の受診率は、増加傾向にありますが、ともに目標値である 70％には達していません。



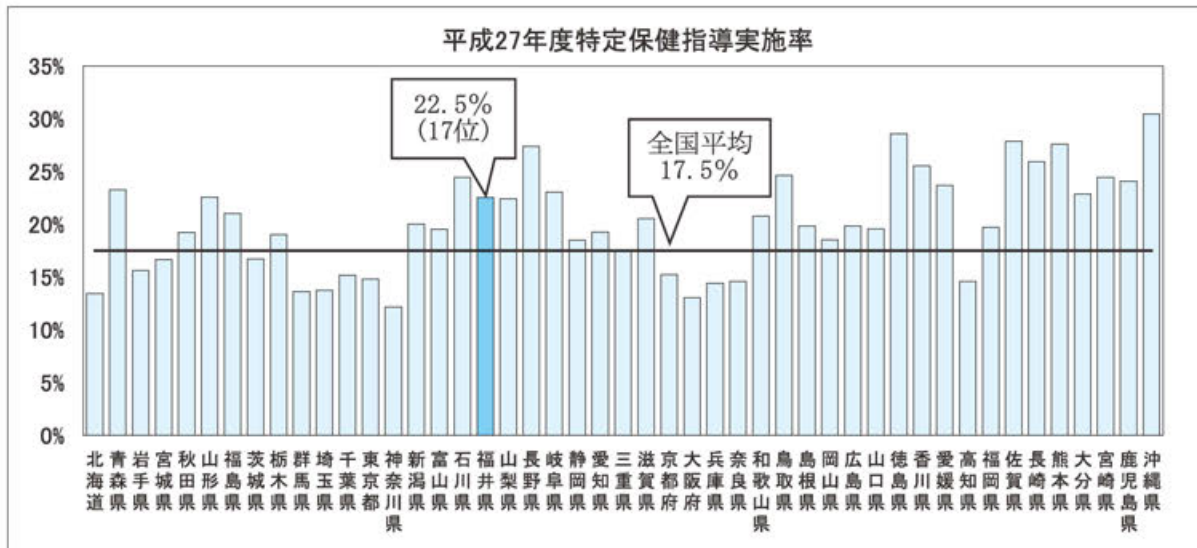
◆ 本県における特定健診対象者数および受診者数の推移

福井県	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2012～2015 年度増減
対象者数 (国推計値)	328, 826	335, 156	338, 311	338, 269	9, 443
受診者数	147, 356	152, 065	166, 265	165, 479	18, 123
受診率	44. 8%	45. 4%	49. 1%	48. 9%	4. 1%

出典：厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ」

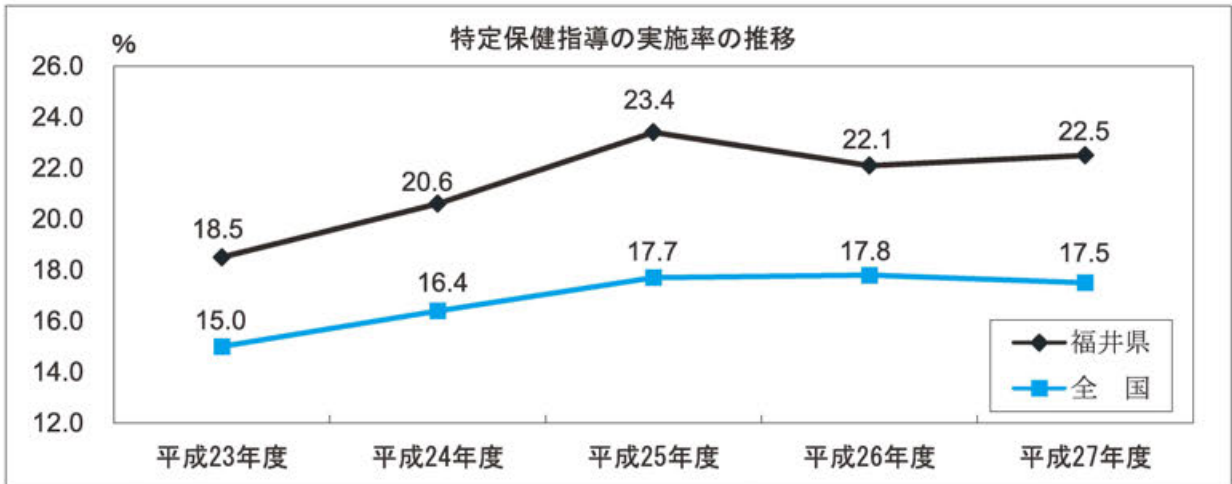
2 特定保健指導の実施状況

本県の高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導の実施率は、2015（平成 27）年度で 22.5％（17 位）と全国平均の 17.5％を上回っています。



※ 都道府県別データは確報値から住所不明データを除いて算定されている。
出典：厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ」（平成 27 年度）

本県の特定保健指導の実施率は、2014（平成 26）年度および 2015（平成 27）年度は実施率が減少しています。また、本県および全国とも目標値である 45％には達していません。



◆ 本県における特定保健指導対象者数および終了者数の推移

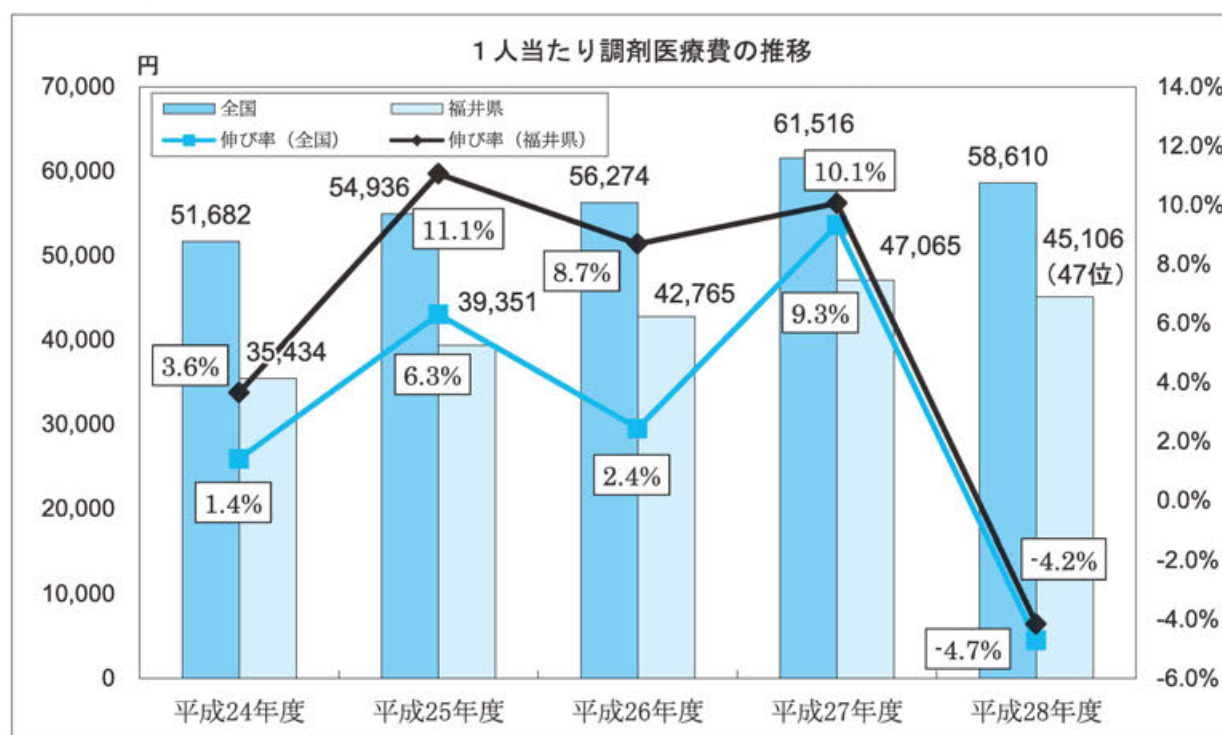
福井県	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2012～2015 年度増減
対象者数（国推計値）	28,512	25,640	27,812	27,981	▲531
終了者数	5,879	6,000	6,140	6,308	429
実施率	20.6%	23.4%	22.1%	22.5%	1.9%

出典：厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況に関するデータ」

X 調剤医療費の状況

1 1人当たり調剤医療費

2016（平成28）年度の本県の1人当たり調剤医療費は、45,106円と全国で最も低くなっています。また、2015（平成27）年度はオプジーボなどの高額薬剤の影響により、本県および全国とも約10%の伸びを示していましたが、2016（平成28）年度診療報酬改定の影響などもあり、対前年度伸び率は本県、全国ともにマイナスとなっています。



※ 診療報酬改定（24年度：薬価 ▲1.26%、26年度：▲0.58%、28年度：▲1.22%）

出典：厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向の概要」

総務省「平成27年国勢調査」、「人口推計（各年10月1日現在）」

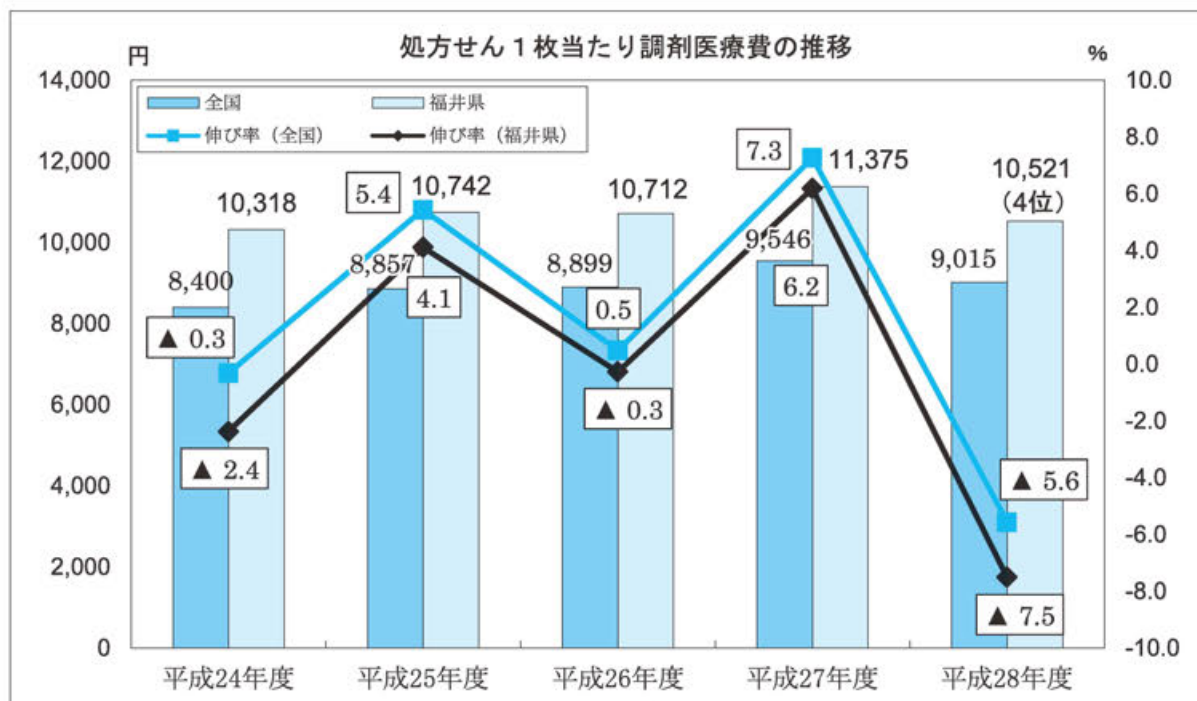
<参考> 「調剤医療費（電算処理分）の動向」について

当該調査は、審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金および国民健康保険団体連合会（全国分のとりまとめは国民健康保険中央会））からレセプト電算処理システムにより処理された調剤報酬明細書の情報の提供を受け、これらを集約することで、調剤医療費の動向及び薬剤の使用状況等を迅速に明らかにし、医療保険行政のための基礎資料を得ることを目的としている。

2 処方せん1枚当たり調剤医療費

2016（平成28）年度の処方せん1枚当たり調剤医療費は、10,521円（全国4位）となっています。

本県は1人当たり調剤医療費が低いものの、処方せん1枚当たり調剤医療費が高いことから、1回につき多量の薬剤が処方されていると考えられます。



※ 診療報酬改定（24年度：薬価 ▲1.26%、26年度：▲0.58%、28年度：▲1.22%）

出典：厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向の概要」

◆ 内服薬の処方せん1枚当たり薬剤料の3要素分解（2016（平成28）年度）

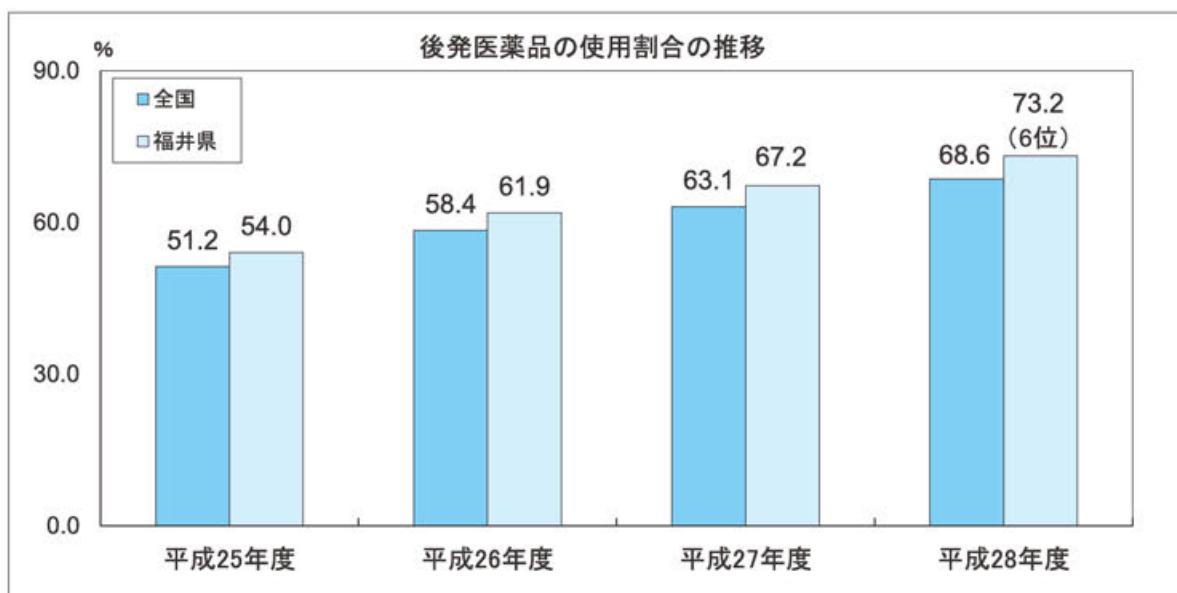
	処方せん 1枚当たり薬剤料 (円)	処方せん1枚 当たり薬剤種類数	1種類当たり 投薬日数(日)	1種類1日当たり 薬剤料(円)
福井県	6,860 (3位)	3.04	25.9	87
全国	5,548	2.83	23.1	85

出典：厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向の概要」

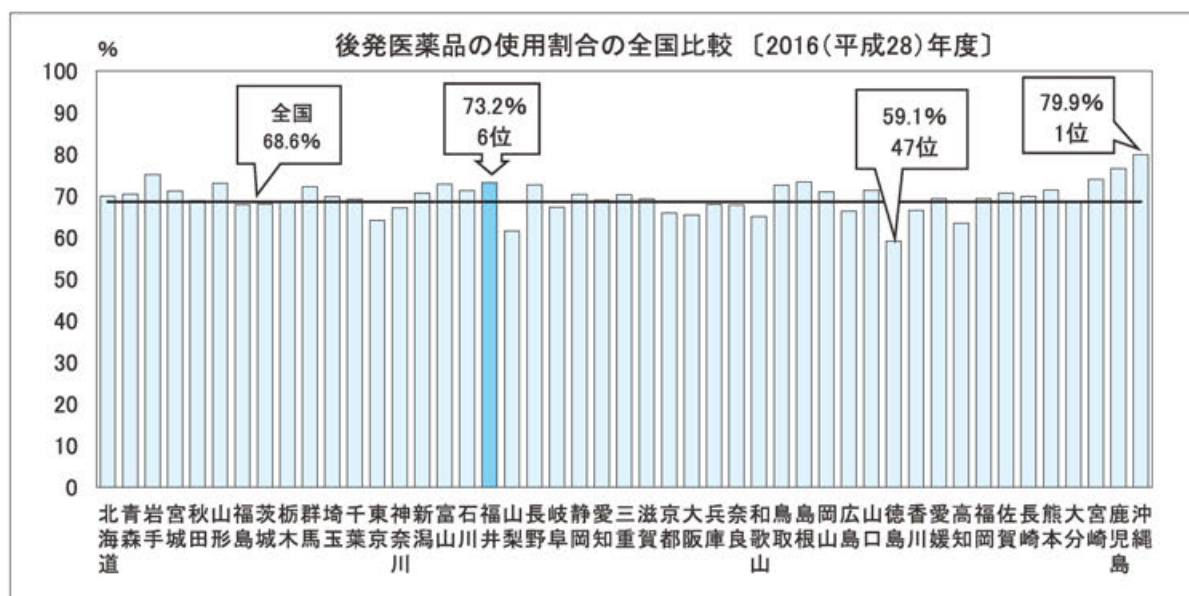
3 後発医薬品の使用割合

本県の後発医薬品の使用割合は増加傾向にあり、2016（平成 28）年度では 73.2%（全国 6 位）と全国平均を上回っています。

また、国の「経済財政運営と改革の基本方針 2015（骨太方針）」では、2017（平成 29）年 6 月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2017（骨太方針）」では、2020（平成 32）年度 9 月までに 80%とする目標が掲げられています。



出典：厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向の概要」



出典：厚生労働省「調剤医療費（電算処理分）の動向の概要」

4 後発医薬品（入院）切替効果額

2013（平成 25）年 10 月診療分のレセプトを対象とした厚生労働省の「ナショナルデータベース（NDB）」をもとに、後発医薬品の切替効果額をみてみます。

厚生労働省「ナショナルデータベース（NDB）」〔2013（平成 25）年 10 月診療分〕

〔対 象〕 医科入院レセプト、DPCレセプト

〔集計区分〕 社保：社会保険診療報酬支払基金で審査支払がされるレセプトの集計
（健保組合、協会けんぽ、共済組合他）

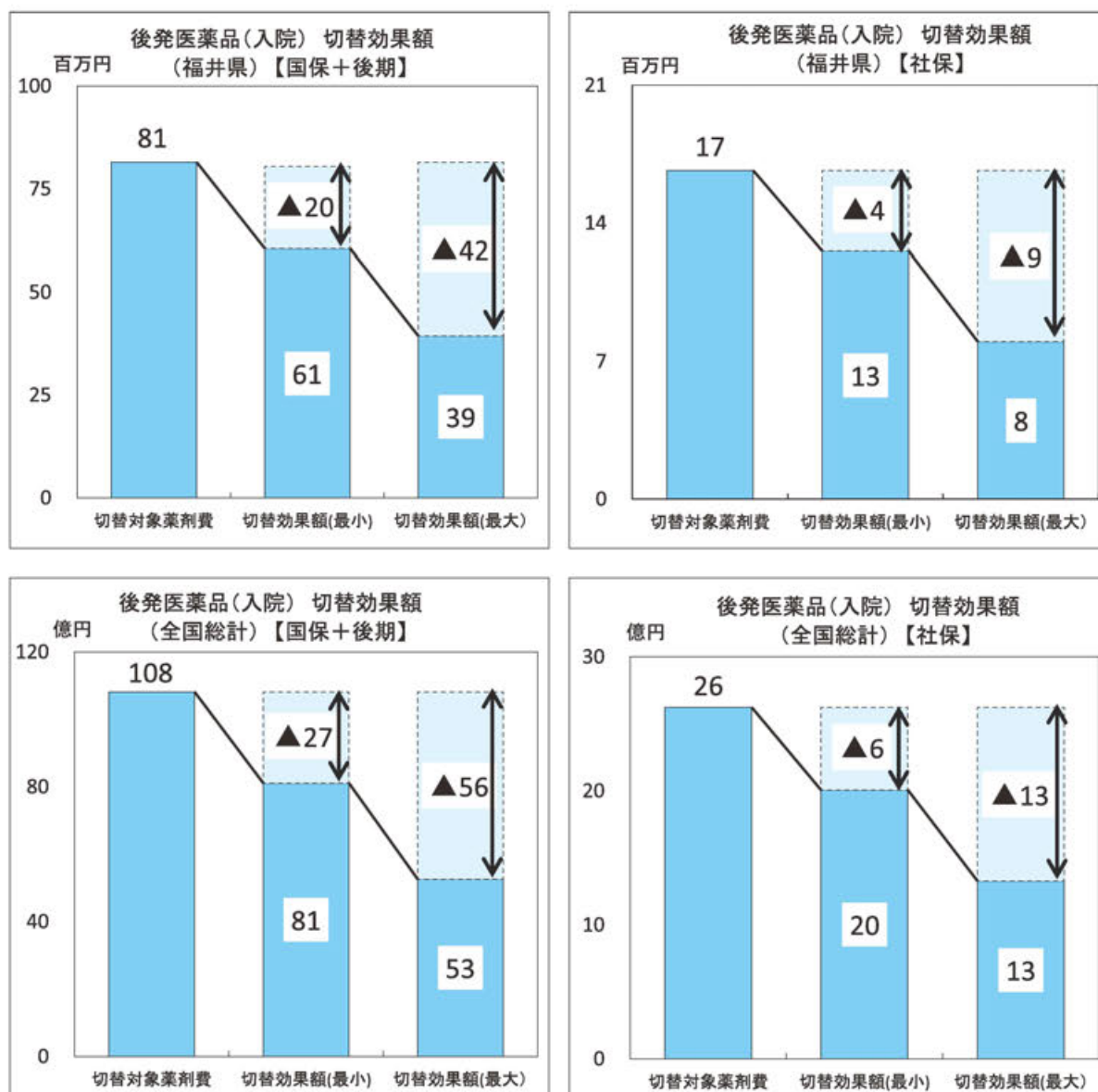
国保：国民健康保険団体連合会で審査支払がされるレセプトの集計
（市町村国保、後期高齢者医療、国保組合）

〔切替対象薬剤費〕 後発医薬品が存在する先発医薬品（切替対象）の薬価×使用量×日数

〔切替効果額（最大）〕 切替対象薬剤費 － 切替後薬剤費（薬価最小）※最も薬価が低い後発医薬品

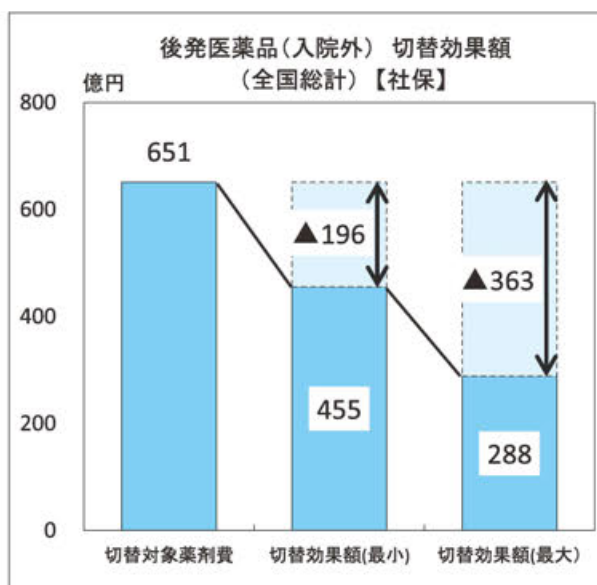
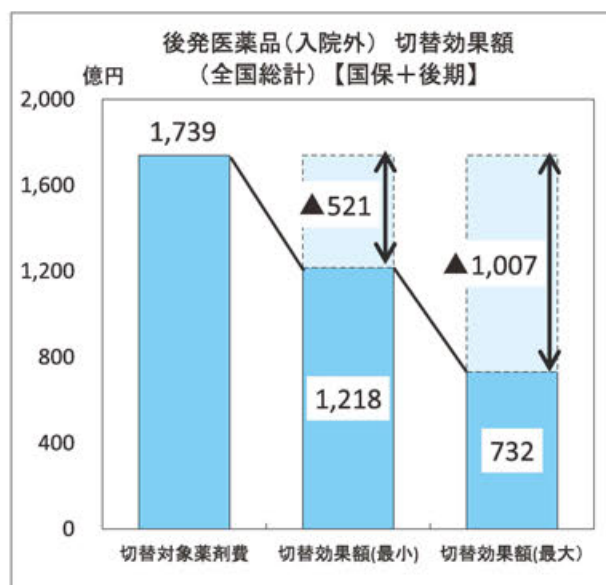
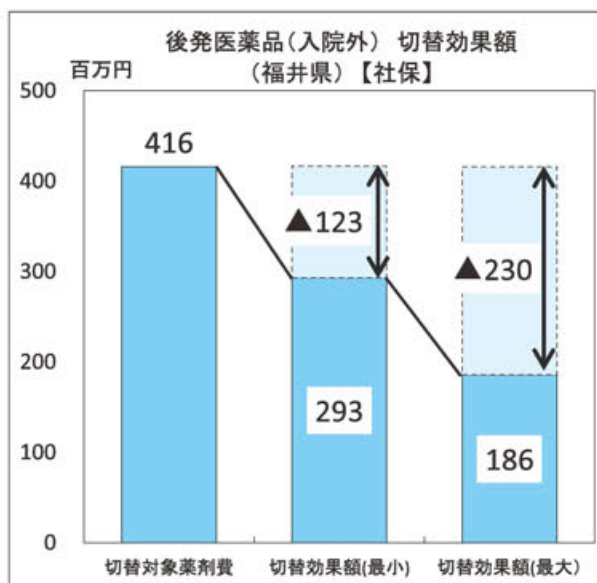
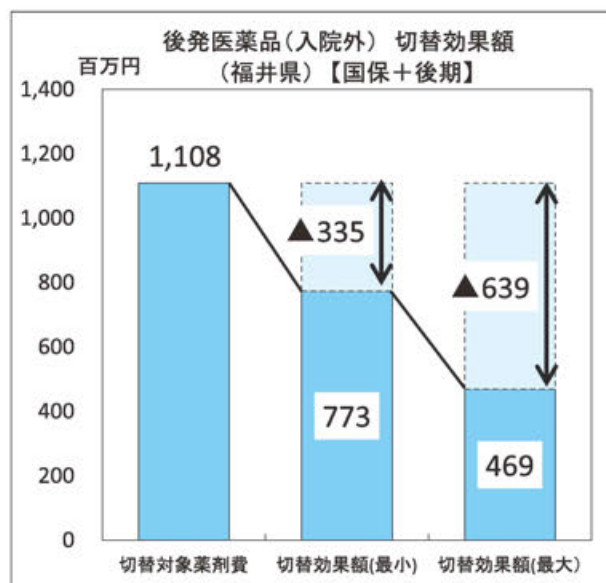
〔切替効果額（最小）〕 切替対象薬剤費 － 切替後薬剤費（薬価最大）※最も薬価が高い後発医薬品

本県において、後発医薬品（入院）が存在する先発医薬品を最も薬価が低い後発医薬品に切り替えた場合、国民健康保険と後期高齢者医療では 4,200 万円、社会保険では 900 万円の切替効果額が見込まれます。



5 後発医薬品（入院外）切替効果額

本県において、後発医薬品（入院外）が存在する先発医薬品を最も薬価が低い後発医薬品に切り替えた場合、国民健康保険と後期高齢者医療では約 6.4 億円、社会保険では約 2.3 億円の切替効果額が見込まれます。



XI 重複投与および多剤投与の状況

1 重複投与の状況

2013（平成 25）年 10 月診療分のレセプトを対象とした厚生労働省の「NDB（ナショナルデータベース）データ」をもとに、本県の重複投与の状況をみてみます。

厚生労働省「NDB（ナショナルデータベース）データ」〔2013（平成 25）年 10 月診療分〕

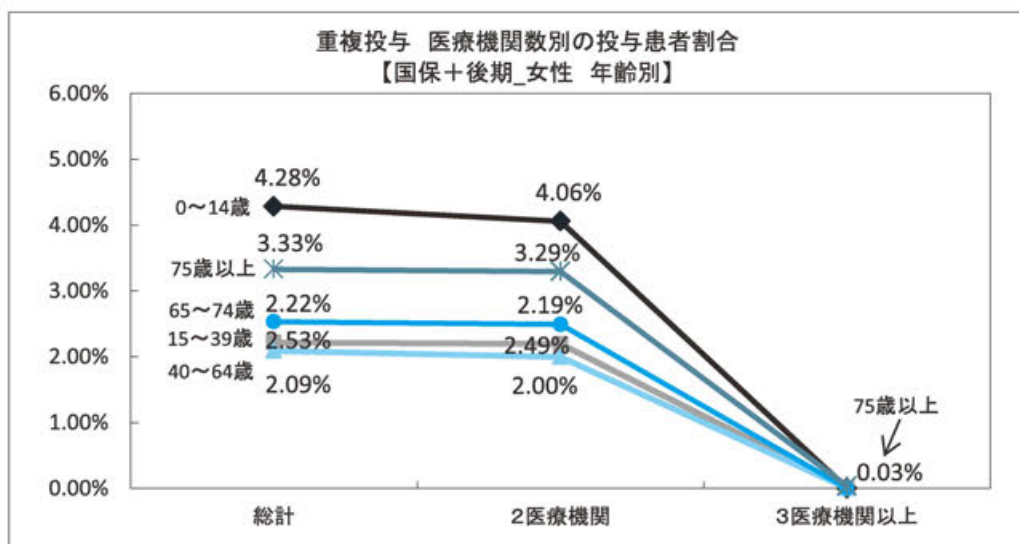
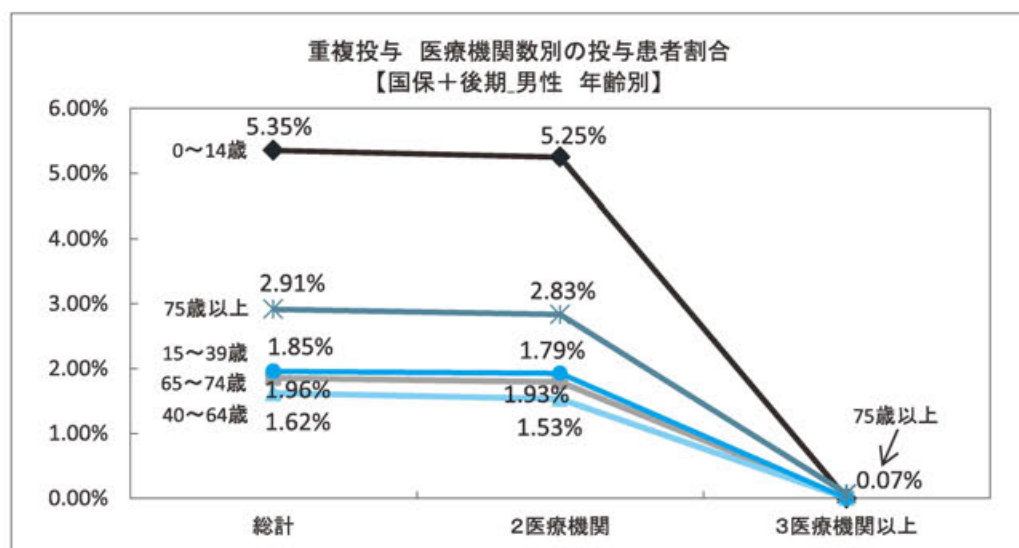
〔対 象〕 医科入院外（外来）レセプト、調剤レセプト

〔集計区分〕 社保：社会保険診療報酬支払基金で審査支払がされるレセプトの集計
（健保組合、協会けんぽ、共済組合他）

国保：国民健康保険団体連合会で審査支払がされるレセプトの集計
（市町村国保、後期高齢者医療、国保組合）

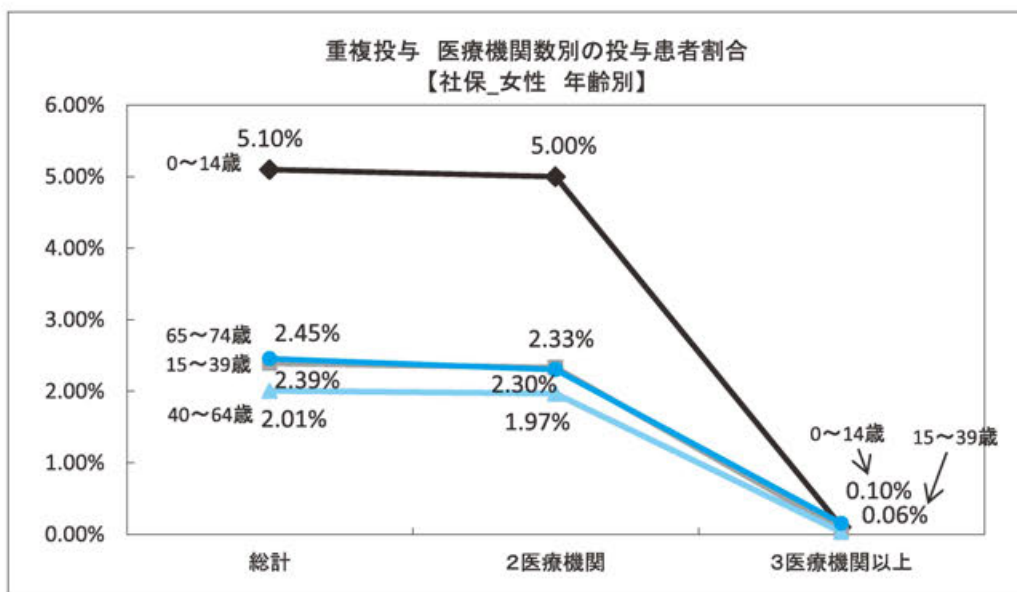
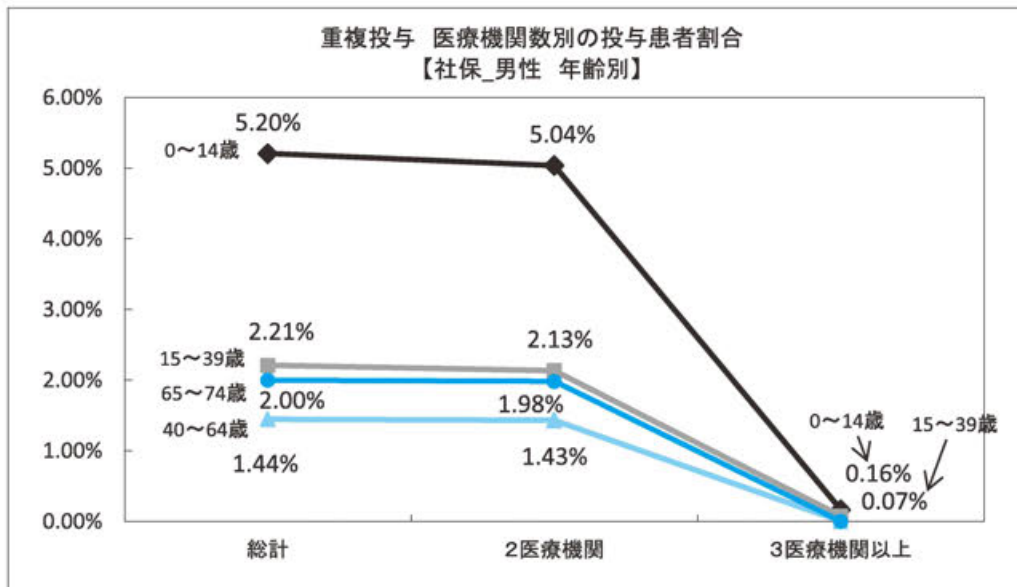
〔集計方法〕 同一成分の薬剤を投与された医療機関数について、2 医療機関、3 医療機関、4 医療機関以上の患者を抽出し、それぞれの場合の該当患者数の割合を算出

国民健康保険と後期高齢者医療を男女別、年齢階層別にみると、0～14 歳の階層において重複投与の患者の割合が最も高く、次いで 75 歳以上の階層の割合が高くなっています。また、0～14 歳野階層を除き、女性の方が重複投与の患者割合が高くなっています。



社会保険においても、0～14歳の階層を除き、女性の方が重複投与の患者割合が高くなっております。

また、国民健康保険と後期高齢者医療に比べ、3医療機関以上から同一成分の薬剤を投与された患者の割合が高くなっています。



2 多剤投与の状況

2013（平成 25）年 10 月診療分のレセプトを対象とした厚生労働省の「NDB（ナショナルデータベース）データ」をもとに、本県が多剤投与の状況をみてみます。

厚生労働省「NDB（ナショナルデータベース）データ」〔2013（平成 25）年 10 月診療分〕

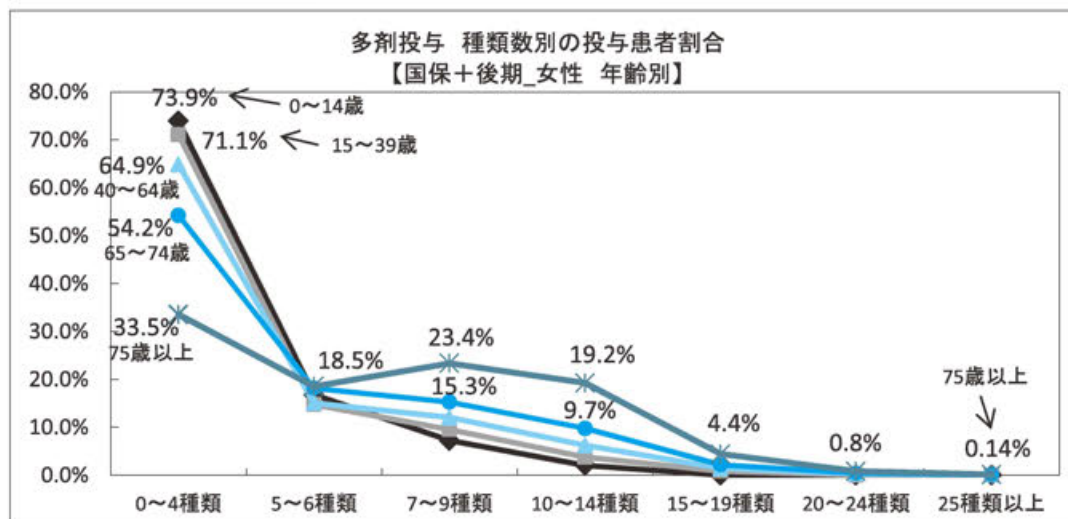
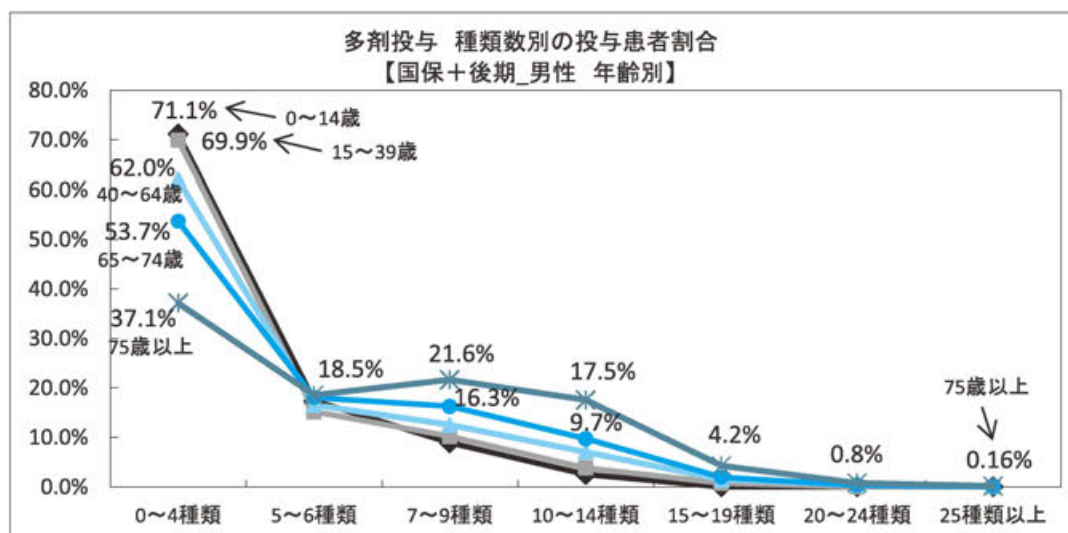
〔対 象〕 医科入院外（外来）レセプト、調剤レセプト

〔集計区分〕 社保：社会保険診療報酬支払基金で審査支払がされるレセプトの集計
（健保組合、協会けんぽ、共済組合他）

国保：国民健康保険団体連合会で審査支払がされるレセプトの集計
（市町村国保、後期高齢者医療、国保組合）

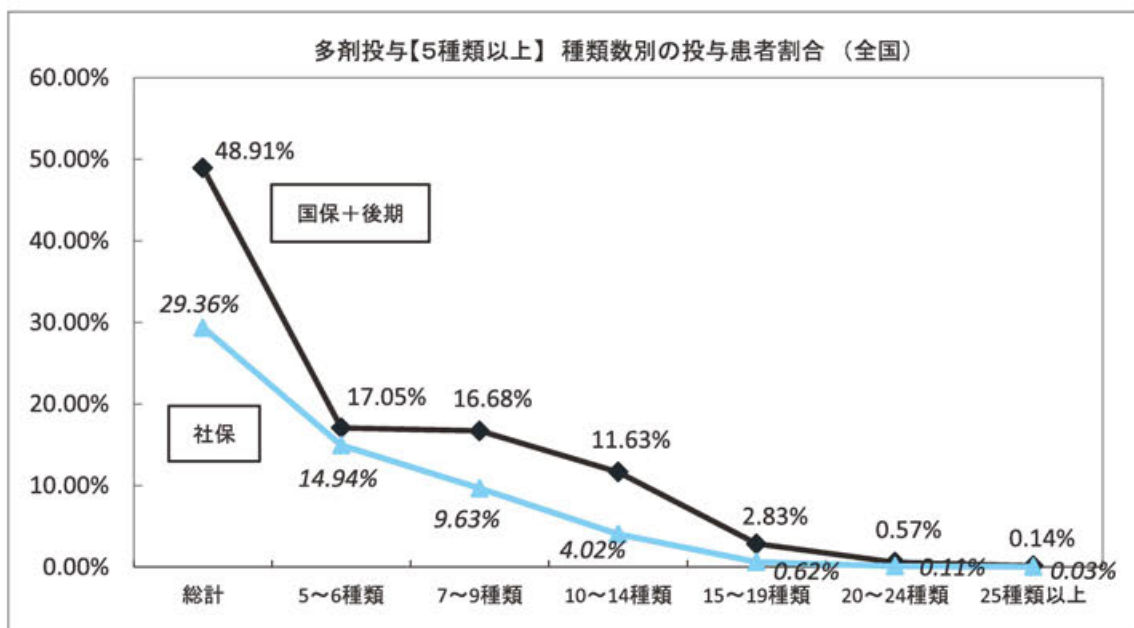
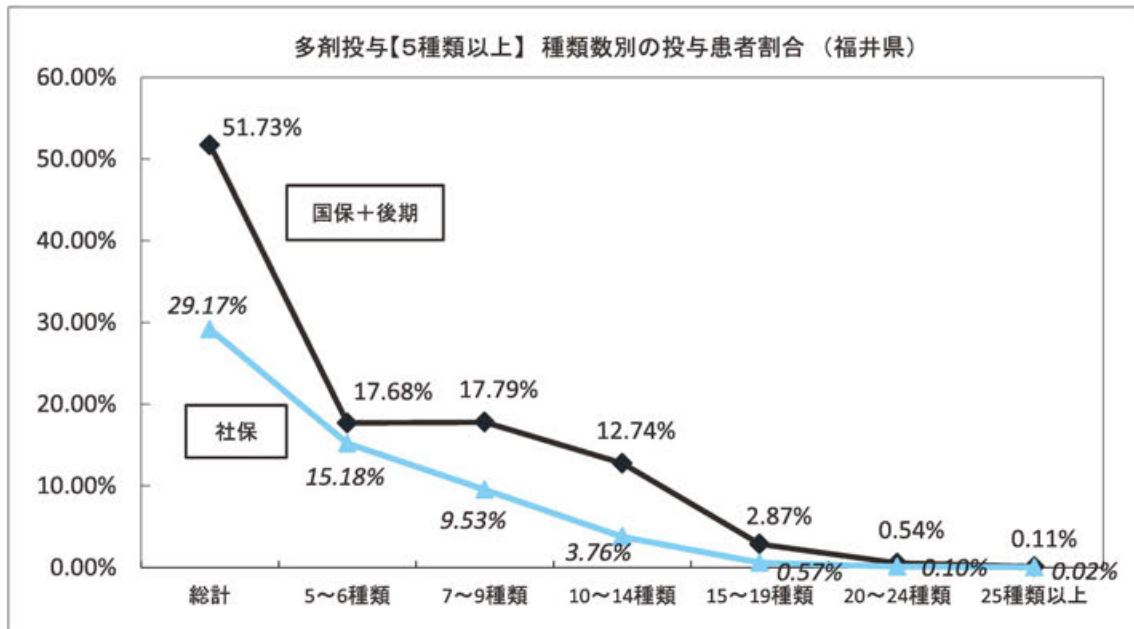
〔集計方法〕 投与された薬剤の種類数が 5～6 種類、7～9 種類、10～14 種類、15～19 種類、20～24 種類、25 種類以上投与されている患者を抽出し、それぞれの場合の該当患者数の割合を算出

国民健康保険と後期高齢者医療を男女別、年齢階層別にみると、男女ともに 75 歳以上の階層において、5 種類以上投与されている患者の割合が最も高くなっています。また、6 種類以上になると、転倒などにより要介護と認定されるリスクが 2.4 倍高まるという研究結果もあることから、適切な服薬管理が重要といえます。



被保険者の年齢構成が高い国民健康保険と後期高齢者医療をみると、5種類以上の薬剤を投与されている患者の割合が約51.7%となっており、社会保険の約1.8倍となっています。また、7～9種類の薬剤を投与されている患者の割合が最も高くなっています。

また、社保は全国平均をやや下回っていますが、国保と後期は全国平均をやや上回っています。



XI 重複受診および頻回受診の状況

1 重複受診の状況

2013（平成 25）年 10 月診療分のレセプトを対象とした厚生労働省の「NDB（ナショナルデータベース）データ」をもとに、本県の重複受診の状況をみてみます。

厚生労働省「NDB（ナショナルデータベース）データ」〔2013（平成 25）年 10 月診療分〕
〔対 象〕 医科入院外（外来）レセプトのうち、以下の疾患に該当する傷病名が記載された
レセプト、および医科レセプト（外来）に紐付く調剤レセプト

胃の悪性新生物	アルツハイマー病	慢性閉塞性肺疾患
結腸及び直腸の悪性新生物	眼及び付属器の疾患	喘息
気管、気管支及び肺の悪性新生物	高血圧性疾患	食道、胃及び十二指腸の疾患
乳房の悪性新生物	虚血性心疾患	皮膚及び皮下組織の疾患
糖尿病	脳梗塞	下肢関節障害
脂質異常症	急性上気道感染症	骨粗しょう症
血管性認知症	肺炎	糸球体疾患、 腎尿細管性疾患及び腎不全
気分障害	急性気管支炎及び急性細気管支炎	

〔集計方法〕 医療機関数について、1 医療機関、2 医療機関、3 医療機関、4 医療機関以上の
患者を抽出し、それぞれの場合の該当患者数の割合を算出

年齢階層別、受診医療機関数別の人数割合をみると、同一疾病により 2 医療機関を受診している割合は、75 歳以上の階層が最も高くなっており、次いで 0～14 歳の階層になっています。

また、3 医療機関以上を受診している割合を見ると、0～14 歳の階層が最も高くなっており、高齢者よりも子どもが複数の医療機関を受診していることがわかります。

◆ 本県における年齢階層別、受診医療機関数別の人数割合

	受診医療機関数		
	1 医療機関	2 医療機関	3 医療機関以上
0～14 歳	94.73%	4.96%	0.22%
15～39 歳	96.88%	2.93%	0.06%
40～64 歳	96.71%	3.19%	0.07%
65～74 歳	95.34%	4.50%	0.13%
75 歳以上	94.59%	5.23%	0.16%

2 頻回受診の状況

2013（平成 25）年 10 月診療分のレセプトを対象とした厚生労働省の「ナショナルデータベース（NDB）」をもとに、本県の頻回受診の状況をみてみます。

厚生労働省「ナショナルデータベース（NDB）」〔2013（平成 25）年 10 月診療分〕

〔対 象〕 医科入院外（外来）レセプト、調剤レセプト

〔集計方法〕 受診日数について、0～4 日、5～9 日、10～14 日、15～19 日、20 日以上の患者を抽出し、それぞれの患者割合を算出

年齢階層別の平均受診日数をみると、15～39 歳の階層が最も少なくなっており、40 歳以上の階層は年齢が上がるとともに受診日数が多くなっています。

また、年齢階層別、受診日数別の人数割合をみると、75 歳以上の後期高齢者において、同一月に 5 日以上受診している割合が最も高くなっています。

◆ 本県における年齢別、受診日数別の人数割合

	平均 受診日数	受診日数				
		0～4 日	5～9 日	10～14 日	15～19 日	20 日以上
0～14 歳	1.64	96.95%	2.71%	0.23%	0.07%	0.04%
15～39 歳	1.52	97.49%	1.97%	0.34%	0.13%	0.07%
40～64 歳	1.70	95.65%	2.92%	1.06%	0.24%	0.13%
65～74 歳	2.12	91.92%	5.26%	1.96%	0.50%	0.36%
75 歳以上	2.50	88.47%	8.02%	2.28%	0.64%	0.59%

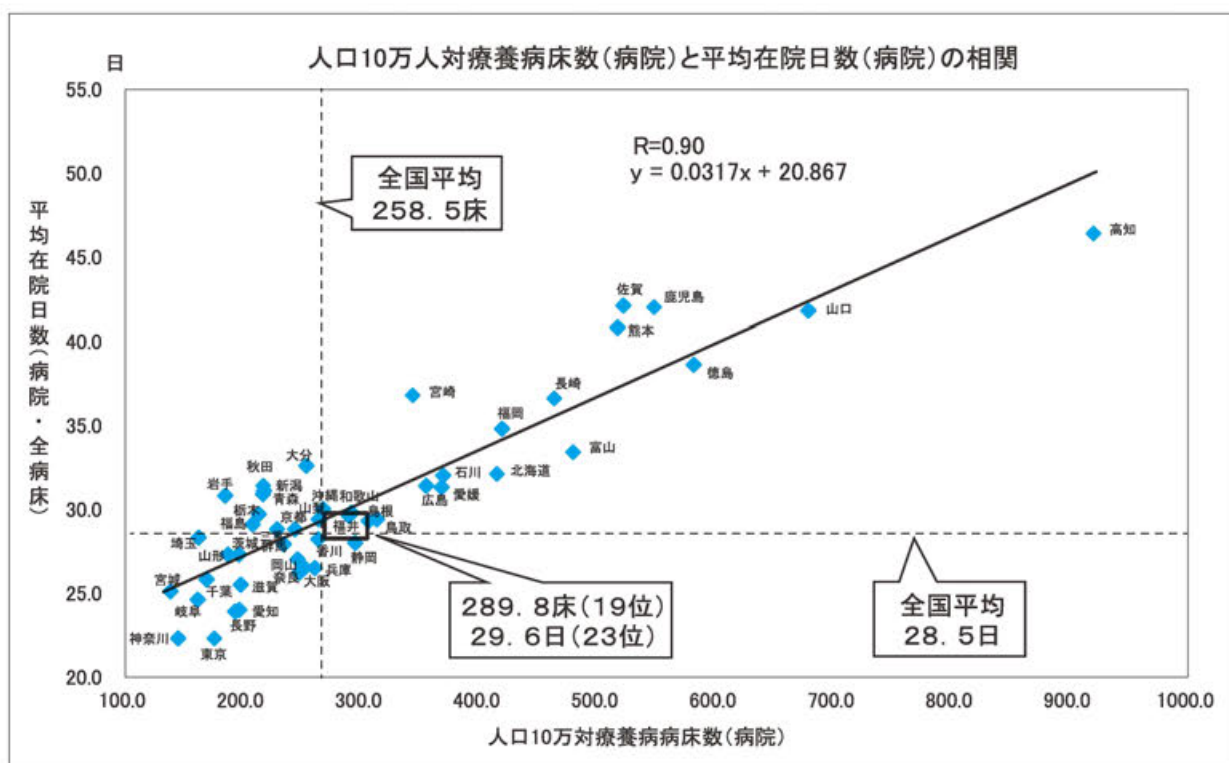
XII 平均在院日数の状況

1 全般的な状況

本県の平均在院日数（介護療養病床を含む。）は29.6日（全国23位）となっており、全国平均の28.5日を上回り、最も短い神奈川県と比べ7.3日長くなっています。これを病床種別にみると、一般病床は全国平均の16.2日を上回り、17.6日（全国18位）となっていますが、療養病床は全国平均の152.2日を下回り149.0日（全国24位）、精神病床も全国平均の269.9日を下回り243.9日（全国39位）となっています。

本県の平均在院日数が長い要因としては、病床数の多い一般病床の平均在院日数が、全国に比べ長いことが考えられます。

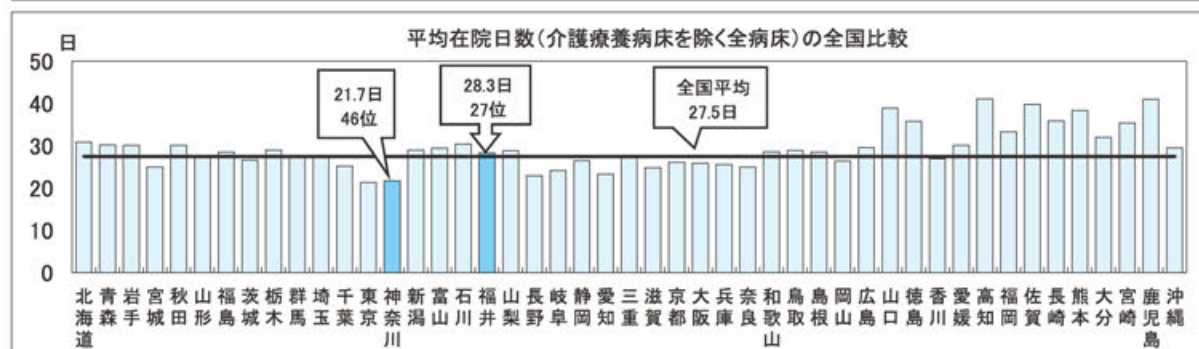
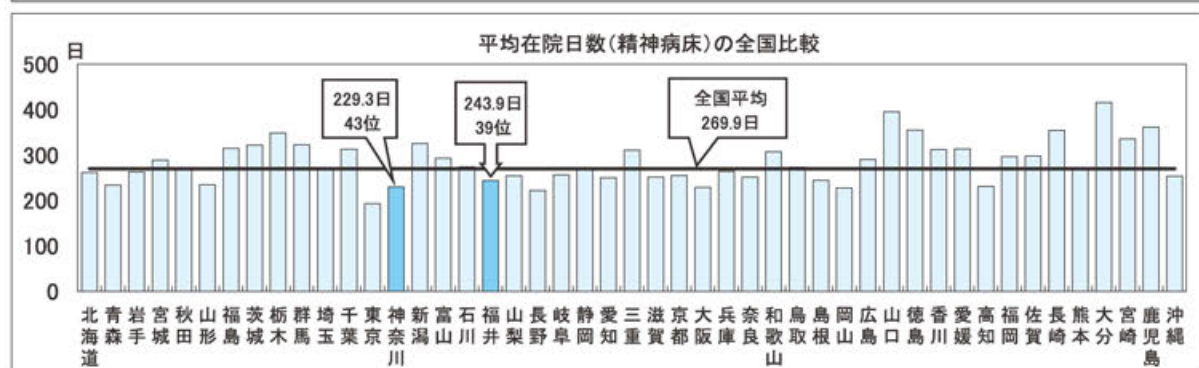
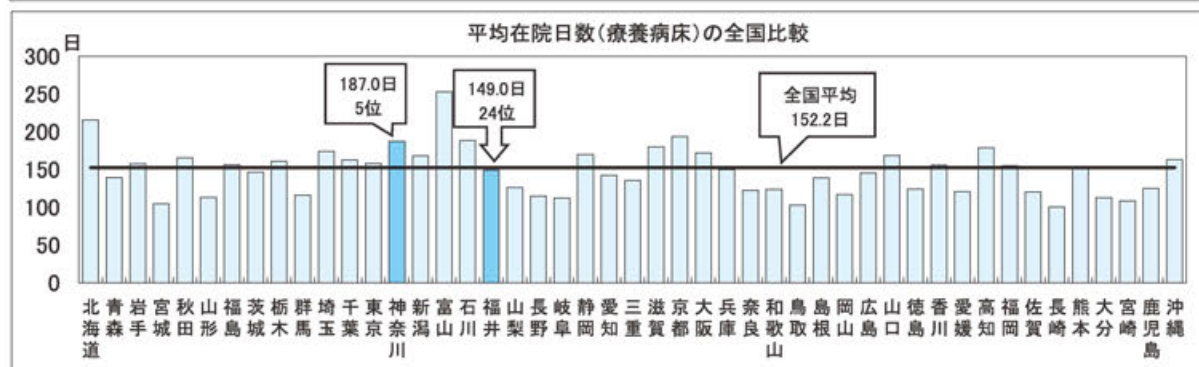
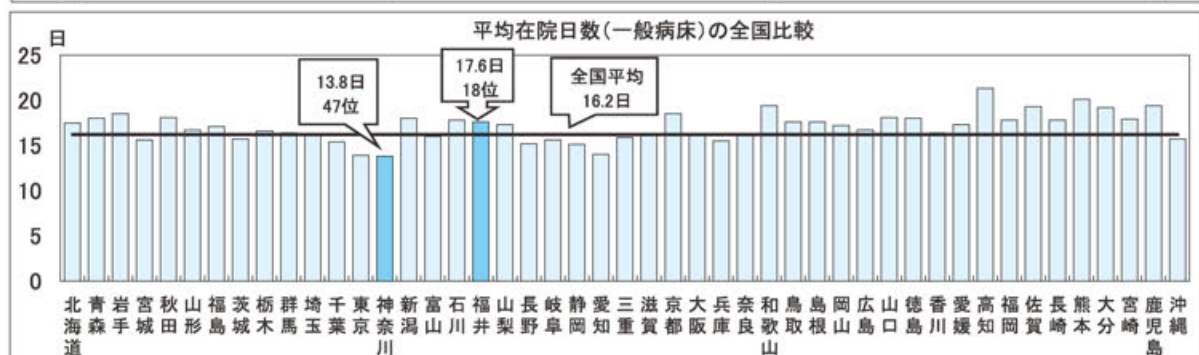
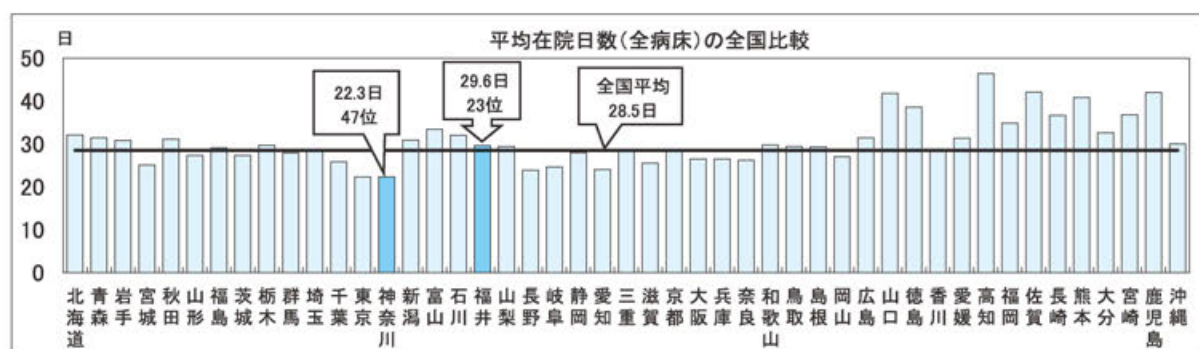
また、全国の平均在院日数と療養病床数の状況は正の相関関係にあります。



出典：厚生労働省「平成28年医療施設調査」、「平成28年病院報告」

※平均在院日数とは、病院に入院した患者の入院日数の平均値を示すもので、次の算式により算出しています。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{調査期間中に在院した患者の延べ数}}{(\text{調査期間中の新規入院患者数} + \text{退院患者数}) \div 2}$$

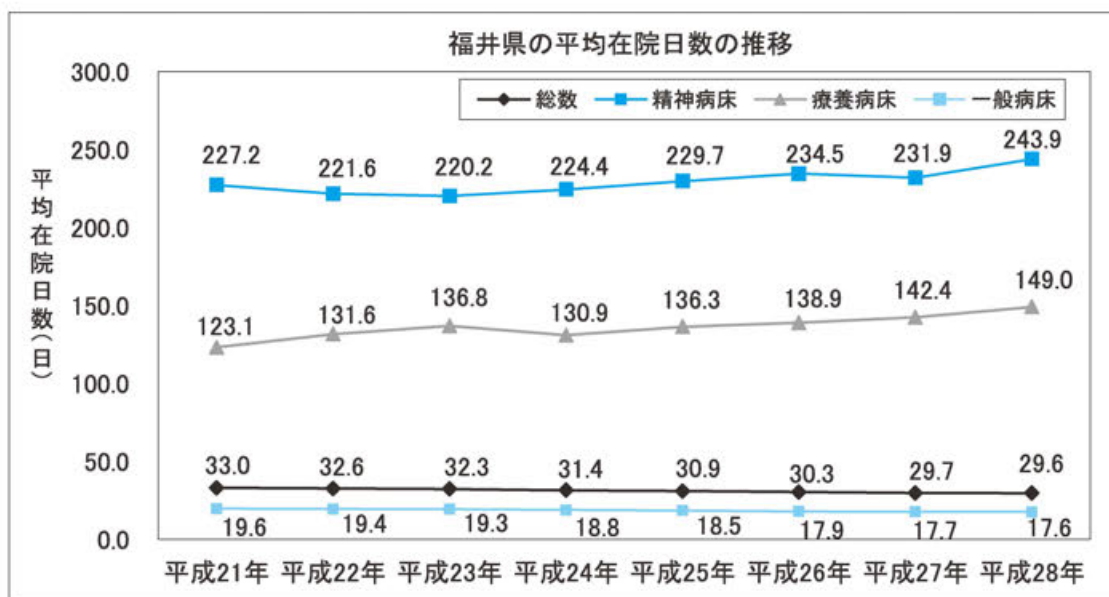


出典：厚生労働省「平成 28 年病院報告」

2 平均在院日数の推移

過去の推移をみると、一般病床の平均在院日数は短縮傾向にありますが、精神病床と療養病床については、2012（平成 24）年から長期化傾向がみられます。

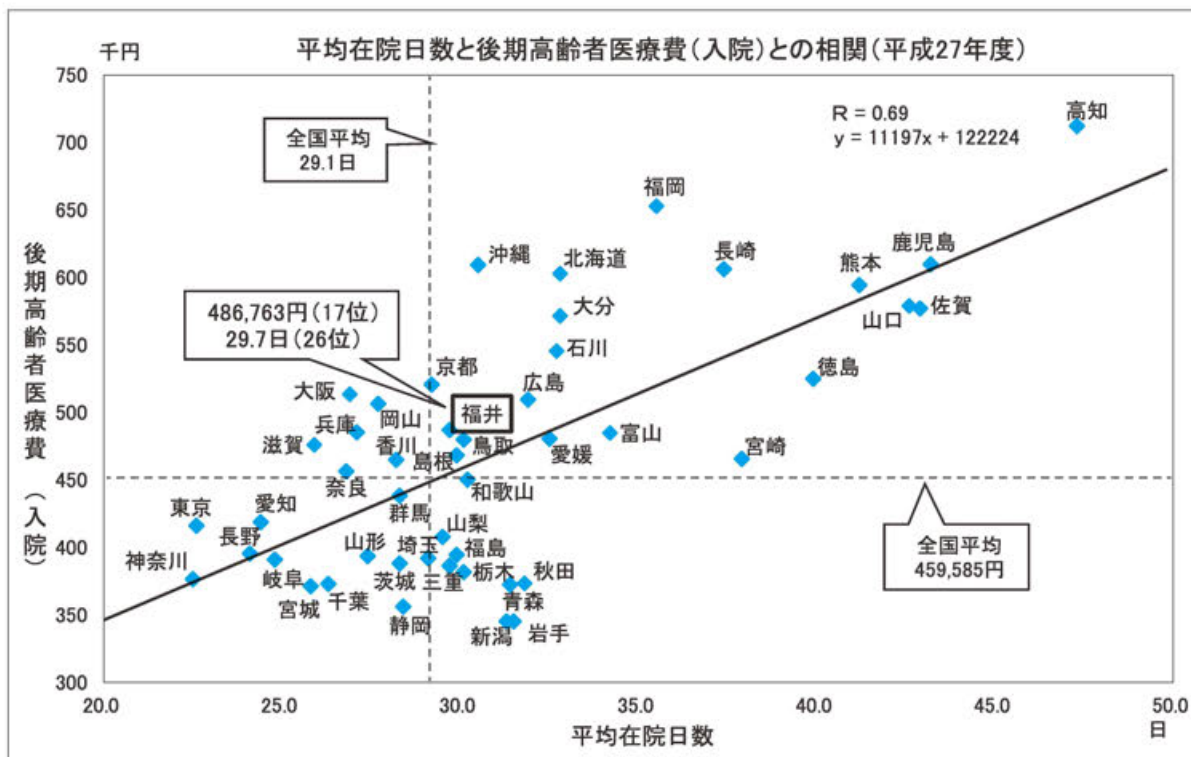
2016（平成 28）年と 2009（平成 21）年を比較すると、全病床（介護療養病床を含む。）では 3.4 日、一般病床では 2.0 日と平均在院日数が短くなっている一方、療養病床が 25.9 日、精神病床が 16.7 日長くなっています。



出典：厚生労働省「平成 28 年病院報告」

3 平均在院日数と後期高齢者医療費（入院）との関係

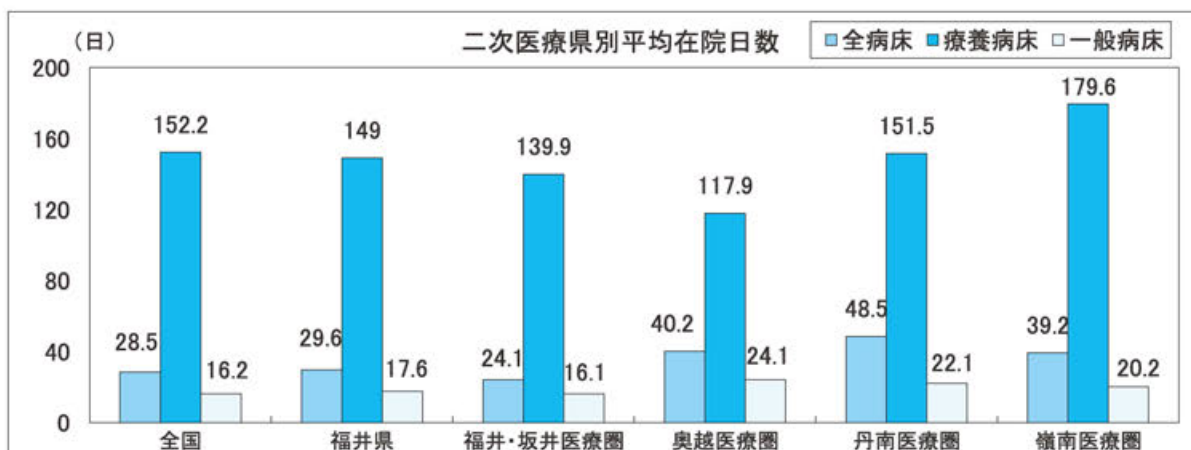
全国の平均在院日数（介護療養病床を含む。）と1人当たり後期高齢者医療費（入院）は正の相関関係にあります。本県の1人当たり後期高齢者医療費（入院）は、平均在院日数とともに全国平均に比べ高くなっています。



出典：厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」、「平成27年病院報告」

4 二次医療圏別にみた平均在院日数の状況

二次医療圏別の全病床の平均在院日数は、丹南医療圏で48.5日と最も長くなっています。また、病床別にみると、療養病床については嶺南医療圏が最も長くなっており、一般病床については奥越医療圏が最も長くなっています。



出典：厚生労働省「平成28年病院報告」

計画策定の経過、計画策定懇話会委員名簿

1 福井県医療費適正化計画策定の経過

- 平成29年 7月 第1回福井県医療費適正化計画策定懇話会
- 平成29年11月 第2回福井県医療費適正化計画策定懇話会
- 平成30年 2月 県民パブリックコメントの実施
- 平成30年 3月 第3回福井県医療費適正化計画策定懇話会

2 福井県医療費適正化計画策定懇話会委員名簿

区 分	氏 名	所 属 役 職 名 等
学識経験者	〔座長〕 戎 利光	福井工業大学スポーツ健康科学部 学部長・主任教授
地域医療	大中 正光	一般社団法人 福井県医師会 会長
	齊藤 愛夫	一般社団法人 福井県歯科医師会 会長
	高畠 栄一	一般社団法人 福井県薬剤師会 会長
	樋村 禎子	公益社団法人 福井県看護協会 会長
介護事業者	松井 一人	有限会社 ほっとリハビリシステムズ 代表取締役
保険者	畑 秀雄	全国健康保険協会福井支部 支部長
	水上 浩美	福井県国民健康保険団体連合会 事務局次長
被保険者	田村 洋子	福井県連合婦人会 会長
	藤本 澄子	一般財団法人 福井県老人クラブ連合会 副会長

(敬称略)